

小金井市長期計画審議会（第4回）次第

日時 令和元年8月21日（水）午後7時00分から
場所 小金井市役所本庁舎第一会議室

【次第】

- 1 政策の取組方針について
 - (1) 地域・経済
 - (2) 子ども・教育
 - (3) 文化・生涯学習
 - (4) 行政経営

- 2 市民懇談会について

- 3 次回以降の開催日について

- 4 その他

【配布資料】

別紙配布資料一覧のとおり

小金井市長期計画審議会

配付資料一覧

	No.	資料名	備考	
第1回 (6月28日)	1	小金井市長期計画審議会の運営等について(案)		
	2	小金井市市民参加条例、同施行規則(抜粋)		
	3	小金井市附属機関等の会議に関する傍聴要領		
	4	意見・提案シート		
	5	基本構想・基本計画について		
	6	小金井市長期総合計画策定方針		
	7	小金井市長期総合計画討議要綱		
	8	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年6月28日現在)		
	9	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール(案)		
	10	審議会・起草委員会の役割(案)		
	11	市報(抜粋)		
	冊子		第4次基本構想・後期基本計画	
	冊子		第4次基本構想・後期基本計画(概要版)	
	冊子		小金井市人口ビジョン 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略(概要版)	
	冊子		こがねいデータブック	
	冊子		平成30年度小金井市市民意向調査報告書	
	冊子		わたしの便利帳	
第2回 (7月12日)	12	新たな計画策定に向けた意見書(写)		
	13	第5次小金井市基本構想・前期基本計画の構成と検討の進め方(案)		
	14	第5次小金井市基本構想(素案)		
	15	将来像について		
	16	まちづくりの基本姿勢について		
	17	意見シート(委員用)		
第3回 (8月7日)	9-2	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール(案)		
	13-2	第5次小金井市基本構想・前期基本計画の構成と検討の進め方(案)		
	8-2	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年8月7日現在)		
	18	起草委員会委員(案)		
	19	小金井市長期計画起草委員会設置要綱(案)		
	20	第5次小金井市基本構想「6政策の取組方針」のイメージ		
	21	第5次基本構想政策シート(環境・都市基盤、福祉・健康)		
	22	第4次基本構想・基本計画取組状況の振り返り (環境と都市基盤、福祉と健康)		
	23	SDGsについて		
	冊子		小金井市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書(概要版)	
第4回 (8月21日)	8-3	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年8月21日現在)		
	24	第3回小金井市長期計画審議会メモ(委員提出資料)		
	25	基本構想・基本計画の構造について		
	21-2	第5次基本構想政策シート (地域・経済、子ども・教育、文化・生涯学習、行政経営)		
	22-2	第4次基本構想・基本計画取組状況の振り返り (地域と経済、文化と教育、計画の推進)		
	26	市民懇談会について		

**小金井市長期総合計画策定に当たっての
市民意見まとめ
(令和元年8月21日現在)**

(参考) 各市民参加機会の結果

目次

6 高校生世代ワークショップ(アオハルカイギ)

7 1839会議

8 事業者・団体ヒアリング



次頁以下

高校生世代ワークショップ「アオハルカイギ」 報告書

令和元年
小金井市

目次

1. 実施概要	1
(1) 目的.....	1
(2) 開催概要.....	1
(3) プログラム.....	1
2. 結果	3
(1) 高校生世代が考える小金井市の若者向けコンテンツ.....	3
(2) 高校生世代が考える付加価値.....	6
(3) 当日のグループワークの成果.....	10
(4) 小金井市の魅力と発信方法.....	13

1. 実施概要

(1) 目的

○高校生世代(市内高等学校の生徒を含む)を対象として、大人になっても小金井市に住み、また訪れる人を増やすため、小金井市の魅力とその発信方法を検討してもらった。

(2) 開催概要

- 開催日時 令和元年7月17日(水)17時～19時30分
- 開催場所 市民会館萌え木ホール
- 参加人数 30名

(3) プログラム

○6名のグループに分かれ、「コンテンツの集積がテーマを形成し、そのテーマに付加価値が付与されることでコンテンツが魅力になる」という前提を共有した上で、以下の流れで小金井市の魅力と発信方法を考えた。

- ①高校生・大学生に向けた小金井市のコンテンツ(既にあるもの)を考える
- ②コンテンツを分類し、テーマを抽出する
- ③テーマを選定し、付与する付加価値を考える
- ④魅力になりうるテーマとコンテンツを選択し、発信方法を考える



【ワークショップのテーマ】(当日のスライドより)

若い人たちが
小金井に遊びに訪れ
住みたいと思うようになる
まちの魅力

【ワークショップにおける魅力の定義】(当日のスライドより)

コンテンツ
↓
テーマ
×
付加価値
↓
魅力

2. 結果

(1) 高校生世代が考える小金井市の若者向けコンテンツ

■グループ1

テーマ	コンテンツ	
自然系(?)	○野川 ○小金井公園	○くじら山 ○ゴミの分別が細かい
小金井オンリー	○江戸東京たてもの園 ○宮地楽器ホール ○こきんちゃん	○ジブリ ○阿波踊り ○日本の「とき」が生まれるまち
レストラン・ショップ	○野菜の直売所 ○ルバーブ ○ぎょうざの王将 ○nonowa	○小金井市の野菜 ○中華料理屋が多い ○東小金井駅周辺の個人経営の店
駅周辺	○武蔵小金井からいっぱいバスが出ている ○東小金井駅北側の新しい施設(?)	
学校	○東京学芸大学	○たくさんの高校がある
市の施設等	○図書館 ○学童保育所 ○地域密着型の活動 ○警察と協力した活動	○貫井北町の公民館 ○ミニコ ○市内のNPO法人の活動
その他	○地震の被害が少ないらしい ○治安が良い	

■グループ2

テーマ	コンテンツ	
食べ物	○駅近くの店 ○古い商店街 ○コンビニが多い	○食べ物類がたくさんある ○ドンキ ○BBQができる
観光地	○野川 ○江戸東京たてもの園 ○黄金の水 ○遺跡	○小金井公園 ○武蔵野公園 ○さくら ○はけの森美術館
自然	○崖 ○すずめ	○のらねこ ○ルバーブ
象徴	○ジブリ ○阿波踊り	○こきんちゃん ○市の歌
ネガティブ	○ゴミ収集所を他市に頼っている ○廃墟になった西友跡	
交通	○始発電車がある ○駅がきれい・広い	○道路がきれい

テーマ	コンテンツ	
施設	○小金井市民ホール ○豊富な高校・大学 ○ボウリング場	○図書館がある ○多磨霊園
時間	○日本の「時」	○標準時が生まれる

■グループ3

テーマ	コンテンツ	
自然	○小金井公園 ○玉川上水 ○湧水 ○小金井桜 ○プチ田舎	○江戸東京たてもの園 ○仙川 ○黄金の水 ○小さな公園 ○農場
祭り	○阿波踊り ○貫井ばやし	○市民祭り
交通	○武蔵小金井駅 ○CoCo バス	○駅前広場 ○始発で終点
食	○ラーメン ○地産地消 ○地場野菜給食	○畑 ○江戸東京野菜
教育	○学校が多い ○児童館	○学生向けの施設
その他	○治安がよい	○老若男女が住んでいる



■グループ4

テーマ	コンテンツ	
環境	○江戸東京たてもの園 ○野川 ○空気がきれい ○民家 ○坂	○はけの道 ○公園がたくさんある ○ゴミは少ない ○多磨霊園
安心第一	○地震の被害が少ない ○避難所が多い ○歩いて1時間以内に避難できる	○地盤が固い ○坂上は浸水被害が極小
利便性	○中央線が通っている ○自転車基本どこでも行ける ○発車音	○バスが多い ○車両基地 ○通学の起点
駅前	○ヨーカドーでいたい揃う ○阿波踊り	○駅前にくる屋台的なやつ ○メガドンキ
麺類	○ラーメン屋がおいしい	○大勝軒
時間	○日本の「時」	○日本の時間をつくっている(NICT)
キャラ	○こきんちゃん	

■グループ5

テーマ	コンテンツ	
自然	○小金井公園 ○はけの森美術館 ○黄金の水がおいしい ○ホテルがいた	○江戸東京たてもの園 ○玉川上水が好き(自然な自然) ○坂が多い ○キンヒバリの里
桜	○コガネザクラ ○桜まつり	○多磨霊園
祭り	○阿波踊り ○祭りが多い	○ミニコ
駅	○駅が広々してよい(ふわふわしてる? 平和感) ○1駅で何でもそろ(中央線の駅) ○ケーキ・美容院がたくさんある ○駅の近くにおかし屋さんが多い ○カフェやパン屋など、個人経営の店が増えてきた	
交通	○武蔵小金井はバスが多い	○交通の便が良い
商業施設	○スーパーが多い ○プリクラ機がある	○カラオケが安い
学校	○大学・高校が割と多い	○頭のいい学校が多い
公共施設	○文化交流センター	○次週スペースが充実している
その他	○こきんちゃん ○家がのびのびしている雰囲気	○地蔵が多い

(2)高校生世代が考える付加価値

■グループ1

テーマ	付加価値
自然系(?)	○阿波踊りを公園でもやる ○公園での祭りの規模を大きくする
小金井オンリー	○ジブリがあることをもっと宣伝する ○ジブリマップをつくる ○SNSでジブリのシーンと同じ景色を投稿し、ハッシュタグをつけてジブリマップと連動させる ○スタンプラリーをする
レストラン・ショップ	○店をレビューするPOPをつくる(市民が協力する) ○若者を惹きつけるようなメニュー ○市長がツイッターでおもしろいツイートをして、同時にグルメなどを宣伝する
駅周辺	○広告効果の活用(駅の広告など) ○バスの本数を増やす ○最終便を遅くする ○駅×学校のコラボ
学校	○学生がSNSリポーターになる(バイト?)
市の施設等	○図書館(自習スペース、wi-fi、遅くまで開館している) ○大きな図書館 ○学校×施設
その他	○逆に大きな活動(利益だけを求めた活動等)をしない

■グループ2

テーマ	付加価値
食べ物	○イベント(フェスなど) ○小金井うまいものフェス! ○駅前が発展 ○ドンキ裏の道に飲食店を集める ○安さ ○タピオカ
観光地	○インスタを使用して宣伝する ○インスタ映え ○YouTube ○ガイドブック ○着物
自然	○知名度を上げる
象徴	○花火 ○小学校で歌う
ネガティブ	○服屋
交通	○アーケードをつくる ○中央特快を止めてほしい
施設	○お笑い芸人を呼ぶ ○バンド ○しゃべりながらできる自習室が欲しい
時間	○科学技術館

■グループ3

テーマ	付加価値	
自然	○のらねこ ○ホタル ○収穫体験 ○市の狭さを活かす ○AR×公園→観光客 ○空き地を整備	○アスレチック ○星空観察 ○ルバーブ収穫→ジャムづくり体験 ○ウォーキングフェスタ ○ジブリとコラボ ○坂道を活かしたもの
祭り	○花火 ○ARによる演出	○インスタ映え
交通	○レンタル自転車 ○小金井公園向けの無料シャトルバス ○夜遅くまで CoCo バスを運行	○自転車専用道路
食	○食べ歩き ○地場野菜を使ったスイーツ ○グルメラリー	○パンフレットで食の特集 ○食レポ・レビュー ○suicaを使えるようにする
教育	○学校じゃない学び ○外国人向けの学校 ○自習室	○校外イベントを充実させる ○フリースペース ○運動場(スポーツセンター)

■グループ4

テーマ	付加価値	
環境	○市の特色を広告 ○それぞれの坂の整備 ○坂下テーマパーク ○ジブリのスタッフロールで参考になった小金井の写真を載せる ○親子イベント(バードウォッチング、自然に触れるなど)	○小金井が舞台の映画をつくる ○小金井坂 46 ○SNSジャック
安心第一	○安全であることをPR	
利便性	○「もしも武蔵小金井駅がなかった…」という何かをつくる ○高架下の開発(サバイバルゲーム会場など) ○鉄オタイベントの開催 ○無料の駐輪場	○JR博物館 ○特別快速を止める
駅前	○駅中を充実させる ○駅の周りに屋根付きのイスを設置する ○クレープ屋	○「○○」ストリートをいくつもつくる ○タピオカ
麺類	○小金井麺類ガイドブック ○R(ラーメン)-1グランプリ ○評論家にテレビで言ってもらう	○グルメマスター的な人を巡る旅 ○「ブラタモリ」に出す
時間	○ドラえもんとコラボ	○公立学校の指導内容に含める

テーマ	付加価値	
キャラ	<ul style="list-style-type: none"> ○有名声優に吹き替える ○SNS進出 ○YouTube進出 	<ul style="list-style-type: none"> ○着ぐるみをつくって祭りに進出 ○テレビ進出 ○ハリウッド映画
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○無料で安全な次週スペース ○キャンパスツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校のバスツアー ○大学・高校交流戦



■グループ5

テーマ	付加価値
自然	<ul style="list-style-type: none"> ○インスタ映えスポット ○ホテル復活 ○絶滅危惧種のキンヒバリをもっと推すべき ○ジブリ風のSNS映えとか ○安くレンタルできる電動自転車コーナーをつくる
桜	<ul style="list-style-type: none"> ○ものすごく豪華なイルミネーションをつくる ○桜まつりで色んな有名なキャラクターとコラボ ○小金井公園の夜桜をライトアップ(もっと人が来ると思う) ○おばけやしき
祭り	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の祭りをもっとやる(小金井公園で) ○インスタ映えを狙ってもう一工夫 ○市民でも知らない祭りがあるので、もっと宣伝してほしい
駅	<ul style="list-style-type: none"> ○高架下をもっと活用して様々なお店を呼び込む ○武蔵小金井の改札前に学生をひきつける店を入れる ○駅構内にコンビニがあったら便利 ○西友の入っていたビルを活用する ○ジャノメ通りの整備 ○おかしめぐりの旅 ○学校帰りに友達とよれるカフェがほしい ○おかし屋さんやルバーブとか特産品を使ってもらう
交通	<ul style="list-style-type: none"> ○CoCoバス以外に市内を通るバスが欲しいor本数を増やす ○歩道橋をつくる
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ○西友の裏の道にもっと飲食店を増やす ○何でもいいから有名店を誘致する ○アニメイトかブックオフ ○タピオカ屋さん ○駅周りで食べ歩きできるような店が欲しい
学校	<ul style="list-style-type: none"> ○学生向けのお店を増やす ○学校の購買で、自営業のお店をたくさん入れてもらう
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と話し合っても大丈夫な自習室が欲しい ○西友跡を自習室か遊び場にして欲しい ○図書館の開館時間を延ばす ○武蔵野の森総合スポーツプラザみたいな、スポーツ大会もできてコンサートもできる施設
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○こきんちゃんがゆるキャラコンテストで優勝できるようにする ○アンパンマンのコキンちゃんとかきんちゃんをコラボさせる ○小金井出身のかわいい人とカッコいい人をYouTubeでアピール ○小金井市のいいところ巡り、ツアー、スタンプラリー

(4)小金井市の魅力と発信方法

■テーマ=コラボ、コンテンツ=市内にある駅、施設、学校等

○市内に多くの学校が存在しているので、それらに通っている学生と共に市や駅、市の施設などをコラボして町の魅力を発信していく。

■テーマ=飲食店、その他の店、コンテンツ=個人の店

○市長がtwitterでユーモアや面白さを追加しつつ(河野太郎みたいな)、地元の店を宣伝してみる。

○市長以外でも市と正式に契約した高校生がSNS上で(自由度高目で)活動し、上記の市長と同じように個人の店をアピールする

○地元学生が店先にPOPのようなものを寄せる。

■テーマ=小金井オンリー、コンテンツ=小金井公園、江戸東京たてももの園、あわおどり、ジブリ

○江戸東京たてももの園とジブリをコラボさせる。(スタンプラリーなど)

■テーマ=小金井オンリー、コンテンツ=ジブリ

○市内にスタジオを構えるスタジオジブリのキャラクターなどを活用し、アナログなスタンプラリーとSNSを組み合わせると広い世代に発信でき、集客が得られる。

■テーマ=レストラン・ショップ・地産地消、コンテンツ=中華料理屋・南側の店・nonowa

○市民や周辺の高校生にお店のPOP、レビューを作ってもらう。そのレビューを見た他高の生徒がSNSにのせる。。さらにそれが拡散されて他市・他県へ届き、他市からも他県からも小金井市でしか食べられない食べ物に食いつく。

■テーマ=市の施設の充実、コンテンツ=図書館

○規模を拡大して、幅広い年齢層の人が利用できる様な、市民活動の拠点にする。

○学生が夜遅くまで勉強や調べ物に利用できる、滞在型の図書館が市内にもっと沢山できたら良いと思う。

■テーマ=自然、コンテンツ=AR

○小金井公園などにQRコードを設置し、スマートフォンで読み取ることで現実の風景に重なるような演出が再生されるようにする。その演出を撮影したものをSNS等で拡散することでPRする。

○企業と連携したARゲームのイベントを開催してもよい。

■テーマ=食、コンテンツ=江戸東京野菜

○お菓子を作ってコンビニなどのチェーン店で売り出す。改札内で野菜スイーツを売って改札を出なくても買えるようにする。

○nonowaとかの空いてるスペースで地場野菜を売り出す。

○市報とかにおかしの写真をのせて拡散する。

■テーマ=教育、コンテンツ=学生向けのまち

○小金井市には高校や大学が多いことを踏まえて、自習室・図書館のような学生向けのフリースペースを駅近くにつくる。

○宣伝は各学校で行うことで利用する学生が増える。学校帰りに居場所ができるので親も安心する。

結果として子育てしやすいまちになるのではないか。

■テーマ＝自然、コンテンツ＝収穫体験

- 都会と田舎の中間的な小金井市は、都心からのアクセスはよいが畑も残っている。その畑で収穫体験をすることで、田舎に行かなくてもできることをアピールする。
- さらに収穫したもので料理をすることもよい。小金井市が力を入れているルバーブのPRにもなる。

■テーマ＝食、コンテンツ＝グルメ

- 市内の高校生が小金井PR大使となって、小金井市の地産地消グルメを発信する。
- JK課のような取り組みがあってもよい。女子高生がメニューを考案して発信するようなことがあれば「カワイイ」を求める若者に共感を生む。

■テーマ＝食、コンテンツ＝ラーメングランプリ(R-1グランプリ)

- 市内にはラーメン店が充実していることを踏まえて、R-1グランプリを開催し、ラーメン店を紹介する。インターネット上での宣伝にくわえて、TVでも取り上げられるのではないか。
- 学生は割引で食べることができるといった特典があると若い世代が訪れる。

■テーマ＝駅前、コンテンツ＝テナント

- 小金井市のテナントは吉祥寺や荻窪よりも安いと考えられることから、空いているテナントを活用して、お店を始めたい人に安く貸し出しながら、個人商店を増やすキャンペーンを行う。それによってフレッシュな商店を引き寄せることができる。
- 借りる店にはSNSでの発信を求め、小金井市の魅力を店を通じて発信してもらいながら、お店と小金井市のwin-winの関係をつくる。

■テーマ＝食、コンテンツ＝ラーメン

- ラーメンフェスティバルを開催する。
- 一人有名人を招待して、TV番組やSNSを使って広める。

■テーマ＝若・中年層、コンテンツ＝パーク

- 公園内(広大な緑地利用)にテーマパークをつくる計画を大々的に挙げて噂で広める
- 小金井のアイドルグループをつくって、公演を行う。

■テーマ＝ご当地キャラ、コンテンツ＝こきんちゃん

- YouTubeに進出させる！
- 常に小金井市に出没させる！

■テーマ＝自然、コンテンツ＝ホタル等の生き物

- 以前は野川に生息していたホタルを復活させるための募金等を募って復活させ、SNSなどで拡散することで集客する。
- 絶滅危惧種が生息していることを発信し、それを見たいと思う人たちを募ってもよい。
- 生き物が好きな人は多く、SNSではかわいい生き物は人気なので、集客につながる。

■テーマ＝自然、コンテンツ＝坂道

- 市の南側は坂道が多いので、坂道のトレーディングカード「坂カード」をつくる。すべての坂を制覇す

れば特典がもらえるとよい。

■テーマ＝商業施設、コンテンツ＝SNS映えする食べ物やお店

- 小金井や小金井にあるお店をピンポイントで調べる人は少ないはずだから、若者がよく使ったり、チェックしたりしそうな井を使うってSNSで発信する。
- Instagram、TikTok、YouTubeなどを利用する。

■テーマ＝祭り、コンテンツ＝あわおどり

- Instagramに練習している様子をあげる。(当日も)
- ポスターを学校や公共施設に掲示する。

■テーマ＝桜、コンテンツ＝インスタ映え・イルミネーションをつける・夜桜ライトアップ

- インスタで写真を発信し、頑張って”夜桜きれいなスポット“として取り上げてもらう。
- イルミネーションなら、いつの季節でも大丈夫だし、最近イルミネーション人気だから、Instagramや雑誌で取り上げてもらう。テレビに取材されたら勝利。

■テーマ＝食べ物、コンテンツ＝小金井うまいものフェス(ラーメン・カレーetc)

- 小金井市にある施設(学校や老人ホーム、病院など)にポスターをはり、多くの人にそのポスターを見てもらえるようにする。
- メディアに発信し、番組で取り上げられるように宣伝する。
- 「Instagramやtwitterにそれを食べた写真を上げたら、半額！やトッピング無料！」などの制度をつくってネットに発信させる。

■テーマ＝駅周辺の発展を目指す、コンテンツ＝食べ物(得にラーメン)

- 駅前で食べ物フェスを開催し、Instagramやtwitterで広めることで、小金井市を知ってもらう。
- フェスに人が集まると経済効果が生まれ、市民にも知ってもらうようになる。
- YouTubeやTikTokで宣伝することで、東京都以外にも小金井市のことを広めていく。

■テーマ＝観光(知名度up)、コンテンツ＝観光

- YouTubeに、小金井市出身の芸能人が出る動画を流す。別府市の温泉の街をPRする動画のようなインパクトのあるものを考える。
- 真面目なものではなく砕けた内容のものの方が若者も見してくれる。

■テーマ＝ネガティブ、コンテンツ＝服屋

- 今、店が何も入っていない西友に、たくさんの服屋を入れて、その中で買いたい服が完結できるようにする。
- 空いている部屋で、しゃべることができる自習スペースや、地域のことを発信するスペースに使う。

小金井市に若者が遊びにくるようになるために…

というテーマで

というコンテンツを

こんな風に発信する 例)インスタグラムを使ってきれいな写真を発信する

0

1839会議 報告書

令和元年
小金井市

目次

1. 実施概要	1
(1)目的.....	1
(2)開催概要.....	1
(3)プログラム.....	1
2. 実施概要	2
(1)小金井市に住む上での課題と魅力.....	2
(2)ライフイベント毎の課題と住み続ける魅力.....	6
(3)小金井市に住み続ける理由.....	9

1. 実施概要

(1)目的

○18歳から39歳の市民を対象として、若い人たちが小金井市に住み続ける上でのまちの魅力と課題を検討してもらう場を設けた。

(2)開催概要

- 開催日時 令和元年7月6日(土)13時～15時30分
- 開催場所 市民会館萌え木ホール
- 参加人数 24人

(3)プログラム

○4～5名のグループに分かれ、小金井市に住む平均的な夫婦を想定し、以下のライフイベントが起こった際の小金井市に住む上での魅力と課題について考えた。

- ①子どもが生まれる
- ②配偶者が単身赴任になる ※ひとり親家庭をシミュレーション
- ③配偶者の父母が市内に住む ※高齢者が住むことをシミュレーション
- ④子どもが小学生に上がる



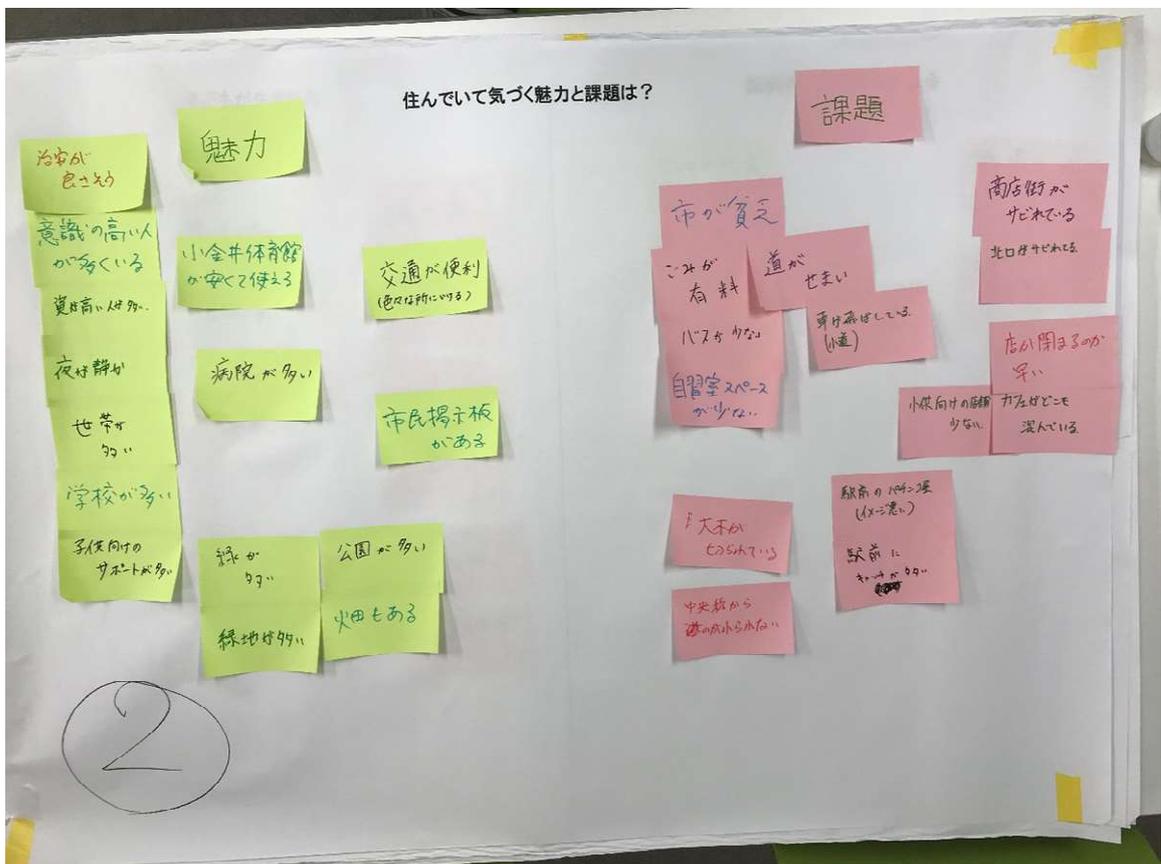
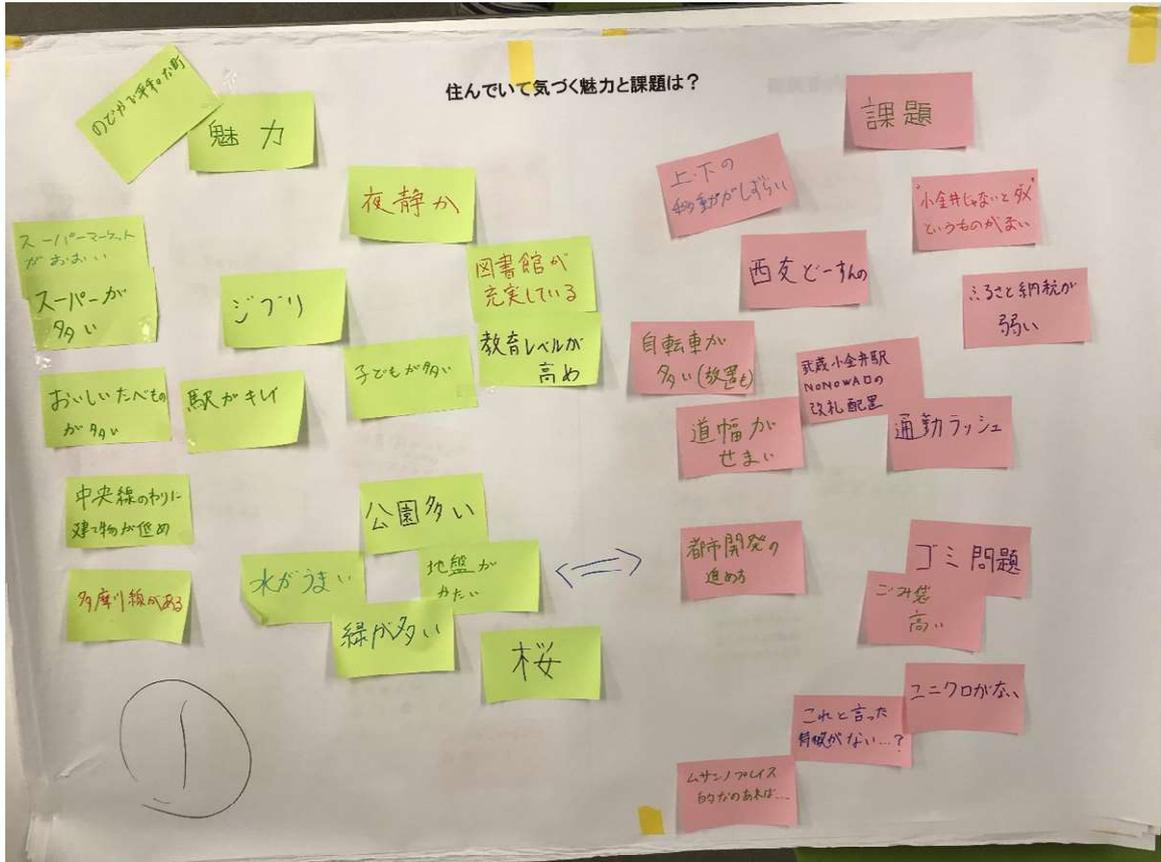
2. 実施概要

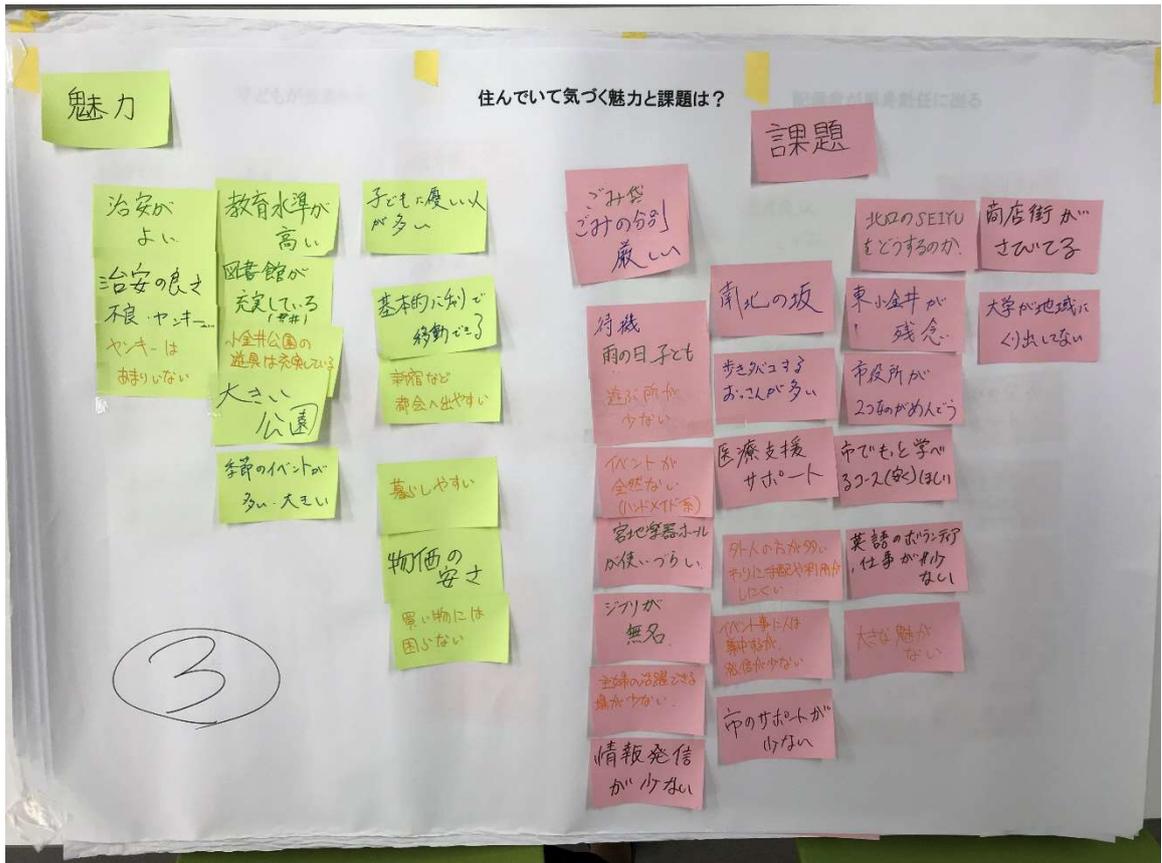
(1) 小金井市に住む上での課題と魅力

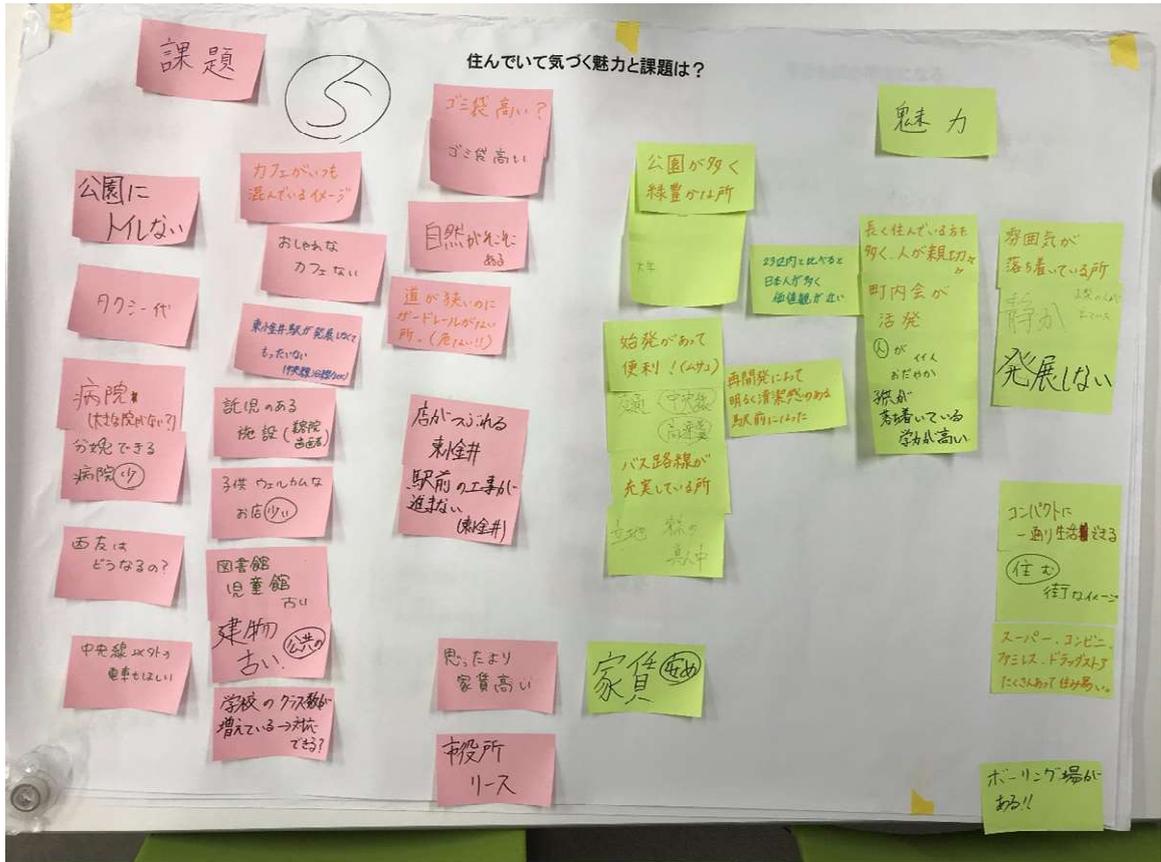
① 参加者の意見

魅力	住む上での課題
<p>【自然】 ○街路樹が多くない</p> <p>【環境】 ○ゴミ袋が有料である ○ゴミ袋が高い ○分別が複雑</p> <p>【まち】 ○道が狭く、危険である ○坂が多く、出歩くの不便 ○音声誘導の信号機が少ない ○中央線が止まると代替手段がない ○通勤ラッシュがひどい</p> <p>【商業】 ○大きな買い物が近所でできない ○商店街が活発でない ○飲食店等の閉店が早い ○子どもに優しい店が少ない</p> <p>【子育て・教育】 ○子どもと入れる店が少ない ○主婦が活躍できる場が少ない ○児童館等、子どもの遊べる場所が少ない ○駅近くで子どもだけで遊べる場所がない ○幼稚園が少ない ○保育園に入れない ○学童が子どもの人数に対して狭い ○学校の老朽化</p> <p>【医療・保健】 ○分娩できる病院が少ない ○小児科が混んでいる</p> <p>【その他】 ○情報発信が少ない ○大学が地域にくり出していない</p>	<p>【自然】 ○公園が多い ○緑が多い ○水がうまい ○桜</p> <p>【まち】 ○駅がきれい ○低層な住宅が多い ○駅前再開発が進んでいる ○のどかで平和なまち ○夜が静か ○静かで住みやすい ○交通の便がよい ○自転車で移動できる</p> <p>【安全・安心】 ○治安がよい ○地盤が安定している</p> <p>【商業】 ○おいしい食べ物が多い ○スーパーマーケットなど商業施設が豊富 ○物価が安い ○アカチャンホンポがある ○買い物に困らない</p> <p>【子育て・教育】 ○子ども向けのサポートが多い ○子どもに優しい人が多い ○教育レベルが高い ○図書館が充実 ○体育館が安く使える</p> <p>【医療・保健】 ○病院が多い</p> <p>【その他】 ○意識の高い人が多い ○町内会が活発 ○親切な人が多い</p>

②各グループでの意見交換結果







(2)ライフイベント毎の課題と住み続ける魅力

①子どもが生まれる

魅力	住む上での課題
<p>【まち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園が多いので、外に連れていきやすい ○外遊びがしやすい ○車がなくても生活ができる <p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○治安がよい <p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物には困らない ○アカチャンホンポと西松屋がある <p>【子育て・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人には子どもに優しい <p>【医療・保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小児科の病院が近くにある ○保健センターのサポートが多い <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おむつが無料で捨てられる 	<p>【まち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○坂が多いのでベビーカーがづらい ○静かなまちなので夜泣きが心配 <p>【子育て・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育園に預けられるか心配 ○子育て支援策の補助金が少ない ○雨の日に子どもが遊ぶ場所が少ない <p>【医療・保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内で分娩できる病院がない ○助産院が少ない ○小児科がいつも混んでいる ○夜間もやっている病院が少ない ○保健センターの場所が不便で行きにくい ○母子手帳がかわいくない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○助け合う雰囲気のない地域ではない

②配偶者が単身赴任になる

魅力	住む上での課題
<p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イトーヨーカドーのフードコートで食事ができる ○近場で買い物等の日常生活を完結できる <p>【子育て・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども向けのイベントがあるのでお出かけがしやすい ○ひとり親であればゴミ袋が無料になる ○町内会が活発なので地域で見てもらえる体制がありそう ○子ども向けの図書館がある <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人がおだやかなので、サポートを受けて、その中で暮らす 	<p>【まち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職場が遠い ○男性トイレにおむつ替えのスペースがない <p>【子育て・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○休みの日に連れていける場所が少ない ○安心して預けられる場所が少ない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パパ同士がつながりにくい ○近所づきあいが少ない ○市役所が土・日にほとんどオープンしていない

③配偶者の父母が市内に住む

魅力	住む上での課題
<p>【自然】 ○緑が多い(畑なども)</p> <p>【まち】 ○徒歩圏で生活ができる ○孫と散歩しやすい</p> <p>【交通】 ○バスが多いので移動しやすい ○車をもたなくてもよい</p> <p>【商業】 ○スーパーが多く、高齢者も買い物しやすい ○気軽に入れる店が多い ○安心・安全な配達弁当がある ○働く場所が見つけれられるかもしれない</p> <p>【医療】 ○かかりつけ医に困らない</p> <p>【介護】 ○介護施設が多い</p> <p>【その他】 ○公民館が充実している ○高齢者が集まる場がある ○元気であればサークルなどに参加できる</p>	<p>【まち】 ○ベンチが少ない ○坂の下に住んでいると高齢者は大変 ○車の維持費がかかる ○部屋が狭い</p> <p>【交通】 ○道が危ない・狭い</p> <p>【商業】 ○商店街が少ない ○和食の店が少ない ○三世代で使える飲食店がない ○銭湯が少ない ○シルバー人材センターの求人はあるが、肉体労働が多い</p> <p>【介護】 ○介護時のサービスをどうやって受けるか分かりにくい</p> <p>【その他】 ○地域の人が交流する場がない</p>



④子どもが小学生に上がる

魅力	住む上での課題
<p>【自然】 ○自然が豊かで虫採りを楽しめる</p> <p>【安全・安心】 ○治安がよい ○いかがわしいお店や危ない雰囲気のお店が少ない ○子どもが荒まない、不良にならない</p> <p>【商業】 ○習い事が充実している</p> <p>【教育】 ○学力が高い ○私立を受験する必要がない ○先生の面倒見がよく、教育熱心 ○プログラミング教育に取り組んでいる ○大学がある ○周辺によい国立・私立の学校があるので、子供の将来を考える上でよい ○給食がおいしい</p>	<p>【まち】 ○子どもだけで遊べる場所が少ない</p> <p>【交通】 ○道が危ないので通学が心配 ○夜道が暗い</p> <p>【商業】 ○駄菓子屋のような子どもが集まる場所がない ○ユニクロがない</p> <p>【教育】 ○子どもの人数に対して学校が狭い ○学童保育に入れるが、子どもが多くて狭い ○図書館が充実していない</p>



(3)小金井市に住み続ける理由

- 【少し不便】かもしれないけれど、
【環境が良い】から、小金井に住む
- 【危ない道があって完璧なまちではない】かもしれないけど、
【緑豊かで人が優しいまち】だから、小金井市に住む
- 【建物が古く駅が発展しない】かもしれないけれど、
【治安がよくて、平和】だから、小金井に住む
- 【小学校に子どもを入れるまで大変(初期投資)】かもしれないけれど、
【入学後や親の老後は安心できそう(リターンがありそう)】だから、小金井に住む
- 【少し不便】かもしれないけれど、
【のどかで、安心して住める】から、小金井に住む
- 【小金井市ですべてを済ますことは難しい】かもしれないけど、
【近隣も含めて魅力的な場所】だから、小金井市に住む
- 【道がせまい】かもしれないけれど、
【治安が良い】から、小金井に住む
- 【近くに子どもが遊ぶ場所(児童館など)がない】かもしれないけれど、
【治安がよい】から、小金井に住む
- 【ちょっと地味】かもしれないけれど、
【小学生になったらイ子に育つ?!】から、小金井に住む
- 【一歩踏み出すには不安】かもしれないけど、
【踏み出すと「意外」といけちゃう】から、小金井市に住む
- 【平凡】かもしれないけれど、
【素朴】から、小金井に住む
- 【課題が多い】かもしれないけど、
【子どもの成長を後押しするまち】だから、小金井市に住む
- 【派手さはない】かもしれないけど、
【のどか】だから、小金井市に住む
- 【地味】かもしれないけれど、
【静かで暮らしやすい】から、小金井に住む
- 【発展途上】かもしれないけど、
【住みやすい】から、小金井市に住む

- 【遊ぶところや、情報共有など少ない】かもしれないけど、
【治安がよく、生活には困らない程度で生活できる】から、小金井市に住む
- 【幼児期の子どもにとっては遊び場が少ない】かもしれないけど、
【小学校は教育水準・学力が高いなど、育てやすい市、治安がよい市】だから、小金井市に住む
- 【生まれた直後は辛い】かもしれないけど、
【子どもが育つにはよい環境】だから、小金井市に住む
- 【貧乏】かもしれないけど、
【意識高い系のお友だちがたくさんいる】から、小金井市に住む
- 【市の財政にまつわる問題はある】かもしれないけど、
【公園が多く、穏やかに過ごせる】から、小金井市に住む
- 【市が貧乏】かもしれないけど、
【安全・安心】だから、小金井市に住む
- 【公共施設が古い】かもしれないけど、
【子育てしやすい】から、小金井市に住む
- 【少しさびれている】かもしれないけど、
【治安がよさそう】だから、小金井市に住む

課 題

かもしれないけれど、

魅 力

だから、小金井市に住む

第5次小金井市長期計画 事業者・団体ヒアリング

1. 実施概要

(1)目的

- 市内で活動するNPO法人、KO-TOで起業・創業している事業者など、市民活動や経済活動を行う団体を対象として、各々の観点での小金井市の課題や今後の展望、市に求める支援等を把握する

(2)実施概要

- 市内で活動するNPO法人…市内NPO法人の連絡網を通じて、令和元年5月～6月にアンケート調査を実施した(回答14法人)。そのうち、福祉・子育て関係の3法人へ、同年7月に直接聞き取り調査を行った。
- KO-TO入居者…入居者のメーリングリストを通じて令和元年5月～6月にアンケート調査を実施した(回答9事業者)。
- その他団体…産業振興にかかわる中間支援組織や農業関連団体、市内教育機関など6団体へ、小金井市職員が直接聞き取りを行った。

2. ヒアリング記録

(1)市内で活動するNPO法人

①子育て関係団体

【地域の課題】

- 教育熱心であることはよいが、加熱しすぎるケースも見られる。子どもの自己尊重感の低さの原因の一つになり、思春期や若者の問題につながる。
- 子ども達が自由に行き来できる場所が必要である。特に不登校児の居場所、中高校生の居場所がない。
- 学力が高いと言われているが、子どもにとってはプレッシャーとなっている。一般的には学力が高く、また経済的に課題がないような子どもでも、課題を抱えているケースがある。それが見えにくいケアがしにくい。
- (子どもに限らず)いろいろな分野の方が、いろいろな形での自分の居場所を探している。と感じる。「食」や「健康」など誰にでも共通するもので、居場所となり得る場所が街中に出来たらよいのかなと思う。
- 不登校児の居場所、中高校生の居場所が必要。乳幼児からパソコンや携帯に依存する子育てが行われ、仲間づくりもネット、子育て情報もネットからという若い親も多い。自分に都合のいい情報や仲間の中で子育てが行われることで子どもの育ちが親の都合で阻まれていると感じる。
- 親の都合で預けられる場所ではなく子ども達が自由に行き来できる場所が必要である。第三の居場所づくりを。

【活動における課題】

- 子どもを支援する大人が旧来の考え方にこだわりすぎている。そのため、子どもを取り巻く環境の急激な変容に対応できない。
- 課題を抱える子どもについては学校や警察、学童保育などでは情報を共有していると思われるが、児童館などの子どもの居場所では把握していない。そのために対応を間違えるケースがある。
- 空き家などを使っての幼児から学童、中高校生まで多世代の交流のできる居場所づくりをしてみたい。

【小金井市に求める取組】

- 虐待や貧困の問題、自由に遊び集う時間と場所の少なさ、せつかくある子どもの権利条例の普及をもっと推進すべき。子どもの意見を学校や町づくりに取り入れる施策を。
- 大きな公園だけでなく相続でなくなる農作地などの保護を進め緑を保って有効利用できるような施策がほしい。
- 子どもの居場所を子どもが選んでいけるように数を増やすことが必要。空き家施策、集会施設などの開放などを進め、居場所事業がしたい市民団体につなげられるといい。

【市との協働における課題】

- 市民と市との役割の違いやすみわけを理解した上で、同じ目的意識を持って協働できるとよい。
- 業務委託であれば目的や求められる質が明確であるが、市民や団体が自律的に行うようなかたちでの協働では不明確になる。自主性を大事にしながら、市として求める内容や質を示してもよいのではないか。
- 市民と市との役割の違いや、すみわけをきちんと理解した上で、「市民の心と体と頭の健康」について、同じ目的意識を持って協働できたらいいと思う。
- 特に子ども関係は制度がないところでの支援が多いのでボランティアになりがちである。制度として仕事になると活動が長続きしていくと思う。

②高齢者福祉関係団体

【地域における課題】

- 若い担い手は募集しても入職しない状況である。または入職しても長続きしない。介護の担い手となる人材が不足している。
- 市内に住む男性はキャリアのある方が多く、地域資源となりうる存在だが、家庭に引きこもりがちである。
- 高齢化社会を迎えて、高齢者の外出(移動)を支援する体制の強化が必要がある。

【活動における課題】

- 介護に少しでも興味のある方(たとえ資格がなくても)をしっかり育てていく。小金井市の介護力を保っていく。

【市との協働における課題】

- 市役所と市民というセクションにとらわれず、対立的な関係に陥ることなく、それぞれの立場を活かした協働を行えるとよい。

○市民提案事業をもっと提案しやすくするとともに、市職員が提案する枠があってもよい。

【小金井市に求める取組】

○同じ活動をする団体が複数あり、利用者が選択できることは悪いことではないが、相互の特徴を明確化し、利用者が選びやすい方法(一覧表)やそれらの団体が集まり相互に話し合う機会を持つとよい。

③障がい者福祉関係団体

【地域の課題】

- 精神障がい者についての地域理解がまだ少ない。
- 障がいを知ってもらい、地域で見守れる環境をつくること。
- 市内での障がい者雇用の方が少ない。
- 精神障がい者が地域で暮らしていくための相談窓口が福祉分野に限られている。法律・金融・住環境について気軽に相談できる人・場所が少ない

【活動における課題】

- 担い手不足が課題として挙げられている。NPO法人が大きな役割を担っていることを踏まえると、現状が続くようであれば福祉サービスの質が低下する。
- 介護に関心を持った人を育てる必要がある。
- 個人情報と壁となって介護を要する人の情報を共有することが難しく、ケアに一貫性がない場合がある。
- 今後は相談事業も始め、事業所利用を通してだけでなく、障がい者一人ひとりをトータルで支援していけるよう事業の進め方を考えている。

【小金井市に求める取組】

- 官民連携して人材確保に取り掛かり、地域生活の担い手を育て、増やす。
- 市が主催となりNPO法人等の活動紹介をしていくこと。イベントだけでなく、市報やホームページ等の活用。
- 教育現場と連携し、子どものころから障がい者に対する理解を深める。
- ケース会議を開催することで情報共有を行えるとよい。

【市との協働における課題】

- 何を目指してともに活動するのか、その目的の設定が曖昧で、個人や各団体に委ねられ過ぎている。

(2)KO-TO入居者

【KO-TOに入居した理由】

- 起業時の固定費として家賃を抑えられる点と、小金井市がバックアップされているということで創業サポートが得られると感じたため。
- 起業に関するノウハウも資金も無かった為、様々なアドバイス頂きたかった。

【仕事をする上での小金井市のメリット】

- 同じく入居する方から有益な情報を得ることができること。
- 職住近接に尽きる。住居も都心部に比べれば比較的安価なので、都心部で職住近接をするより

メリットがある。

【仕事をする上での小金井市のメリット・デメリット】

- 事務所家賃坪単価が神田と同等なので、KO-TO退去後の小金井市内での営業が困難である点がデメリットである。
- 企業として、都心に出ることが結構あるがその度に時間がかかる点や、都心のシェアスペースと比較して、郊外ということもあって他社との繋がりが弱く、ビジネス上の広がりが出ない点がデメリットである。

【創業・起業において求める支援】

- 弁護士・司法書士に気軽に相談できる仕組み。
- 起業助成金制度による支援
- 他業種が集まる場所ゆえに、昼間に横の繋がりが出来る仕組み

(3)その他団体

①産業関係団体

- 小金井市で生活する住民が、住むメリットを感じ、住んで良かったと思えるまちを目指したい。
- 産業については、子育ての終わった女性が活躍できる場や、起業できる場の提供や支援を通じて、ベッドタウンに甘んじることなく、小規模でも経済がまわるようになるとよい。
- 住民が受身になるのではなく、参加型で楽しんでもらう。そしてそれが地域とのつながりになり、一過性でなく日常になっていくとよい。
- 農業に関しては、生産緑地法が改正され、「特定生産緑地制度」が施行されたので、これから変化すると考えている。農業者が意識を変える必要がある。

②教育関係団体

- 現在は学科レベルで地域連携に取り組んでいるが、全学をあげて地域との連携に取り組んでいきたい。
- 数多くの大学や専門学校がある学園都市であるということ。学校同士のつながりを醸成し、各学校の特色を活かすことで色々な取り組みを実施できると思う。
- 学生の実習の機会を与えていただきたい。地域との連携に関する取り組みを通して、学生に現場を体験させることが、学生にとってメリットになる。

③福祉関係団体

- 最近の相談内容の動向としては、一つの相談から複数の課題が出てくるが多くなっている。問題解決には関係機関との連携が必要であるため、様々な団体と繋がりながら、投げ合いをせずに協力し、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- 活動内容を知ってもらうことはもとより、団体が活動するための場を創ること、財務面で自立した団体を育てていく気風を醸成していくことなどが必要である。
- 今後も団体ごとのカラー(特徴)をアピールできる場の設定と活用を行うことで、参加者を増やして

いきたい。

- より一層行政と市民団体の間で地域課題を共有し易い環境を整えていくとともに、「対話できる環境」を構築していくことが望ましいと考える。
- 「同じ方向に、同じ感覚を持って、同じスピードで」連携していくことが重要であるとする。連携にズレが生じた際などに話し合い、調整できる場を持つるとよいのではないか。

2019年8月7日 第3回小金井市長期計画審議会メモ（渡邊嘉二郎）

政策1 環境・都市基盤

政策5 福祉・健康

政策1 環境・都市基盤

目次

【みどり】

《目指すべき姿》 小金井の いたるところに 緑いっぱい
 《実現するための取り組み方針》 My tree 愛しく世話する 小金井市民
 小金井は 猫の額も 緑いっぱい

【ごみ処理】 【地球環境】

《目指すべき姿》 小金井市 ゴミゼロタウン 本気です
 《実現するための取り組み方針》 市民みな ゴミは資源と 覚えける
 エコの街 誇りをもって ゴミ分別

【市街地】

《目指すべき姿》 学生を 大切にす 小金井市
 《実現するための取り組み方針》 大学と ともに伸び行く 住宅地

【住宅】

《目指すべき姿》 わが家を 三代もたせる 小金井市
 《実現するための取り組み方針》 100年の 家族の絆 再検討

【インフラ】

《目指すべき姿》 全市民 情報共有 小金井市
 情報化 先取行政 小金井市
 《実現するための取り組み方針》 まず調査 行政合理化 可能です
 未来都市に すでに準備は 整えり

【交通インフラ】

《目指すべき姿》 インフラが なくても生活 できるまち
 歩くだけ 必要なもの 手に入る
 歩くだけ 暮らしが易い 魅力ある
 通勤時 すいすい駅へ 移動でき
 《実現するための取り組み方針》 計画し 医者コンビニを 配置する

【みどり】

《目指すべき姿》

②小金井の いたるところに 緑いっぱい

（小金井のいたるところに緑を）

③首都圏にある小金井で大規模な緑は小金井公園や野川周辺に限られる。都市化の進展に伴い緑地の拡大は困難である。緑の「面」の広がりから「線」の長さで「点」の点在へと発想を転換する。面は小金井公園や野川周辺でまかなう。

線の長さはかつて議論された中央線沿いに緑を配置する「グリーンネックレス」構想や道路の並木で実現する。

点での広がりには、市内各所に点在するスポットごとに植栽をすることで緑を点在させる。

《実現するための取り組み方針》

④小金井は 猫の額も 緑いっぱい

My tree 愛しく世話する 小金井市民

（自然循環型の管理法と My trees 制度による管理）

⑤「線」と「点」における緑には管理上の困難さがある。とりわけ落ち葉の処理である。落ち葉は「線沿い」あるいは「点」の所在場所で肥料として循環させ移動しない。そのためには樹木周辺には落ち葉が肥料として還元される空間をあらかじめ用意する必要がある。落ち葉の肥料としての循環を考慮し「線」の長さや幅、また「点」の広さに応じた植栽（樹木等）を考慮すべきである。

またグリーンライフの取り組みの一環として、個々の樹木には市民ボランティアによる管理者をお願いし、管理者に落ち葉の清掃や剪定を任せる「My trees 制度」が協働の一つの在り方であろう。そのためには管理者となるボランティアの教育が必要であろう。また剪定において危険が伴わない樹木の種類などの検討がいる。

【ごみ処理】 【地球環境】

《目指すべき姿》

② 小金井市 ゴミゼロタウン 本気です
（地球環境にやさしいゴミゼロタウンへ）

③ ゴミの排出は私たち「市民」である。この市民個々のゴミに対する意識が深まることは限りなく「ゴミゼロタウン」への入口です。

《実現するための取り組み方針》

④ 市民みな ゴミは資源と 覚えける
エコの街 誇りをもって ゴミ分別
（ゴミへの市民の意識をつける）

⑤ ゴミに対する市民の意識付けのために、まずは日本で最も高いゴミの分別によるゴミ出しを行う。これは市民に負担を強いることになり、賛否があるでしょう。しかし、行政からゴミ分別が合理的である理由を明確に知らされれば、多くは喜んでそして誇りをもって分別をするだろう。またこの分別のためのゴミ箱（資源回収箱）を様々な空間向けに設計し提示することも重要である。従来この箱は意識的に設計されずその辺の段ボール箱が使われていた。狭い空間に合理的に収まる箱の例（あるいは箱そのもの）を提示あるいは入手できるような手立てを考える必要がある。

またエコバックをボランティアに配る代わりに、市内各所に資源回収箱を設置して、路上で拾った「空き缶」、「たばこの吸い殻」などのゴミがその場周辺で処理できるとボランティアは助かる。これらのゴミを回収してもその処理に困っているボランティアもいる。さらには、地球環境の項目とも共通するのだから、**My 箸**、**My ストロー**、**My 携帯用コップ**そして **My エコバック**を紹介する。資源回収箱も併せて上記の My アイテムに「小金ちゃん」マークを付けて、小金井における「ふるさと納税」の返礼品とすることも考えられる。My 箸、My ストロー、My 携帯用コップは衛生上の問題があるであろう。市販されるこれらを調査して衛生を維持しやすいアイテムや管理法を知らせる。

【市街地】

《目指すべき姿》

② 学生を大切にす 小金井市
（学園都市の街並み落ち着いたたたずまいの街）

③ 多くの地方自治体は、「大学」を喉から手が出るほど欲しがっている。その理由は地域

の活性化である。また将来の市民の確保である。小金井には学芸大学、東京農工大学工学部、法政大学理工学部、情報科学部、生命科学部がある。大学を持たない自治体にとってこんなうらやましいことはなかろう。せつかくこのような大学があるのであるから、大学との協定をフル活用して、小金井を学園都市として特徴づけるべきである。その特徴は大学と行政のコラボレーションだけでなく、市の小中学生の学力の向上にある。有体には言え、小金井の子供たちは全国学力試験で全校トップクラス（秋田県のように）になることだ。それにふさわしい街並みであるべき。

小金井はベッドタウンである宿命から逃れられない。であるとすれば住み続けたいまちNO.1の街のたたずまい（品格）をもつべきである。

《実現するための取り組み方針》

④大学とともに伸び行く 住宅地

（学生を大切にし落ち着いた街並みの設計）

⑤京都は伝統的に学生を大切にする街であった。学生に優しく寛容であったと思う。これが観光資源と合わせて京都の魅力である。残念ながら東京にはあまりにも大学が多すぎるせいか、学生を大切にしない。近隣からの苦情で通学路に登校時あるいは帰校時に、シルバー人材センターの方をお願いして、学生の通学路を規制したり大声での私語に注意したりしている。また休日に空いている大学グラウンドを児童に開放し様々なスポーツにいそしんでもらいたいのだが、グラウンド周辺の方々への配慮からそれもできない事例もある。文化として次世代を担う学生を大切にする街でありたい。このようなことが実現すれば、小金井の大学に通った学生のなかには小金井に居を構えたいと思うものもいよう。以上述べたことは文化の問題で市街地の構造とは関係がないが、京都に「哲学の道」があるように、小金井にもなにかそのような道があってもよい。戦前の学習院（そのときは宮内庁管轄の教育施設）に苦勞して都心から通ったご学友の記事がある。「小金井哲学の道」、「文学の道」など小金井の学園都市性をうたう道があってもよい。このことがベッドタウンとしての小金井の魅力につながる。

【住宅】

《目指すべき姿》

②わが家を 三代もたせる 小金井市

（住宅を100年維持する小金井市）

③住宅は人生いおける最も高価な買い物でしょう。この住宅用木材は、植物の光合成により空気中の二酸化炭素の固体化したものです。木材を廃棄し産業廃棄物として仮に燃やすとせつかく固体化された炭素を再び二酸化炭素として空中に放散します。木材はできるだけ長く木材のままにしておきたいものです。短くとも新たな木が育成され建材となるまでは。住宅を100年維持できれば、家づくりの経済的負担は大幅に減り、自然には優しくなります。このためには住宅の管理が大切です。特に屋根や壁の目地の修復およびシロアリ対策が重要です。しかし、一端住宅を建てると、管理まで思いが及びません。管理なしでそのまま放置すれば、家のつくりにもよりますが、寿命は30年～50年程度でしょう。上記のような管理を施し必要に応じて修復すれば100年も可能でしょう。

日本における家屋の物的な寿命に対して、居住者のライフスタイルが変わり、この30年の寿命を受け入れる家族のありかたの構造の問題があると思います。住宅を100年維持することは、物的なことだけでなく、そこに住む人のライフスタイルも併せて考えなければな

りません。

《実現するための取り組み方針》

④ 100年の 家族の絆 再検討（物的管理と100年続く家族のきずな）

⑤物的な管理は家を建ててから、シロアリ対策は5、6年ごと、屋根と壁の目地は10年から15年をめぐりとして考えるべきでしょう。家の大きさにもよりますが、シロアリは坪単価0.8万円程度（建物面積30坪で12万程度）、30坪程度の家で屋根と壁は200万程度かかるでしょう。家のメンテナンスを10年に一度とすれば毎年に変換すると年間22万程度です。それくらいの経費を考えて計画すべきでしょう。行政としてこのことは啓蒙すべきです。

家族の絆の維持は困難です。いま、家どころでなく、お墓の墓じまいが増えています。核家族化に起因します。しかし核家族制を大家族制に戻すことは大変困難なことでしょう。しかし、何らかの方法で、家族の絆の永続性を図らなければなりません。高齢者引きこもり61.3万人、孤独死は家族の絆の希薄さが原因です。大家族でなくても情報通信網で家族はつながっていることができます。

行政としては、家屋の物的なメンテメンテナンスの情報を提供すべきです。また情報インフラを活用した地域包括センターの取り組みに家族の絆をとりもどすための支援の政策も必要です。家族の絆の問題は福祉・健康で述べます。

【インフラ】と【交通】⇒【交通インフラ】

新【インフラ】

《目指すべき姿》

② 全市民 情報共有 小金井市

情報化 先取行政 小金井市

（すべての市民が情報インフラでつながる小金井市）

③ 交通社会基盤の整備に合わせて、情報社会基盤（情報インフラ）に強いスポットライトを当てた政策が、高度情報化社会での積極政策です。自治体の情報システムだけでなく、市民の持つ情報端末もユーザーフレンドリーなものにし、誰もが情報インフラ利用できるような小金井情報端末仕様を作りお金をかけて構築すべきです。デジタルデバインド0を目指します。これによりスピーディーな行政サービスが可能になり、さらには行政における仕事の合理化にもつながります。

《実現するための取り組み方針》

④ まず調査 行政合理化 可能です

未来都市に すでに準備は 整えり

⑤ 既に自治体向けソリューションおよび住民ポータルや電子申請関連などを提供するシステムの共通システムはあります。5年および10年を見越してこれらのシステムを基礎に小金井市バージョンにカスタマイズすることです。そこでは誰でもがこのシステムに参加できる市民の情報端末のありかたについて、行政として外部仕様を提示し、それを実現してもらうことです。

④ 文明を 制するものは 市民です

⑤ 情報技術（IT）は新たな革命を起こしつつあります。ワットが蒸気エンジンを発明しエネルギー革命を起こしその後の世界はこのエネルギー革命の埒外にいることはできず産業革命、帝国主義、植民地、世界大戦、未曾有の物的な豊かさなどを経験しました。この

産業革命は人類を苦役から解放しました。IT 技術による情報革命は、人間の知的あるいは精神的仕事から人間を解放します。IT の中の人工知能（AI）の継続的進歩はそれを実証しつつあります。それがゆえに、情報革命は、産業におけるエネルギー革命より大きなインパクトを人類に与えることとなります。

青銅器は剣にもなりましたが優れた農機具にもなりました。エンジンは戦車にも使われましたが快適な自動車も使われます。情報技術も人類の普遍的価値観から、誤った使い方をすれば人類にとって大きな災いをもたらします。文明を制するのは我々市民です。その認識に立って、市民の価値の実現のために IT を使いこなしましょう。

【交通インフラ】

《目指すべき姿》

② インフラが なくても生活 できるまち

歩くだけ 必要なもの 手に入る

歩くだけ 暮らしが易い 魅力ある

③ 交通インフラは重要な都市基盤です。主として通勤者の利便性や産業の基礎そして重要です。一方、地域の住人には、徒歩あるいは車椅子の移動で、生活に必要な「物」が手に入ることや医療が受けられることも重要です[行政サービスは情報インフラで]。また生活の利便性だけでなく、観光的にもローカルな地域経済においても街の価値を上げます。（「これからの都市ソフト戦略 ― 歩ける範囲でつくるコンパクトシティで街はよみがえる！― 暮らしやすく魅力ある街のつくり方 後藤幸生）

② 通勤時 すいすい駅へ 移動でき

③ 一方、通勤者にとって通勤時間帯において、最寄りの駅までバスなどの公共交通手段があることが望まれます。しかしバスなどを、そのピーク時に合わせて台数を確保することはできません。何とかしなければなりません。

《実現するための取り組み方針》

④ 計画し 医者コンビニを 配置する

⑤ 生活必需品などはかなりの部分で宅配サービスをうけることができます。これらで賄いきれない「物」はコンビニなどを利用することになります。コンビニもその品を揃えます。小金井を容易にい歩行（車いす）で移動できるゾーンにわけてゾーンごとのコンビニなどの店を配置すればよいわけです。コンビニなどがそのゾーンで経済的な成り立つかの分析の上、行政と業者による調査のコラボレーションがあつていいでしょう。市民と業者にとって益があります。また病院の配置も同じように考えることができます。すでにコンビニや病院が配置されているので直ちにはいきません。10年かけて、ゾーン毎にコンビニや病院は可能性があります。当面は目標計画を作り、公にすることです。

④ ママさんが 駅まで出迎え うれしいな

⑤ 公共交通手段をある時間帯に集中することは車両の台数の制限から困難です。であれば夏休みの家族旅行用の、また万が一のために買った自家用車―これらはほとんどの時間帯で、駐車場で眠っているのですが、でご主人を駅まで送り迎えする方策ではいかがでしょう。できれば地域で仲間をつくり一台で数人を駅まで送ることが望ましいです。順繰りに担当家を決めればいいでしょう。帰りはまちまちで、奥さんによる出迎えでしょう。

このためには駅に個人の自動車による送迎パーキング（停車する時間は数秒）を用意する必要があります。現在のバスの駐車場、タクシーの駐車場の配置を合理化することで、送

迎パーキングエリアは作れます。

政策5 福祉・健康

目次

【地域福祉】

《目指すべき姿》	コミュニティ いざというとき 大活躍 緊急時 互いに支える 基盤あり
《実現するための取り組み方針》	無尽など 日本独自の コミュニティ

【高齢者福祉】

《目指すべき姿》	高齢者 福祉の主役 高齢者
《実現するための取り組み方針》	高齢者 その特性を 活かそうよ

【障がい者福祉】

《目指すべき姿》	障がいを 負うからこそ 実を知る
《実現するための取り組み方針》	障がい者 その特性を 生かそうよ

【健康】

《目指すべき姿》	引きこもり ゼロタウンの 小金井市
《実現するための取り組み方針》	引きこもり ゼロの方策 協働で

【地域福祉】⇒

【地域福祉コミュニティの構築】

《目指すべき姿》

② コミュニティ いざというとき 大活躍

緊急時 互いに支える 基盤あり

③ 地域福祉のありようを表すキーワードは「支え合い」、「社会参加」です。「遠くの親戚より近くの友人」はの福祉に関する万国共通の認識でしょう。大震災の際に地域のコミュニティが確立しているエリアは被害者は少ないのです。あの家ではお婆さんはこのあたりで寝ていることを知っており、効果的な救助活動が住民の力でなされました。東北の大震災（3.11）の際、LP ガスが使える家では、近所の人たちが集まり、翌朝には炊き出しおにぎりを握り、被災者に配られました。

しかし、災害の経験がない多くの人々は、ともすれば個人情報の名のもとで、孤立しております。これが61万人の高齢者引きこもりで証明されています。

支え合えるコミュニティを作りましょう。

《実現するための取り組み方針》

④ 無尽など 日本独自の コミュニティ

⑤ プライベートな城に馴染んでしまった人は、コミュニティ参加に抵抗を感じます。それは「はづかしさ」、「鬱陶しさ」、「不信感」などが原因でしょう。行政は、地域が支え合うことの意義を、潜在的参加者の心にストーンとおちる説明することです。意識の変革です。そのために日本の各地で伝統的に行われてる様々なコミュニティについて紹介し実践のヒントをあたえりことです。その例は「無尽」です。その在り方は地域により様々でしょうが、基本的には個人や法人がグループに参加し作る金融システムです。山梨の事例が有名です。山梨の取り組みの説明では「無尽とは月一回程度、特定のメンバーが集まって食事や飲み会をすること。そして、その時に食事代とは別にお金を出し合って積み立て、メンバーが順番に使ったりグループのために役立てること」となっています。おおむねこ

んな組織です。昔は食事ではなく、当番さんの家の漬物とお茶でした。この無尽は地域社会に古くから根差したもので、未経験の地域ではにわかにはそれが実現可能かはわかりませんが、これは地域の優れたコミュニティを作っています。ネットで「無尽」で調べればわかります。無尽に限らず様々な地域のコミュニティのありようを調べ市民に公開することです。

【高齢者福祉】

《目指すべき姿》

② 高齢者 福祉の主役 高齢者

③ 高齢者が福祉を受ける対象だけと考えるべきではないでしょう。むしろ時間的余裕のある高齢者は、彼らのできる範囲で、奉仕者として地域で活躍したいし、それが生き甲斐となるのです。事実、若者が時間的余裕がとれない現状から、地域のボランティア活動は高齢者に依存しているといっても過言ではないでしょう。加齢に伴い若者との差（ハンディキャップ）はありますが、高齢者を弱者とみるべきではありません。むしろ人生の経験による知恵で加齢に伴うハンディキャップを克服し、若者に負けない活動に取り組むことができる人も少なくないのです。

《実現するための取り組み方針》

④ 高齢者 その特性を 活かそうよ

⑤ 高齢者が地域ボランティアに参加しやすい工夫がいきます。高齢者のスキル、心理、体力を勘案して、様々なボランティアに参加できるようにするのです。そのこと自体が高齢者福祉の取り組みでありますし、高齢者による高齢者および障がい者への福祉サービスの現役の担い手になってもらうべきではないでしょうか。

【障がい者福祉】

《目指すべき姿》

② 障がいを 負うからこそ 実を知る

③ 高齢者の場合と同様に障がい者を単純に福祉を受ける対象だけと考えるべきではないと思います。むしろ障害を抱えているからこそ、健常者にはわからない様々なことを知っています。障がい者であっても人の役に立ちたいと思います。否、障がいを負っているからこそもっと人に役立ちたいと思うのです。障がいの度合いに応じた活動になると思いますが、障がい者にも奉仕の機会を与えるべきである。立派な仕事ができると確信します。

《実現するための取り組み方針》

④ 障がい者 その特性を 生かそうよ

⑤ 障がい者が地域ボランティア参加する仕組みを作るのです。それはパラリンピックがオリンピックと同じ年に開かれるように。障がいの程度や種類に応じて、障がい者が真の意味で生き甲斐を感じられる健常者に負けない仕事をできる仕掛けをつくる。

【健康】

《目指すべき姿》

② 引きこもり ゼロタウンの 小金井市

③ 「体の健康」に合わせて「心の健康」の問題に積極的に取り組むべきでしょう。引きこもり（若年層で 54.1 万人、高齢者層で 61.3 万人；全国でほぼ 1%の割合）は、小金井

市でも同じ割合でいるでしょう。高齢者引きこもりは生命の危険や孤独死につながります。これは人道的な意味でも看過できません。その原因には様々ものがあると思いますが、引きこもり現象は、心の病あるいは病に近い状態であると考えられます。小金井市では引きこもり0人を目標にしたい。困難な問題を含むかもしれないが、やればできる。

《実現するための取り組み方針》

④ 引きこもり ゼロの方策 協働で

⑤ 引きこもりの問題に直接行政が介入することは制度上制限があるかもしれない。行政ではできないことでも市民（団体も含め）はできることがあるはず。近所付き合い一つでも引きこもり者には大きな支援になるだろう。「市民のできること行政ができないこと」「市民ができないこと行政ができること」＝「できる」は「協働」の一つの姿でしょう。この協働のやりかたを、引きこもり問題解決のベストな方策ではないでしょうか。

の方法を考え出せばよいだけです。

以上

2019年8月7日 第3回小金井市長期計画審議会メモ（渡邊嘉二郎）
政策1 環境・都市基盤
政策5 福祉・健康

はじめに

第4次長期計画審議会の政策論点である「政策2 地域・経済」、「政策3 子ども・教育」、「政策4 文化・生涯学習」、「政策6 行政経営」に関して審議会メンバーの一人として、日ごろ考えることをメモとしてまとめました。筆者の浅学のために考えが及ばないところも多々あります。一つの論点として受け止めていただければ幸いです。審議会および行政の皆様の多様で積極的なご発言に期待し、このメモはその一つととらえていただきたいと存じます。浅学のため現状認識に誤りや主観的判断があると思います。

目次

政策2 地域・経済

【防災】

《目指すべき姿》

防災は 硬い壁より 人のつながり

○防災はハードも必要だがひとのつながりというソフトが決めて。

《実現するための取り組み方針》

バラバラが あるきかけて まとまれる

○地域には個々人が繋がることなくいる。しかしきっかけで繋がれる。

【安全・安心】

《目指すべき姿》

小金井市 オレオレ詐欺師に 宣戦布告

○安心安全は全体的に担保すべきだが、ここでは当面、「オレオレ詐欺に」に焦点をあて被害を0にする。

《実現するための取り組み方針》

市民みな 詐欺師の情報 共有する

○そのために「オレオレ詐欺師」の嫌がる情報を市民が共有する。

【産業】

《目指すべき姿》

勇気出せ 業の転換 商店街

○後継者が継がないことが廃業に繋がる。後継者が展望を持てる事業に転換することを促す。

《実現するための取り組み方針》

業転換 必要情報 得る街に

○現在の事業を基盤としつつ将来に向けた事業転換の情報を提供する。

【農業】

《目指すべき姿》

農耕地 狭いからこそ 質上がる

○都市にを合理的に（無理なく）農業を残す。

《実現するための取り組み方針》

都市農業 6次産業 良い事例

○そのために1次、2次、3次産業を融合した6次産業化が重要

【観光】

- 政策2 地域・経済
- 政策3 子ども・教育
- 政策4 文化・生涯学習
- 政策6 行政経営

《目指すべき姿》

潜在す 観光資源 顕在化

○市には顕在化されない観光資源がありこれらを顕在化し観光都市化する。

《実現するための取り組み方針》

とらわれず 想像広げ 顕在化

○先入観（とりわけ市民はあたりまえと思っていること）にとらわれず、眠っている小金井の観光資源を掘り起こし文化的に磨く。

【消費】

《目指すべき姿》

② —

③ —

《実現するための取り組み方針》

④ —

⑤ —

【就労】

《目指すべき姿》

学生の 仕事を通し 実まなぶ

○ 小金井市での学生アルバイトは教育の一環として受け止めます。

《実現するための取り組み方針》

アルバイト 実学機会 一石二鳥

○ 学園都市宣言の一環としてこの考え方を徹底し施策を作る。

政策3 子ども・教育

【子育て・子育て】

《目指すべき姿》

② —

③ —

《実現するための取り組み方針》

④ —

⑤ —

【児童福祉】

《目指すべき姿》

② —

③ —

《実現するための取り組み方針》

④ —

⑤ —

【幼児教育】

《目指すべき姿》

② —

③ —

《実現するための取り組み方針》

④ ー

⑤ ー

【学校教育】

《目指すべき姿》

創造性 ヒトの最後の 砦かな
教育は 子供を信じ 伸ばすこと

○考える力（および創造性）を養う教育を目指す。

《実現するための取り組み方針》

教育は 子供を信じ 伸ばすこと
納得は 忘れていても 蘇る

○そのためには子供を信じて子供の持つ能力を成長させること。

政策4 文化・生涯学習

【芸術文化】

《目指すべき姿》

喫茶店 創作論議に 花が咲く

○ 芸術を鑑賞する街から芸術を創造する街への転換。

《実現するための取り組み方針》

小金井市 芸術都市と 宣言す
既にある 企画アピール するだけでも
名所をば 生徒の俳句で 案内を

○ 学園都市宣言の中に芸術都市を謳い、既存の施設を創造の拠点とする。
また広く生徒にも俳句や和歌を作ってもらい小金井の名所を紹介。

【生涯学習】

《目指すべき姿》

学習の 成果が活きて やる気出る

○生涯学習の成果を活かせる街にする。

《実現するための取り組み方針》

得た知見 他人のため 役立てり

○生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、尊厳欲求そして自己実現欲求に応える
生涯学習プログラムをつくり、その成果を活かせる手立てを共に考える。

【スポーツ】

《目指すべき姿》

成果より 努力の評価 人気あり

潜在す 努力に光 当ててみる

○ スポーツにおける成果を見える化し自己研鑽の度合いが評価できる。

《実現するための取り組み方針》

サイバーの フィールドで競技を 競うわれ

○ サイバー空間で健康マラソンを競わせる。

【男女行動参画】

《目指すべき姿》

② ー

③ ー

《実現するための取り組み方針》

④ ー

⑤ ー

政策6 行政経営

【市民参加・協働】

《目指すべき姿》

協働は 行政市民 別機能 両者無くしては ことは進まず

○ 協働では行政の機能は管理運営、市民のボランティア機能は実作業。

《実現するための取り組み方針》

協働の 運転スキル 身につけよ

○ 行政は管理運営のスキルを向上させる。

【広報】

《目指すべき姿》

魅力ある 情報発信 協働で

○ 「行政の（制約＋権威）」（協働）「市民の（自由度＋権威のなさ）」
＝「自由で権威ある広報」を目指す。

《実現するための取り組み方針》

捕らわれず 市民の知る権利 拡大を

○ 「自由で権威ある広報」により市民の知る権利を拡大する。

【行財政改革 1】

《目指すべき姿》

魅力ある 返礼品を 掘り起こす

○ ふるさと納税の取り組みを強化して行政に市役所職員に経営について認識を深めてもらう。

《実現するための取り組み方針》

官民が 一緒に魅力 作り出す

○ 小金井市にふるさと納税をしたくなる魅力を発掘し創生する。

【行財政改革 2】

《目指すべき姿》

小金井の 地域経済 教育で

○ 小金井の特色は市内に3大学キャンパスがあることです。学園・文教都市のイメージを鮮明にして関連する分野の地域経済を活性化させる。

《実現するための取り組み方針》

教育を 基盤としつつ 地域活性

○ 学園都市宣言で具体的実効策として教育分野の産業を活性化させる。

政策2 地域・経済

【防災】

《目指すべき姿》

② 防災は 硬い壁より 人のつながり

③ 災害を人工的に止めることはできません。しかも2011年3月11日の東北大震災のような巨大地震のような場合には、耐震対策に巨大な箱ものを作っても完全な対応はできないでしょう。災害による被害をできるだけ少なく（減災）するためには、日ごろの訓練と地域のコミュニティでの助け合いが最も効果のある対策と言えるでしょう。ハードウェアはこのような訓練や地域の助け合いを支援する程度のモノとして考えるべきです。ソフトを最適に運用するハードという考え方です。公園のなかや歩道の一部あるいは、許可を取って個人宅の玄関や軒先あるいは駐車場などを防災集合スポットとして、日ごと井戸端会議ができるハードの工夫を考えるべきです。人と人のつながりが災害に対するしなやかな保護壁であり災害からの復活のスタートとなります。

《実現するための取り組み方針》

④ バラバラが あるきかけて まとまれる

⑤ 小金井市は防災訓練は実施されていますが、参加者は限定されます。何らかの組織に所属するか、かなり意識の高い方でないとなかなか参加しません。これは本質的に地域社会の、社会としての崩壊に起因しています。ベッタウンである小金井市は都心で働き武蔵小金井、東小金井駅から、多くの方は家に直行でしょう。そして翌朝早く都心へ出勤です。その意味で小金井では地域のコミュニティ作りは難しいのです。だからこそ知恵を出し合って地域社会の再構築が必要です。若干の行政の強引とも思える指導も必要です。地域社会のコミュニティで活きているのは小学校のPTA活動です。人質論の若干あり、はじめは嫌々ながら参加していくなかでママ友ができます。また犬の散歩仲間も散歩を通して作られます。地域社会に引っ張り出すには嫌みのない程度に強引さが必要でしょう。何かのイベントに参加しないとまずいと思えるような強引さのために、そのリーダーには「市役所でこう言っているから」と言い訳できることも必要です。もっとよい取り組みは必ずあるはず。そのもとで誰もが参加でき参加してみようかなと思える日常的なイベントを企画して、地域社会の住民が顔見知りになることから始めることです。そのうち近所の家でお茶でも飲み始めたら、しめたものです。時間はかかるかもしれませんが、地道に地域のつながりを作ることです。もっよ良い取り組みは市民の知恵を借りたり他の地域での成功例などを分析して編み出すことです。ラ

【安全・安心】

《目指すべき姿》

② 小金井市 オレオレ詐欺師に 宣戦布告

③ オレオレ詐欺は信頼し安心できる社会にとって最も大きな敵です。NHK が毎夕方「STOP 詐欺被害 私は騙されない」を見るたびに日本の社会の不安を現実のものとして受け止めざるを得ません。電話をかけた人が嫌だろうと思いながら、電話を留守番モードにしたりオレオレ詐欺対策モードにする自分が嫌になります。小金井はオレオレ詐欺の被害の

頻発エリアといわれます。皆さん人が良い素晴らしい人格者なのです。しかし一度、オレオレ詐欺の電話やショートメールを受けると、まして被害にあうと人を疑わざるを得ない嫌な性格になってしまいます。小金井はオレオレ詐欺に宣戦布告し万全の体制を取ります。

《実現するための取り組み方針》

④ 市民みな 詐欺師の情報 共有する

⑤ オレオレ詐欺の電話やメールなどを受けたら速やかに警察などに知らせ、市役所と警察が協力して、詐欺師の電話番号やメールアドレスをオンラインで大々的に公開するなどを行います。市民、警察署と行政が密に連携して取り組む必要があります。

【産業】

《目指すべき姿》

② 勇気出せ 業の転換 商店街

③ 高齢化に伴う廃業は現実問題として深刻です。地域経済にとっても問題です。少し厳しく言えば、「もう少し早めに手を打っておれば」とも考えます。「業」の中身を変えることは容易ではないですが、時代に即した業への転換を図っておればです。後継者問題には、若い後継者の自らの将来へのリスクヘッジの心理もあるでしょう。もし後継者の将来が明るいものなら、多くは業を継ぎ更に発展させたいと思うはずです。小金井市という魅力的に地にある業は時代の要請に応えながら業を転換していけば明るい展望が開けるはずです。この10年間でそれ以前に存在しなかった多くの仕事がありました。これから10年もITを駆使した今までないなかった多くの種類の職業が生まれるでしょう。ネットで「今後10年で生まれる新たな仕事」等で検索するといろいろな可能性が示されています。高齢化に伴う事業継承が問題として顕在化するまえに、のれん替え（業の転換）のための研究会や情報提供は地域経済を持続可能にするための方策です。ゼロから起業するよりは、既存の業から転換を図る方が経済的成功の可能性が高いのです。

《実現するための取り組み方針》

④ 業転換 必要情報 得る街に

⑤ 製品寿命でいけば機械は100年、計測器は30年、電子回路は3年、ソフトは3か月といわれます。製品寿命はメーカーが定めますが、商品寿命はマーケットが決めます。電子部品の製品寿命が10年でも商品として流通するの製品寿命は1年というのものも多くあります。これらを扱う商店が売る「商品をどう選択するか」や「商いの進め方」において寿命があると認識すべきです。現在の「業」の在り方は毎日見直しマーケットに対応させるべきものとまず認識すべきです。そう考えたうえで、現在自らの「業」に勤しむ人は、現在の仕事の質を上げつつも10年、20年スケールで自分の仕事が存続できるかを考え積極的に現在の仕事を起点としてどのような方法に舵を切るべきかの研究は欠かせないのです。

これは個々の事業者の責任でもありますが、行政としてこれらをサポートする取り組みがあってもよいのです。経済動向というよりも少しリアルにそれぞれの業者が舵を切るべき方向に必要な情報が得られるような研究会を企画してはいかがでしょうか。

- 政策2 地域・経済
- 政策3 子ども・教育
- 政策4 文化・生涯学習
- 政策6 行政経営

参考資料 1 (<https://forbesjapan.com/articles/detail/19085> より)

<p>今後5年で生まれる可能性のある職業</p> <ul style="list-style-type: none">データ探偵BYO(個人所有機器活用)ITファシリテーター倫理的な調達(ES)責任者人工知能(AI)事業開発責任者エッジコンピューティング専門家散歩・会話の相手フィットネス・コミットメント・カウンセラーAI支援医療技師サイバー都市アナリストゲノム・ポートフォリオ・ディレクター人間と機械の協働責任者財務健全性コーチデジタル仕立屋最高信用責任者(CTO)量子機械学習アナリスト	<p>今後10年で生まれる可能性のある職業</p> <ul style="list-style-type: none">仮想店舗シェルパ(案内役)個人情報ブローカー個人記憶キュレーター拡張現実(AR)旅行構築者ハイウエー制御官遺伝子の多様性責任者
---	--

参考資料 2

80. シャッター街の再生はどのように？

最近シャッター街をよく目にします。昔の栄華いまいずこです。スーパーマーケットは組織的な効率的に多量購入と販売を行いコストも合理化できます。スーパーが多くなれば、メーカーは品ぞろえを増やします。スーパーの規模は一つの街の商店街をすべて飲み込んで有り余ります。郊外にあっても自動車で一〇分程度であれば、消費者はそちらを選びます。かくしてそれまで栄華を誇った商店街はシャッター街化したのです。もし商店街が将来の物流インフラを考え、商店街そのものスーパーマーケット化を考えていればシャッター街化は避けられたのです。悔いても始まらない、どうするか。商店街は住民や流動者の多いエリアにあったのですから潜在力はあります。多様な産業への転換です。特色あるもの販売、教育、医療・福祉、開発型企業のSOHO、アートデザインオフィス、ネットカフェ、カフェ、パブ、裏側の住居は学生向けシェアハウスなどへの展開です。またシャッター街化の他の原因は後継者問題です。後継者になるべき人は将来を読み切っていたのです。後継者が展望を持てる業種への転換が必要です。そのためには今までの業に囚われる構えを捨てて思い切った中心転換が必要でしょう。

ポイント

- ① 商店街がシャッター街になったのには必然がありました。その必然から学び、新たな事業展開が必要です。
- ② それは後継者が魅力を感じ確信が持てる多様な産業への展開です。従来の商売の構えを捨て、広く世の中を見直すことです。若いものに任せてもいいのではないのでしょうか。

川柳

- ③ シャッター街 昔の栄華 いまいずこ
- ④ 次世代が 再創業者 過去を捨て
- ⑤ 就活の 意識を変えて 創職へ

渡邊嘉二郎, 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

【農業】

《目指すべき姿》

② 農耕地 狭いからこそ 質上がる

③ 「都市における農業を元気にするには？」

現在、都市には僅かしか農地が残されていません。この農地は緑化に寄与し牧歌的空間を醸し出します。一方、都市の農家は農地が狭すぎ専門農家というわけにはいきません。勢い農地を宅地に用途変更しアパートを建てます。農業を引き継げば、税金はかからず、いつか土地が値上がりしたときに処分すると考えます。これではいつか都市から農地は消えます。

渡辺嘉二郎・城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）.

《実現するための取り組み方針》

④ 都市農業 6次産業 良い事例

⑤ 都市における農業を業として成り立たせる方策は、農産物を加工し販売まで一貫した(1×2×3)次産業=6次産業化でしょう。この考えはTRIZ#5組合せ原理そのものです。その場所に都市が成立した理由は様々でしょうが、一つに歴史のあるいは文化的な何かがあったからです。その歴史文化をブランドにして商品进行設計することです。また虫がつくくらい美味しい作物を栽培し、小まめに虫を取り除き大切に育てるのです。そしてその美味しさが最大限に發揮できる高付加価値の加工品を作るのです。消費地はすぐそこにあります。営業は昔に比ベネットで比較的容易に展開できます。少量でも高付加価値の加工品を作ることで豊かな都市農業生活ができるでしょう。その地の住民はお歳暮や中元に地元の品物を贈りたいですね。

ポイント

- ① 都市における農業は農業の6次産業化に最適なポジションにいます。
- ② その土地の歴史や文化に係りがありかつ手間のかかる美味しい農作物を丁寧に栽培し加工から販売までを手掛けるのです。
- ③ 商品はやはり誰にとってもおいしいことが成功の生命線です。

川柳

- ① 都市農業 6次産業 良い事例
- ② 魅せる都市 近くに自然 ともにある
- ③ 農耕地 狭いからこそ 質上がる

渡辺嘉二郎・城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）.

【観光】

《目指すべき姿》

② 潜在す 観光資源 顕在化

③ 「野川とサンアントニオの運河のちがい？」

東京西部に野川という小川ですが一級河川があります。鯉が棲み、鴨、白鷺、野生化したアヒルときに鵜を見ることができます。川の畔には小金井から深大寺に一時間ほどのせせらぎを楽しめる散歩道があります。知る人ぞ知る路で普段は鳥のさえずりだけ。

《実現するための取り組み方針》

④ とらわれず 想像広げ 顕在化

⑤ 遠く離れますがアラモの砦で有名なテキサス州のサンアントニオ、ここにも小川があります。サンアントニオ川という運河です。この兩岸にはメキシコ風のパブ、レストランが並び、ソブレロをかぶったメキシカンがギターを奏でております。運河には小舟が浮いていて暑い乾燥したテキサスで自然の涼のもとで食事が楽しめます。

野川の路を歩くとき思うことは、このサンアントニオ川のにぎわいとの違いです。もちろん歴史的背景の違いがあり単純に比較できませんが、一つに野川が一級河川からかなと思いがよぎります。野川は河川災害防止、河川の適切利用が維持できるように河川法で管理されております。おのずと規制があるでしょう。規制は厳格に思考の範囲を決めます。それではよい発想は浮かびません。実現するか否かは別として、一度この規制の枠を外して自由に野川周辺の空間利用についての思考遊びはいかがでしょう。

ポイント

- ① 我々の周りには素晴らしい潜在的な観光空間があります。
- ② しかし時として、その空間の法的規制がその地の潜在力を顕在化させる妨げになることがあります。実現の可否は別として、その地を舞台として様々なシナリオを創造的に描いてみることも我々の財産です。

川柳

- ③ 法規制 想定よりも ストリクト
- ④ ストリクト 発想自由度 最小に
- ⑤ 運河でも 舞台整え 観光地

渡邊嘉二郎. 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）.

参考資料 3

82. 観光スポットはどう作るのでしょうか？

観光スポットの条件は、風光明媚と名所旧跡でしょう。うまく道路付で今まで注目されなかった風光明媚な場所をライトアップすることも一案ですが自然環境に依存します。名所旧跡はライトの当て方でいくらかでも作れそうです。麻布界隈は江戸の文化を残す地名が多くあったのですが、麻布ブランドの人気の麻布を含む地名に変更され歴史が見えなくなったのは残念です。旧町名は歴史を物語っています。古戦場などの地名は何の戦いがあったのかと興味にそそられます。現在では高層ビルで見えなくなった場所で富士が見えた富士見が多くありそこを通るたび昔の情景を想像します。観光スポットは路傍の石ほどあるのです。その石を磨けばよいのです。磨き方はその石の歴史と文化です。いまや誰も振り向かない路傍の石でも、それを巡り人が涙しあるいは歓喜したのです。ただ至る所にそのような路傍の石があり、それを磨いてはじめは注目されても人々は忘れ去るでしょう。その石が輝き続けるためにはその調査はもとより、その石にまつわるお話の創作が必要です。そしてそのお話が語り伝えられるだけの魅力にあふれる音韻と内容です。まさに温故創新を行うことです。

ポイント

- ① 観光スポットは路傍の石のようにどこにでもあります。その石にまつわる歴史文化を調べ、その石に係った人々の心情が解るような美しい音韻でつづられる魅力的な創作があればいいのです。
- ② その創作が読むことで心地よく楽しければ昔話として伝承されるでしょう。

川柳

- ③ 大仏の 下に石とて 同じ歳
- ④ 当たり前 地名に歴史 隠れてる
- ⑤ 史実こそ 人の心を 震わせる



この写真は夏名漱石の「草枕」の一シーンで、画工（漱石）が小天にある那古井の宿で逗留したとき浸かった湯船です。画工が湯船に浮いているとき、宿の娘である那美さんがモウモウと立ち込めるこの風呂の洗い場に入ってくる現場です。画工の漱石は那美さんその美しさを絵画に負けないタッチで文章にしています。漱石ファンにはたまらない湯船です。

渡邊嘉二郎・城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

参考資料 4

76. 地方の物産が全国版になるためにはどうするの？

「地方の」の英訳に local があります。local の和訳には一地方特有のという意味があり、地方の物産は一地方特有のものなのです。地方特有なものはその地の文化の反映で、全国版にするには工夫がいきます。納豆、青かびチーズ、くさや、シュールストロミング等は優れた発酵食品ですが地方特有の気候風土に育まれたものであり地方特有です。初めて食べるものに抵抗感があります。まともな料理も闇鍋では怖い。アメリカのご婦人に刺身の食感を尋ねられ、私は TRIZ #10 先取り作用原理の考えに基づき「生オイスターや生シュリンプより普通」と答えたことがあります。これは彼女を闇鍋から解放しました。一地方特有の美味しさは味を知ると誰にでも美味しいのです。闇鍋に光をあてることは、それをいかにエレガントに表現するかです。ものを食べてその味覚の表現の力でその人の格が見えます。大好物であった羊羹の表現において夏名漱石の右にでる文化人はいないでしょう。一地方特有の食べ物を全国版にする一つの方策は、その味と見映えを正確に優美に表現することです。ワインを飲み、「このワイン酸味のスペクトルが立ちすぎているね」とかその味をエレガントに表現してみることです。

ポイント

- ① 地方物産は食べ物であれものであれ、その地方の気候風土や文化の影響を受けその地方特有なものです。
- ② 知らないもの食べたことのないものは闇鍋とおなじで手が出しにくいのです。地方特有なものは闇鍋と同じです。
- ③ 闇鍋に光を当てるのは、そのものの素性をエレガントにソフィスティケートに表現することです。

川柳

- ④ 食わないで 嫌いと言うは ヒトの性
- ⑤ ゼリーより しっとり綺麗 薄羊羹
- ⑥ 恰好よい ソムリエ言葉 そう信ず

渡邊嘉二郎. 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

【消費】

《目指すべき姿》

- ② —
- ③ —

《実現するための取り組み方針》

- ④ —
- ⑤ —

【就労】

《目指すべき姿》

② 学生の 仕事を通し 実まなぶ

小金井は 市街全域 キャンパスです

③ 下記の参考資料5に示した通り、学生アルバイトは日本における労働力源として小さいものではありません。しかし学生を単なる労働力源としてみることは問題です。学生が本来取り組むべきことは勉強だからです。私の現役時代「学生時代の大切な時間を時給千円で安売りするな、将来の貯蓄としてこの時間で原書を読め」と言い続けてきました。いま考えるとこの叱咤は現実から乖離した綺麗ごと半分反省をしています。そういえば言うほど学生は内緒でアルバイトに励むからです。「勤労学生は非難されるべきでない」という考え方を盾に彼ら自身それは悪いことではないと思っているのです。実態はかつての勤労学生（生活を維持するためのアルバイト）のような学生は少なく、レジャーに必要な小遣い稼ぎなおんですが。しかしそれにしても親の負担を減らしていることは事実で、そこには意義があります。「学生アルバイトを禁止して勉強ののみに勤しめ」は現実的ではありません。

であるとすれば、アルバイトを積極的に教育の一環で、実学に触れる機会ととらえてみてはいかがでしょうか。かつて学生相手の90分の講演で、「アルバイトはやむを得なくするのであれば、学びの場ととらえなさい」とほんの一分足らずの話をしたことがあります。講演に関するアンケートでアルバイトを是認されたととらえ、この件に関する好意的な感想がの50%以上でありました。ただとらえ方は「人付き合いやマナーの習得」という学問とはかけ離れたものでした。小金井市は市内全域を大学キャンパスであるとして、小金井で勉強の一環としてアルバイトを位置づける取り組みをしてはいかがでしょうか。

《実現するための取り組み方針》

④ アルバイト 実学機会 一石二鳥

⑤ 小金井市が学生アルバイトを受ける際の法律（条例）に基づく基準を制定します。併せて学生および学生を受け入れる側が、学びの機会として、そのアルバイトをどのように位置づけるかの共通認識を持ちます。できれば、仕事の内容に応じて体系づけるレポートなどがあるといいですね（社会科学、経済学、経営学、労務管理、理工学、流通論、接客心理学）。もしこのような位置づけでアルバイトに勤しめば、学生にとって、それは単なる労働力の提供に対する対価を超えた、まさに学習の場になります。アルバイトを雇う方に見れば、学生がもしレポートを提出するとすれば、「業」の在り方のヒントとなります。将来的には大学と連携してインターンシップとして単位の認定もあるかもしれませ

ん。単位認定となると制度が優先して生き活きたアルバイト学習を妨げる懸念もありますが。

このような取り組みの副次的利点はブラックバイトの排除や学生保護に役立ちます。もし小金井市が目に見える形でこれを表明すれば、多くの学生が小金井に住む世になるでしょう。表明の事例として、小金井市が「学園都市宣言」をして、そのなかに小金井市全域は大学のキャンパスとして位置づけ、その中でのアルバイトに従事することは法的に守られ、しかもアルバイトは学問の場であるという宣言文を入れることです。

このような取り組みは多くの企業体にも魅力です。小金井に事務所や開発拠点を置く企業も現れるでしょう。小金井市における企業の呼び込みの策でもあります。

参考資料 5

84. アルバイトは実学として価値を持ちませんか？

文部科学省の文系学部改編の通達が物議をかましました。大学関係者はその通達に不自然さを感じましたが、あり得ることとも捉えられました。それは国際競争力という国のキーワードと、一部の文系大学生の^{ていたらく}為体を知るからです。その内容は、いかに最小エネルギーで単位をとりアルバイトに最大エネルギーを注ぐかです。教員として「学生時代の大切な時間を時給千円で安売りするな、将来の貯蓄としてこの時間で原書を読み」と言い続けてきました。いま考えるとこの叱咤は現実から乖離した綺麗ごと半分反省をしています。スマホ、コンパや卒業旅行に金流れ、そのためアルバイトは必須なのです。その現実を直視し、TRIZの#22「禍転じて福となす原理」を活用して、アルバイトを大学教育の一環に取り入れる発想転換はいかかでしょう。アルバイトは実学の場です。接客でもよく考えて取り組めば大学の座学より身につくのです。ブラックバイトで不法に時間を安売りしないように大学が管理し効果的に実学になるアルバイトを紹介し、そのアルバイトの経験を自ら普遍化させるという講座です。彼らのレポートでアルバイト経験がどれだけ普遍化できているかで評価するのです。

ポイント

- ① 学生は昔の苦学生とは異なった事情であるがアルバイトをせざるを得ない状況にあります。それを禁止することはできません。
- ② アルバイトを実学として捉え、大学のカリキュラムに取り込みます。アルバイトの個別的な経験を普遍化する課題を貸してレポートしてもらい、自らの経験を学術成果としてレポートしてもらい評価するという考えです。

川柳

- ① アルバイト 禁止と言っても 守られず
- ② アルバイト 実学経験 良い機会
- ③ バイトでの 自分の経験 学術へ

渡邊嘉二郎. 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

参考資料 6

38. 最高の教室ってどこ？

何事も現場は最高の教室です。教科書に書かれていることは過ちではありませんが、それを読んで分かったという人はほとんどいないでしょう。試験の問題に解答できると意味では分かったのであり、実体としては分かっていません。テレビでプロ野球の選手の投げたボールのスピードが時速154kmと言われても、経験者以外はピンときません。そのボールを自分のグローブで取ったとき、その桁違いさが身をもってわかるのです。何事であれ現場は物事の本質を教えてくれる最高の教室です。パソコンを買ってきてマニュアルを読んでもよくわからないが、実際パソコンを箱から出していじってみて初めてマニュアルの言いたいことがわかったという経験があるでしょう。アンラーンできたのです。現場経験はそれなりの時間がかかります。この代替が展示会の参加や工場などの見学です。展示会で初めて見る製品もあるでしょう。そこではこんな製品があるんだと経験が積めます。馴染みの製品を見たときその進歩に驚くでしょう。工場見学に行くと我々が何気なく使っているものの製造過程がよくわかり、そのものに対する想いも一段と深まります。

ポイント

- ① 現実には嘘をつきません。誤った実験装置では思い通りの結果はできません。現場は現実の場であり、厳しいですが最高の学びの場です。
- ② 現場体験や実物を見る展示会は学校の教室より、優れた教室です。

川柳

- ③ 最高の 学び舎求め 現場に立つ
- ④ 集団で 就職せり友 賢者なり
- ⑤ 社会こそ 実識授ける 学府かな

渡邊嘉二郎, 城井信正 ものづくりの発想法 (法政大学出版局 2016年10月)

政策3 子ども・教育

【子育て・子育て】

《目指すべき姿》

- ② —
- ③ —

《実現するための取り組み方針》

- ④ —
- ⑤ —

【児童福祉】

《目指すべき姿》

- ② —
- ③ —

《実現するための取り組み方針》

- ④ —
- ⑤ —

【幼児教育】

《目指すべき姿》

- ② —
- ③ —

《実現するための取り組み方針》

- ④ —
- ⑤ —

【学校教育】

《目指すべき姿》

- ② **創造性 ヒトの最後の 砦かな**
教育は 子供を信じ 伸ばすこと

③ 文部科学省も「考える力」を教育の指針の一つにしています。明治以来、日本は西洋文明の取入れに必死でした。多くのドイツ語、英語のテキストは日本語に翻訳され欧米の知識の取入れに躍起でした。第二次世界大戦後もなをその風潮は続きました。半導体関係の国際会議で海外の研究者の発表のときスライドが切り替わるたびにそのスライドを写真にとるシャッター音が鳴り響いたものでした。その後、これらの技術は台湾、韓国、中国に移転され、日本はもぬけの空の状態です。

自らの考えに基づき、新たな価値を自ら創造する以外、日本の生きる道はありません。この担い手は日本国民すべてですが、将来の担い手は子供たちが重要です。定型の仕事や大量の情報の中から必要情報を探し出すことはコンピュータが得意です。その能力は人間をはるかに凌駕します。またよく定義された問題（well-defined problem:例えば将棋や碁などのルールが明確に定義された問題）に対しては最近では人工知能（AI）がかなりの力を発揮しています。AIはまだ未完成ですが、近いうちにかなり多くの分野で人間の能力

を超える可能性があります。そんな中で、「人間に残された仕事はなにか？」は本格的に由々しき問題としてクローズアップされてきました。そんな中で「無から有を生じせしめる創造」だけが人間に残された仕事といわれますが、ことて「価値を定義し、その価値を実現するシステム（「もの」や「こと」の組み合わせ）を創れ」という創造問題の問いにAIは答えを出す可能性があります。人間とは何か、すなわち人間のもつアプリオリ（先験的）な認識能力、倫理的本性、身体能力をよく理解したうえで、機械（コンピュータやロボット）ではできない人間の能力を磨きのぼすことを真剣に考えなければなりません。

小金井には三大学があり、大学教員、教育現場の人間、行政が集い、小金井市の問題と限定せずに広く深く教育を論じること可能な場です。

参考資料 7 「34. 人間に残された最後の砦？」参照

《実現するための取り組み方針》

④ 教育は 子供を信じ 伸ばすこと

納得は 忘れていても 蘇る

⑤ 教育は「教師の仕事は、子供に余計な知識を詰め込み歪めるのでなく、子供の持つ本性を信頼してそれを育てるために支援すること」（ルソー（Jean-Jacques Rousseau : 1712 - 1778）の社会契約説）です。それは45年にわたる拙い私の教育の到達点「教育とは教えないこと」と一致します。学生諸君の興味の中身を広げその視野を広げ深めるための支援することでした。そこでは内容に関する私の知識はむしろ邪魔で学生が彼らの興味を深めるために必要な知識は自ら習得したのです。学生の興味の意義を知らせそれを深めた結果は立派な学術論文にできたのでした。

孫が1, 2歳の時に書いた落書きは、幼稚園の年長になりテーマを決められて描いたこじんまりした絵に比べ、はるかに優れています。のびのびとしており紙面いっぱい広がる線や何かを意味する何重にも鉛筆を回して描いた円は芸術的でした。

おそらくヒトには先験的な認識能力、倫理的本性、身体能力を持ち、その基盤のもとで経験を通じて、良くも悪くも形づくられるのでしょう。

このようなルソーの教育論をどう自実践に結びつけるかの方法論は現状の教育法とのかかわりあいでも構築していかなければならないでしょう。しかし少なくとも、小金井市における教育理念は大いに議論して教育の現場で活かしてほしいものです。

参考資料 7

34. 人間に残された最後の砦？

科学的行為は定められた手続きと手法により内容が不明な現象の因果関係を明らかにすることです。科学は人類に未曾有の益をもたらしました。肉体労働を、自然のエネルギーを用い機械に置き換え、肉体労働を大幅に軽減しました。二〇世紀に入り科学技術の知見を基礎にコンピュータが発明され、これは人間の知的労働を大幅に軽減しました。最近のコンピュータは将棋の名人と互角に戦えるようになりました。人間の肉体労働や知的労働が必要なくなると、それを支えていた人間の能力は退化していきます。スポーツで体を鍛えている人は別として、平均的に肉体労働が必須の時代の人間と現代人では肉体的退化があります。またワープロを使いだすと漢字を忘れ、カーナビ搭載の自動車を運転すると土地感が鈍ります。コンピュータは人間のある種の知的能力を退化させています。もし創造の過程が科学的に明らかになり手順として整理できたなら、知的生命体である人間は何を行えばよいのでしょうか。創造のためのガイドラインはあり得ますが、最後のヒラメキなどの知的活動は人間に残された最後の砦です。こう考えるとこの文明社会では意識して創造性を育む努力が要りそうです。

ポイント

- ① 科学技術の成果は人間に未曾有の利便性を与え、その結果として人間の持つ能力が退化しています。
- ② この中で創造を科学技術に委ねることはできません。人間に残された最後の砦が創造性です。

川柳

- ③ 万能の はずの科学が ヒト退化させ
- ④ 創造性 ヒトの最後の 砦かな
- ⑤ 文明の 進歩文化が 受けきれず
- ⑥ 文化的 文明人なる 呼称なし
- ⑦ 科学者は 科学を万能と 思わざる
- ⑧ 創造性 非科学的と 批判ある

渡邊嘉二郎. 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局 2016年10月）

参考資料 8

35. 教育と学習どこが違うの？

教育の主語は教師です。一方、学習の主語は学ぶ主体としての「私」です。四五年間の大学教員として得たことは「教育とは教えないこと」でした。自分が苦勞して仕入れた知識を教えたいくなるのは人間の性です。教師はつい自慢げに教えたいくなるのです。給料をもらって自慢できるそんな仕事は許されません。教師の仕事は生徒・学生に自ら学びたいくなるように仕向けることです。ルソー（Jean-Jacques Rousseau：1712 - 1778）は社会契約説の教育で「教師の仕事は、子供に余計な知識を詰め込み歪めるのでなく、子供の持つ本性を信頼してそれを育てるために支援すること」と言っています。ルドルフ・シュナイター（Rudolf Steiner：1861 - 1925）はルソーの考え方を実践するシュナイター教育を確立・実践しました。ルソーの思想は私の経験知とよく符合しますし、まさにこの教育論こそが創造性を育むのです。ただ活きた知識の量は創造性の範囲を広めます。個々の経験や学んだことを納得しておく、例えそれが意識の中から消えたとしても、フロイトの言う無意識の脳の中に記憶され、必要性が高じれば意識に顕在化されるはずで、納得することとは高次の脳機能と記憶にしっかりと残り、詰め込みは無意識の中に残らないでしょう。

ポイント

- ① 教育とは生徒・学生のもつ本性を信頼してそれを育てることです。
- ② 学習は納得感を得たときその内容が高次の機能を持つ脳に記憶されます。例えその内容が意識されなくても、必要性が高じればそれが意識に顕在化します。
- ③ このような学習こそ創造性を育みます。

川柳

- ④ 教育は 子供を信じ 伸ばすこと
- ⑤ 教えない これぞ教育 真髓ぞ
- ⑥ 納得は 忘れていても 蘇る

渡邊嘉二郎・城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

政策4 文化・生涯学習

【芸術文化】

《目指すべき姿》

② 喫茶店 創作論議に 花が咲く

③ 芸術文化活動への参加の方法は二つあると思います。一つは批判も含めた「鑑賞」であり、もう一つは「創作」です。これらのうち「創作」経験は鑑賞の質を深めます。市民交流センターやはけの森美術館における「鑑賞」と「創作」の関わりの比率はわかりません。センターやはけの森美術館の作り運営方針から推測すると、ほとんどが「鑑賞」ではなかろうかと推測します。小金井における芸術文化では、意図して「創作」に重点を置いてはどうかと推測します。芸術の都パリやニューヨークの倉庫アトリエは創作の場でありそのことが町の魅力を作っています。

油絵等の絵の創作にはそれなりの空間が必要です。センターやはけの森美術館の一角を創作の場として市民に開放してはいかがでしょうか。

一方、絵を描く人は我が家にその場を確保している方が少なからずいるでしょう。専用の空間を北側の部屋に持つ方、台所で描く方と様々でしょうが。このような人が欲しているのは「創作」の結果の発表の機会です。様々な場所、時期で気軽に発表できる空間を作ってはどうか。

文章（文学）作品は、基本的に自らの書斎（机）のうえでしょうが、しかし文章書き仲間がときに雑談あるいは議論ができる場があればこれはこれで面白い。この場は行政が用意する場であってもよいでしょうが、むしろ彼ら同人の自宅を回り持ちでもいいのです。行政がやるべきことはきっかけを作ることです。そのきっかけの一つに、文学作品の小金井賞（さくら賞、むさしの賞などもう少し情緒がある賞）があり全国から作品を応募し発表の機会を与えることも考えられる。ちなみに今年度の芥川賞程度であれば小金井賞はもう少し格があげられそうです。審査員は三大学の文学関係の教授陣とどなたか作家が加わればよいのです。

小金井には小金井さくら写真展という自主的な素晴らしい企画であります。行政のかかわりはほとんどなく、このことは残念です。おそらくこのほかにも自主的な芸術活動を行っている団体があるでしょう。このような活動に行政は光を当てるべです（資金援助というより広報援助において）。

社交ダンスや日舞および音楽はそれなりの伝統がありやり方が定まっていると思われまます。このようなやり方を参考に創作する芸術文化活動を方針として、小金井市が文人、絵描き、作家の街にしてはいかがか。

《実現するための取り組み方針》

④ 小金井市 芸術都市と 宣言す

既にある 企画アピール するだけでも

名所をば 生徒の俳句で 案内を

⑤ 既に③にいて個別具体的なことは述べましたが、これを実現する取り組みは「小金井芸術都市宣言」あるいは「小金井学園都市宣言」のなかに「芸術都市宣言」を入れることが一つの方策です。小金井における芸術に対する理念（あるべき姿）を表明するのです。中身が0であると詐欺になりますので、最低限の取り組みは計画することです。容易にで

きることとして、センターやはげの森美術館にアトリエ空間を作り、スケッチや写生のオブジェを置き広報すること（この時、画家が一人付き添うとよい）、市の公募の絵画展覧会を開くこと、市公募の文学賞を設けて公募すること、などが考えられます。市には顕在化しない芸術家が多くいるので応募はかなり集まるでしょう。小金井市が芸術都市として認められるようになったら、フィラデルフィアまでいかなくても街の各所にオブジェが置かれるように、これらは新たな街の観光資源となります。

もう一つ簡単にできることは（これは小金井市が防災協定を結ぶ北上市で行っているが）、中学、高校生に詩歌（俳句か和歌）を学校を通して応募し、優秀作品を市報に紹介することです。その中で小金井市の名所をテーマとして応募し特に優れた作品がある場合には、その句を同意ある場合には作者の名前とともにその場所に小さなプレートでかまわないから設置することである。作者は小金井に愛着を持つでしょう。

【生涯学習】

《目指すべき姿》

② 学習の 成果が活きて やる気出る

③ 文部省によると生涯学習は次のように定義されます；「生涯学習社会」とは、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」（平成4年生涯学習審議会答申）ような社会であるとされています。18年12月に可決・成立した改正教育基本法第3条においても、新たに「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とされており。

生涯学習の取り組みの目的にマズローの5段階欲求の「自己実現」のためとする考え方が少なくないように思います。しかし事態はそれほど悠長ではないのです。人生100年時代、得られる「年金+2000万円程度」の資金が必要との役人の話を政治家は必死に抑え込み火消しに躍起となった。その姿を見れば見るほど、役人のシミュレーションのリアリティが増します。これは平均であり、不足が1000万円の人もいれば3000万円の人もあるであろう。生涯学習は「自己実現」というより「欠乏欲求」を満たすために必要なかもしれない。文部科学省は正直に、上記の定義のように、成果が適切に評価される、の成果を適切に生かすことのできる社会の実現としているのです。

成果が適切に評価されるあるいは活かすことができる内容は、「食うに困らないように」とも読めるのです。このこと自体は高齢者にとって、のっぴきならぬことですが、他人さまのためになることで喜びを覚えるという人間の本性（と私はおもうのだが）とすると、学習して成果を上げ、その成果を活かし、他人さまが喜び、その対価として腹の足しになることが保証されれば、それはそれとして良いことと思うのです。

関西のどこかの集落で料理の「つま」の葉っぱを里山で刈り取る高齢者ビジネスのニュースをテレビ見たことがあります。携帯端末で注文を受けて、必要な「つま」を刈り取り、出荷するというものでした。携帯端末は簡単に指を触れるだけで操作できるソフトが組み込まれているものと思いますが、彼女たちにははじめ抵抗があったと思います。それを乗り越えて学習し、収入を得るというシステムは、成果が適切に評価システム（社会）に一例

です。

既に貯金が十分ある高齢者、あるいは若いころから個人年金に加入したり社内年金に加入しており厚生年金額×2の年金を受け取れる人にとっては、成果が適切に評価される内容が欠乏欲求（生理的欲求）に応えるものではなく、では自己実現欲求かといえばそうもいかないと思います。むしろ、社会的欲求や尊厳欲求が適切に満たされることを望むまのではないのでしょうか。これらは他人さまのためになるという本性によるものです。自己実現要求を満たす実体はかなり高尚なことです。

結論として、生涯学習の成果を適切に「活かす」ことも含めるべきです。「活かす」中身は上述のように生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、尊厳欲求そして自己実現欲求を満たすことです。生涯学習に取り組むことで、「食えるようになった」、「病気の不安も少なく安全に暮らせるようになった」、「友達ができていい付き合いができるようになった」、「皆から尊敬されるようになった」そして「自分自身で満たされるようになった」が成果が活かされることです。

《実現するための取り組み方針》

④ 得た知見 他人のため 役立てり

⑤ マズローの5段階欲求説、すなわち「食えるようになる」、「病気の不安を少なく安全に暮らせるようになる」、「友達ができていい付き合いができるようになる」、「皆から尊敬されるようになる」そして「自分自身で満たされるようになる」は一応是として受け入れ、ための生涯学習カリキュラムを作ることです。それぞれの欲求を満たすカリキュラム内容は個別に考えられるますし、小金井市の他の政策にも深くリンクするでしょう。個別に内容を考えたりアンケートで要望を聞きカリキュラムを構築することです。講師は他の政策にかかわる人をお願いしてもいいでしょう。

【スポーツ】

《目指すべき姿》

② 成果より 努力の評価 人気あり

潜在す 努力に光 当ててみる

③スポーツは身体を動かすこと自体であるいは、身体を動かしたを工夫してよりよく動かせるようになることに感じる人間の喜びかもしれません。そのためには苦しい訓練が伴います。このとき、実体としては、本来的な喜びよりさらに強い「競技に勝ちたい」という思いがないでしょうか。しかしこのための訓練で体を壊しては意味がありません。

スポーツの意義の一つに健康であることがあり得ます。この考えをもとに、適度な競争および自らの努力を評価する仕掛けが下記の参考資料に述べるサイバー健康マラソンです。この取り組みでスポーツを通じた持続性のある訓練を実施します。

《実現するための取り組み方針》

④ サイバーの フィールドで競技を 競うわれ

⑤ 個々人の健康のためにスポーツ訓練量を見える化し、サイバー空間で参加者とその情報を共有します。するとそこでは「スポーツ訓練量」を指標とするスポーツフィールドが広がります。この指標により自分のランキングがわかります。そこには競争の心理が作用し、取り組みのモチベーション（誘因）となります。サイバー空間の中にコンペティターの人格を想像できます。そして自分なりに頑張ったと思えば、自分でほめてやればよいのです。

参考資料 9

86. サイバー健康マラソン？

日本体育協会スポーツ憲章前文は「スポーツは、人々が楽しみ、より充実して生きるために、自発的に行う身体活動である。生涯を通じて行われるスポーツは、豊かな生活と文化の向上に役立つものとなる。」と謳っています。一方、スポーツはその成果を競う大会がありその大会に参加できるのは選ばれた僅かな選手です。選手が大会で優勝すると月桂冠の栄を受けます。優勝は日頃の精進の成果であり評価されるべきものですが、大会に出られなかったスポーツ実践者にも月桂冠をと考えてしまいます。夜、散歩すると必死にウオーキングする人を見かけます。それは彼らの自己実現のためかもしれませんが、人間は併せて社会的欲求や尊厳欲求を持ちます。その欲求でモチベーションが上がることはマズローの説です。選手でないスポーツ実践者の努力に月桂冠を与える仕組みが健康マラソンです。スポーツ憲章のもと健康です。健康に良いことを行ったデータは運動計測センサつきスマホで得られます。これをサイバー競技場にアップします。既にこのような取り組みがありますが、総合的に取り組めば、行政の福祉予算もかなり減らせます。これは TRIZ #25 セルフサービス原理に基づく効果です。

ポイント

- ① 目に見えないスポーツ訓練データを「みえる化」して、大会に参加できなかったスポーツ実践者の努力をサイバー競技場にアップして大会化します。
- ② これにより全てのスポーツ実践者に励みを与えます。併せ適正なスポーツも含め健康に良いことの努力も見えるかして、短期ではなく数年をかけた健康マラソン競技をサイバー上で繰り返し広げるのです。

川柳

- ③ 成果より 努力の評価 人気あり
- ④ 努力の量 結局成果を あげにけり
- ⑤ 潜在す 努力に光 当ててみる
- ⑥ 感動は それを成し遂ぐ 努力にぞ

渡邊嘉二郎. 城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局 2016年10月）

【男女行動参画】

《目指すべき姿》

- ② —
- ③ —

《実現するための取り組み方針》

- ④ —
- ⑤ —

政策6 行政経営

【市民参加・協働】

《目指すべき姿》

② 協働は 行政市民 別機能 両者が無くては ことは進まず

③ 2011年3月11日の東北大震災直後のはせ参じたボランティア集団の状況を思い出してみましよう。どこでどのような助けが必要かわからない、指示を出す権限があるかないかもわからない等で現場は混乱し無政府状態でした。これは被災者を支援したいという思いを同じにした人々の集いでしたが、全く統制が取れなかったのです。しかし、何日かすると、ボランティア集団をコーディネートする人が現れ、ボランティアを適切に割り振ることができるようになりました。コーディネート(Co-ordinate)は「等位に対する」という動詞もありますが「調整する」という動詞もあります。数学的には「座標でありきちんと座標系を定め、その座標の中で配置を決めている」ともとらえられる。震災の時の現地の事情を少しでも知る人々がコーディネーターの仕事についてたのです。

行政と市民で協働する場合には、その役割は震災におけるコーディネーターとボランティアの関係と同じではないでしょうか。行政はコーディネーターであり市民はボランティアなのです。コーディネーターすなわち行政の方々のコーディネートにより統制がとられ無政府状態が避けられるのです。車に例えるならコーディネータはハンドルでありボランティアはエンジンです。それぞれの機能は異なるが両社は車が正常に動くために必要な要素なのです。

《実現するための取り組み方針》

④ 協働の 運転スキル 身につけよ

⑤ 市のために何かやりたいと思う人の潜在数は少なくありません。まずは、これを顕在化することです。しかし一旦、顕在化すると大震災のときのボランティアと同様に一時的ではあるが制御できないほどのエネルギーがボランティア運動に向かいます。この一時的な運動をうまくコーディネートすると、一時でもその効果は大きいのです。またこの成果はボランティアを元気づけ運動をの継続時間を長くします。

行政はこの制御しにくい市民の運動エネルギーをどのように制御するかスキルを身に着けることです。エンジンがフルパワーで回転するときのステアリングをどうするかです。これは研究の余地があります。ボランティアは気まぐれです。彼らの主体的条件と思いで山になったり谷になったりする。このことを前提として制御方式を考え出すのです。

【広報】

《目指すべき姿》

② 魅力ある 情報発信 協働で

③ 行政の情報発信には様々な規制がかかっていると思われます。一方、市民の情報発信は自由度が大きく魅力に富みますが権威が認められていません。それぞれ弱点と利点を持つのです。弱点を弱め利点を強める発想転換とアイデアづくりが必要です。方程式は

行政（協働）市民＝それぞれの利点が生きる

です。市民の自由な魅力に富む情報を行政が権威づけるという構図です。行政による権威

付けの方策として、市民の作るホームページに市の情報をリンクする、あるいは行政における一定のルール（公平性と公序良俗基準および行政目的の一致制）のもとで、行政のホームページに市民のホームページをリンクすることもあるでしょう。前者については小金井市のホームページが他のホームページにどれだけリンクされているか、そのリンク数で行政評価を行っています。行政の検閲権の乱用に注意しつつ上記のルールに基けば、市のホームページに市民のホームページがリンクできるようになります。

上の方程式はより自由で魅力的な広報を可能にしたいと思います。

トランプ氏のツイッターの内容は時に目を覆いたくなる情報もありますが、原爆のスイッチを握る権力者が、あれほど自由に情報を発信できるアメリカ市民の寛容に敬意を表したいです。トランプ氏のトライアルに学ぶことかもしれません。情報の扱いは慎重であるべきですが、すこし行政の規制という呪縛（付度）から自由になり情報を発信してはどうか。

《実現するための取り組み方針》

④ 捕らわれず 市民の知る権利 拡大を

⑤ 情報の扱いは慎重でなければなりません。過度に規制することは市民の知る権利を狭める可能性を持ちます。行政として開示可能な情報のゾーンを見極めた方がよいと思います。情報化社会で硬直した情報管理に縛られていると、世の中から取り残されるかもしれません。ルールは「公平性」と「公序良俗基準（これには個人情報の開示の範囲も含まれる）」および「行政目的の一致制（これを強めると市民の情報検閲という「表現の自由を」を脅かす可能性もある）」でいいなどの検討を進めるべきでしょう。おそらく総務省で作った解釈可能な基準があると思うのですが。

【行財政改革 1】

《目指すべき姿》

② 魅力ある 返礼品を 掘り起こす

③ 市役所職員の皆さんの行財政に関する意識を変える突破口として「ふるさと納税」に積極的取り組んで欲しいと思います。泉佐野市の取り組みですら研究対象であると思えずし、埼玉県における複数の自治体共同での「ふるさと納税」も研究の対象でしょう。ふるさと納税に関しては首都圏には多くの魅力があるにも関わらず、地場の農産物が主体の地方に完全に負けていると思います。「ふるさと納税」は首都圏から首都圏以外の自治体への金の流れのためではないのです。事実、泉佐野市は大阪府にあり大都市圏にあるのです。ふるさと納税における返礼品は賛否があります（私自身、もともと返礼品反対論者でしたが、その効果を考えて反対論は述べないことにしています）が、その効果は大きい。そもそも、自分の故郷でなくても「ふるさと納税」は可能であり、その自治体への取り組みの応援資金（カンパ）なのです。応援したくなるような「取り組み」がなされているか否かが問われているのです。「応援したい取り組みの実際の姿」にしたものが、その自治体エリアの魅力を形にした物品やサービスです。魅力ある物品やサービスがあればあるほど、自治体の魅力はあがるのです。そのためには自治体は魅力ある物品やサービスを創生しなければならなりませんし、シティプロモーションとして広報しななければならないのです。この効果は大きいと思います。

従って、泉佐野市のように「ふるさと納税」による得るお金を目的とするのではなく、魅力ある物品やサービスを掘り起こしあるいは創生することで地域を起こすことを目的にできるのです（すべきです）。このような感覚や発想は、行政経営のよい訓練の場です。このような取り組みにより官民一体とした地域経済の活性化につながります。

《実現するための取り組み方針》

④ 官民が 一緒に魅力 作り出す

⑤ 官民一体となり「ふるさと納税返礼品プロジェクト」を立ち上げることで。市役所だけで考えると、小金ちゃん人形かそれをキャラクターとする物品あるいは積極的なお菓子屋さん程度が返礼品です。成功している地方自治体（北上市）での話を聞くと、営業能力に乏しい農家の方々は、市役所が返礼品として農産物を指定してもらったために大いに助かっているという話です。同市では返礼品にかかわる仕事を外部団体に移植しています。これは一つの協働です。官民一体は返礼品を提案したり提供してもらった「民」とそれを「ふるさと納税」の返礼品とする「官」（行政）の取り組みで、両者にメリットがある血の通った協働が実現できるのです。「ふるさと納税返礼品プロジェクト」は小金井市の埋もれた魅力を掘り出し、また創生します。また商品あるいはサービスの価値を上げる取り組み（例えば、参考資料10「面白いお土産ってないかな？」および参考資料11「サステナブルな魅力ある街をつくるには？」の問いに答え、それを豊かな文化として発信する）を行うことです。

個人的に思う事例ですが、小金井物産はとして、資料「面白いお土産ってないかな？」に述べるように、日本の標準時を管理し発信するNICTの所在地の小金井市として、「時」関わグッズです。超アナログなしかし「意匠性に優れる日時計」が考えられます。既にある「江戸野菜」、栗の産地としての「献上栗」をブランドとする高級栗菓子、さくらの樹木からとれる染料をつかう「草木染ネクタイ」、さくらの花を用いる「さくら茶」、農工大繊維学科ブランドの「絹」、学芸大ブランドの「師範学校グッズ」、法政大学ブランドの「天文グッズ」、野川をテーマとする遺跡グッズなど。また小平市と小金井カントリークラブと小金井市が行動する「小金井カントリープレー券」、宮地ホールで行われる「イベント参加の回数券」、結城座と共同する「レッスン参加券」あるいは「江戸あやつり人形」そのもの、小金井市が協賛するイベント（お月見、薪能、小金井市民祭）参加券などです。

【行財政改革 2】

《目指すべき姿》

② 小金井の 地域経済 教育で

③ 小金井市は工業地区でも大規模商業地区でもありません。ベットタウンなのです。しかし小金井市には学芸大学、東京農工大学工学部、法政大学理工学部、情報科学部および生命科学部の三大学と東京工学院専門学校がキャンパスを構えています。八王子のように広域エリアに多数の大学が点在する大規模な各園都市ではありませんが、比較的コンパクトなエリアに連携が取りやすい3大学と1専門学校があり、「学園都市」と宣言できる市です。「教育・研究」と「経済活動」はそれぞれの方向性を維持しつつ、これらが交流することはできます。小金井市の行財政を健全化する小金井市しかできない取り組みは、「教

育・研究」を基盤とする地域経済を起こすことです。

《実現するための取り組み方針》

④ 教育を 基盤としつつ 地域活性

⑤ まずは、理念を固め、その中に「教育・研究」を基盤とする地域経済を起こすことも含め「学園都市宣言」をすることです。既に結んでいる小金井市と大学の連携を、小金井市を教育・研究を基盤とする地域経済を起こすという観点から議論を始めることです。現状では小金井市も、協定大学も協定は結び構造は作っただけで、そこには血が流れていないのです。「学園都市宣言」の議論に協定した機関を巻き込み、白亜の塔から街に出てきてもらわなければなりません。その中では【就労】の参考資料「アルバイトは実学として価値を持ちませんか？」や「最高の教室ってどこ？」といった地域の教育力についても議論してもらいたいのです。

さらに小金井市に従来型でも構わないから大きな予備校を誘致し、そこに「考える力」を取り込むこれからの予備校への転換を手助けします。また既に小金井にある教育機関（塾もふくめ）と包括的連携をとることです。

幸い小金井市には「青少年の科学の祭典」というプロジェクトが立ち上がり11年の歴史を持ちます。「学園都市宣言」を受け止め主体的にかかわる素地はできていると思います。

参考資料 10

77. 面白いお土産ってないかな？

お土産の置物について考えてみましょう。東京タワー模型、小田原提灯、ヨーロッパ王家紋章入りスプーン、失礼ですがいつのまにかお蔵入り。蔵に入らず机の引き出しの中にあるのが箱根寄せ木細工で TRIZ # 7 入れ子原理を用いた手品用の二重引き出し箱です。これは TRIZ # 5 組合せ原理の寄せ木細工の意匠性と手品という機能性が組み合わせられています。箱根は創造性が豊かな土地で、機能性をもつ「てりふり人形」も魅力的です。昔は女性の長い毛髪が湿度でよく伸びちじみすることを利用して湿度計を作りました。この原理を利用し湿度を計測し天気を予報するものです。置物はオブジェとしての造形美が必要です。併せて機能性を持たせたいものです。毛髪が湿度で伸びちじみするような自然現象を利用して可動させるようなものです。可動のためのエネルギーは温度、湿度、動きなどから得ます。また機能性ではないのですが知恵の輪のように動かせる造形美に優れた構造物も魅力です。あまりにも早く流れる時に対し、ゆったり流れる時を演出する日時計を美しく造りこみ、美と超アナログな時計機能の組み合わせたものは時の街を標榜する時の街の素敵なお土産です。 思考匠試の実践課題です。

ポイント

- ① オブジェとしての土産物はその地のキャラクターだけがそのままの形でモデル化されていて面白くない。
- ② 優れた造形美や機械仕掛けか構造により可動にしてある機能を持たせる。

川柳

- ③ 思い出と 土産を買うが お蔵入り
- ④ 造形美 地域の文化と 融合し
- ⑤ お土産を 動かし遊ぶ 楽しかな

渡辺嘉二郎・城井信正 ものづくりの発想法（法政大学出版局2016年10月）

2019年8月21日 第4回小金井市長期計画審議会メモ（渡邊嘉二郎）

- 政策2 地域・経済
- 政策3 子ども・教育
- 政策4 文化・生涯学習
- 政策6 行政経営

参考資料 11

78. サステナブルな魅力ある街をつくるには？

どの統計をみても日本の人口の減少は避けがたいようです。その中で各地域はそれを食い止めるべく様々なことを考えています。人口が減少しても街の機能が持続的に維持され質を上げていく条件は、人々がその街に住み、その街で仕事ができるという基本的条件に併せてその街が教育の実践の場であることです。そこに最低限、学校がありできれば大学があることです。ただ学校があるだけでは持続可能な街にはなりません。生徒・学生を信頼して彼らを大切にす文化がその街にあることです。生徒・学生さんは流動的です。良い就職を求め魅惑的な都市の明かりを求め地方から都市に集中するのは避けがたいのです。地方の街の人口はますます減少します。これが現状でしょう。しかし、地方と言えその街に生徒・学生を大切にす文化があり、彼らがそこで大きく成長でき満ち足りれば、その街は彼らのかけがいのない故郷なのです。「ふるさとの山に向かって言うこと無し」程度にふるさとはありがたい場所なのです。少しばかり高い給料よりは、ふるさとに抱かれてその場に住み着きたいと思うのが人の情ではないでしょうか。若い人が住み続けその街はサステナブルな魅力ある街になるのです。

ポイント

- ① 街の魅力は住みやすく仕事があることを基本条件として生徒・学生を大切にす文化があることです。
- ② 彼らがそれを感じる時に、その街は彼らのふるさとになるのです。ふるさとはその人にとって得難い魅力です。

川柳

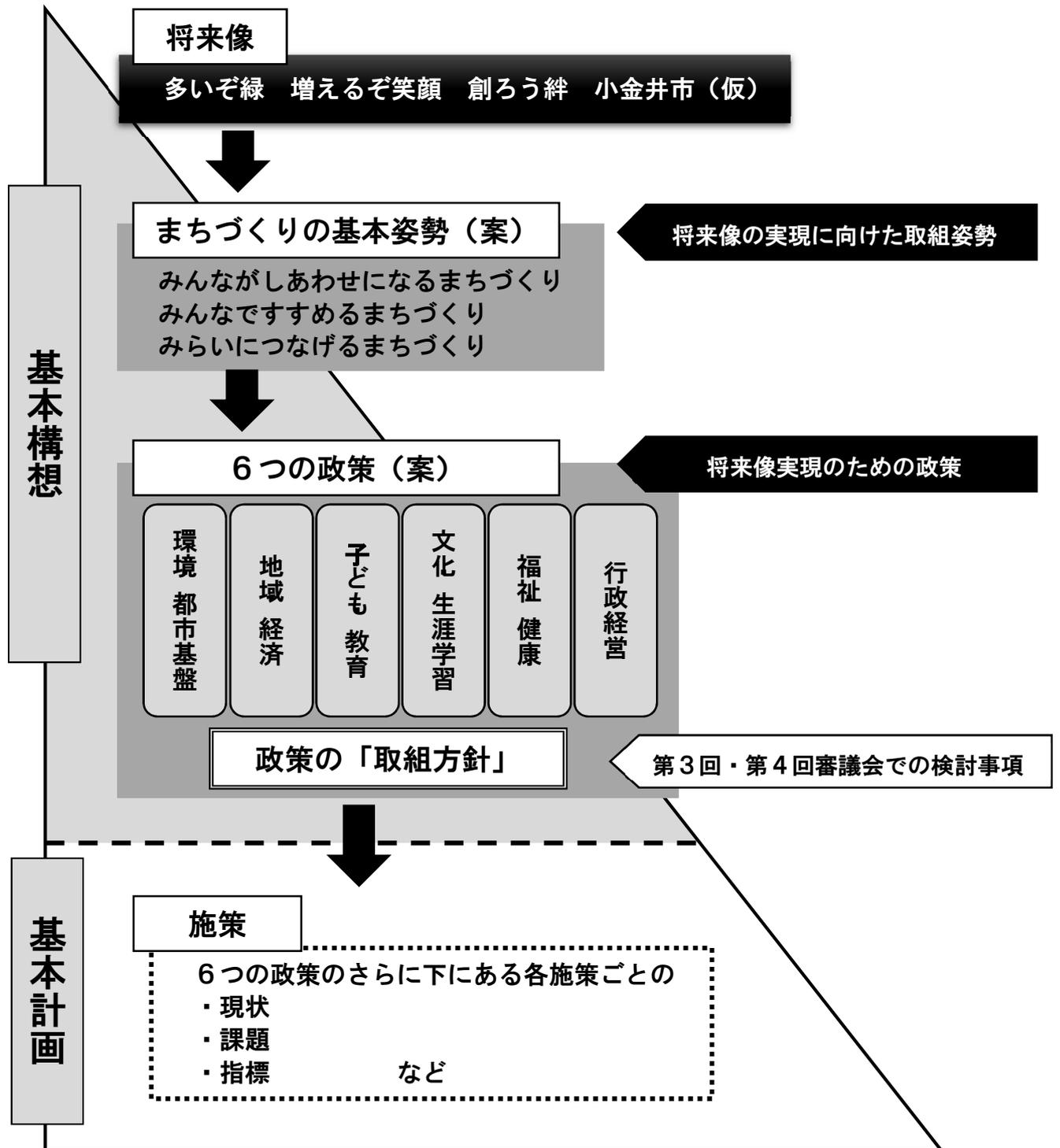
- ③ ワイルドな 学生こそを 愛すべき
- ④ 京のまち 学徒を愛す だから京
- ⑤ 将来を 担う若者 大切に

渡邊嘉二郎, 城井信正 ものづくりの発想法 (法政大学出版局 2016年10月)

むすびにかえて

「為せば成る 為さねばならぬ 何事も 為さぬは人の 為さぬなりけり」

基本構想・基本計画の構造について



【参考】政策ごとの施策イメージ

- ◆環境・都市基盤 …みどり、ごみ処理、市街地整備、インフラ 等
- ◆地域・経済 …防災、安全・安心、産業、農業 等
- ◆子ども・教育 …子ども家庭福祉、子育て・子育て、学校 等
- ◆福祉・健康 …地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、健康 等
- ◆文化・生涯学習 …芸術文化、国際交流、男女平等参画、生涯学習 等
- ◆行政経営 …市民参加、協働、広報、行財政改革 等

政策2 地域・経済

【該当する行政分野】 防災、安全・安心、産業、農業等

1. 社会情勢・政策動向

【防災】国土強靱化基本法が成立し、災害時における被害最小化と持続可能な社会経済システム確立のため、インフラ整備等のハード整備と人材育成・ネットワーク構築のソフト整備の両面から取組が行われている。

【安全・安心】全国的に適切な管理が行われていない空家等が防災・衛生・景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす恐れがあることが課題視され、空家等の所有者等の責務や自治体の責務等を定めた空家等対策の推進に関する特別措置法が成立した。

【安全・安心】高齢者対策として、犯罪や消費者トラブルの未然防止等を推進し、地域の関係機関や様々な団体と連携して消費者被害の見守り体制整備と見守る人への啓発が必要である。

【産業】中小企業経営者の高齢化に伴い事業承継が課題となっており、相続税減免等の支援策が講じられている。

【観光】令和2年に訪日外国人旅行者を4,000万人にすることを目標として、プロモーション等のインバウンド事業が開かれており、実際に増加傾向にある。

【農業】都市農地の貸借の円滑化に関する法律が制定され、生産緑地の貸借制度が整備された。

【農業】令和4年に市内の多くの生産緑地が指定告示から30年を迎え、買取申出が可能となるため、農地の減少が懸念されている。買取申出時期を10年間延長する特定生産緑地制度が創設された。

【消費】民法改正により令和4年から成人年齢が18歳に引き下げられるため、契約において従来保護されていた18・19歳の未成年者取消権は行使できなくなり、消費者被害の拡大が懸念されている。中・高等学校への消費者教育の充実・消費者ホットライン188(いやや)の周知等啓発を行っている。

【就労】女性の就労の支援とともに、働き方改革が進められている。

2. 小金井市の現状(統計)

※特に注記がないかぎり出典は「こがねいデータブック2018」とする。

【防災】平成25年以降、町会・自治会は減少しており、平成29年時点で72団体である。加入世帯も減少しており、平成29年時点では約23,506世帯(平成29年4月時点の世帯数は59,099世帯なので約半数)である。

【防災】自主防災組織は東日本大震災を境に増加し、平成29年時点で27団体、14,829世帯が加入している。

【安全・安心】刑法犯認知件数は減少傾向にあり、平成29年度では894件である。

【安全・安心】住宅総数64,630戸のうち空き家は約1割である。用途不詳の空き家は約2%である。(平成25年住宅・土地統計調査)

【産業】事業所・従業者ともに約9割が三次産業である。ただし、小売業の年間商品販売額は約860億円で、近隣自治体と比べて少ない。

【産業】事業者数・従業者数ともに近隣自治体に比べて少なく、多くの市民が市外で働くベッドタウンである。

【農業】平成27年時点で農家件数は149件、経営耕地面積7,076aであり、年々減少している。

3. 小金井市の現状(既存アンケート)

小金井市空家等実態調査(平成29年度)

○空き家の所有者の年代は80歳以上が約3割で最も多く、約8割が60歳以上である。

○空き家の発生理由としては、「相続により取得したが、現に居住する住宅が別にあるため」、「病院や福祉施設などに入所することになったため」が多い。

○住宅の現状は、約4割が「現在でも住める状態である(特に目立った破損はない)」。

商業・商店街振興基礎調査(平成26年度)

○最寄品の購入場所は「近隣のスーパー」が多く利用されている一方、買回品は主に「吉祥寺や副都心のデパート・

大型専門店」が多く利用されている。

○商業者が認識する商店街の問題としては、「核になる店舗がない」、「非店舗が多く、商店街としての連続性に欠ける」、「店舗の老朽、陳腐化が著しい」が挙げられる。

4. 市民意見

※詳細は第1回審議会資料8を参照のこと

市民意向調査

【安全・安心】現在の小金井市のよいところとして2割半ばの人が「安全・安心な環境」だと考えている。

【産業】現在の小金井市のよいところとして「日常生活が便利で暮らしやすい」を選択した人が約3割であるが、商業を小金井市のアピールできるコンテンツと考える人はほとんどいない。

【産業】商業に関する施策について不満に感じている人が4割弱で、満足している人よりも多い。

【農業】みどりや水辺に関連して、農地や農家を小金井市のアピールできるコンテンツとして感じている人が少なからずいる。

学生アンケート

【安全・安心】小金井市を居住地として選択の理由としては安全・安心な環境は少ないものの、住んでみると安全・安心を実感する学生が増える。

【産業】小金井市の悪いところとして、商業施設を挙げる学生が少なくない。

ヒアリング

【産業】子育ての終わった女性が活躍できる場や起業できる場の提供や支援を通じて、ベッドタウンながらも経済が回る環境をつくる必要があるという認識が示された。

5. 第4次基本構想・基本計画の振り返り

※詳細は第4回審議会資料22-2を参照のこと

市民満足度(市民意向調査)

○地域・経済に該当する第4次基本構想・後期基本計画の施策分野はいずれも満足度が低い。

取組状況

○防災・防犯については、空き家対策も含め、自助・共助・公助のあらゆる面で取組を進めている。経済に関しては、産業振興プラン、農業振興計画に基づき、東小金井事業創造センターK0-T0の開設や新たな市民農園の開園など、様々な取組を進めている。

6. 庁内において想定する目指す姿

【防災】市民の生命、身体及び財産を保護する「災害に強い小金井市」

【安全・安心】市民の不安を解消し、安全で安心して暮らすことができる生活環境

【産業】多様で豊かな市民力によって生活都市にふさわしいビジネスが創出される、ふれあいと活力のあるまち

【農業】都市農業が発揮する多様な機能を通じて市民生活に貢献する力強い小金井農業

政策3 子ども・教育

【該当する行政分野】 子育て・子育て、児童福祉、幼児教育、学校教育

1. 社会情勢・政策動向

【子育て・子育て】平成27年度の子ども・子育て支援新制度開始以降、全国的に保育園の拡充のため子ども・子育て支援事業計画を策定し、保育園等の充実を図っている。

【子育て・子育て】共働き世帯は年々増加傾向にあり、平成27年国勢調査では51.1%が共働き世帯である。特に未就学児の子どものいる世帯での共働きが増えている。

【児童福祉】国民生活基礎調査によると平成27年の子どもの相対的貧困率は13.9%（平成24年から2.4ポイント減少）である。ひとり親家庭に関しては50.8%と半数が該当する。

【幼児教育・学校教育】学習指導要領が改訂され、不確定な社会を生きる力を身につけることを目的として、知識及び技能、思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう力をバランスよく育むため「主体的・対話的で深い学び」という概念が提示された。また、地域と学校が連携する「社会に開かれた教育課程」という考え方も示されている。

【学校教育】学校等におけるいじめ対策については、文部科学省において、当事者の被害認識に基づいて認知し、速やかに対応する方向性が示された。

【学校教育】平成28年、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律が施行され、不登校児童・生徒に対して、登校を前提としない教育機会の提供が求められるようになった。

【子育て・子育て、学校教育】国において新・放課後子どもプランが策定され、小学校就学後の子どもの預かり先としての学童保育とともに、学校施設を活用した居場所の確保も進めることとなった。

【学校教育】国・東京都において、教員が教育活動により従事できるよう、教員の働き方改革が進められている。

2. 小金井市の現状(統計)

※特に注記がないかぎり出典は「こがねいデータブック2018」とする。

【全般】0～18歳の人口は、平成31年4月1日付で18,559人である。うち就学前児童(0～6歳)は6,233人である。

【子育て・子育て】小金井市の子ども・子育て支援事業計画(平成28年度改定)では、平成31年度における量の見込みについて、幼稚園需要は1,857人、保育園需要(0歳)は280人、保育園需要(1・2歳)は984人、保育園需要(3歳以上)は1,152人と見込んでいる。また、学童保育需要は1,282人(うち低学年1,017人)と見込んでいる。

【子育て・子育て】合計特殊出生率は上昇傾向にあり、東京都を上回る水準で推移していたが、平成27年をピークに急速に低下し、平成28年度以降は東京都を下回っている。合計特殊出生率は1.21(H29)

【子育て・子育て】保育所定員数は拡大しているが、待機児童数は平成26年のピーク時点の257人を下回るものの、現状111人である。

【学校教育】平成30年度における不登校児童・生徒数は、小学校で51人、中学校で78人である。

3. 小金井市の現状(既存アンケート)

小金井市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(平成30年度)

○就学前児童の母親で働いていない人は37.8%である。就学児童の母親では33.5%となる。

○就学前児童のいる世帯のうち、近隣に子どもを見てもらえる親戚・知人がいない人は21.5%である。

○就学前児童のいる世帯・就学児のいる世帯ともに、市に対しては、経済的負担の軽減や子どもの居場所と交流の場の充実が求められている。就学児童については子どもが安心して学べる環境が求められている。

4. 市民意見

※詳細は第1回審議会資料8を参照のこと

市民意向調査

【子育て・子育て】小金井市のよいところとして「恵まれている子育て環境」を選択した人は1割未満と少ない。ただし、子ども家庭福祉に関する施策については、満足している人が18.9%であり、不満に思っている人(16.9%)よりも多い。

【幼児教育】幼児教育に関する施策についてみると、未就学児の子どものいる人においては不満に思っている人が37.4%であり、満足している人(27.7%)よりも多い。

【学校教育】学校教育に関する施策としては、小学生ないしは中学生の子どもを持つ人においては、満足している人が45.8%で、不満に思っている人(28.7%)よりも多い。

ヒアリング

【子育て・子育て】子育て支援として、女性が子育てをしながら働きやすい就労機会があるとよいという意見が聞かれた。

【学校教育】小金井市の公立小・中学校は学力のレベルは高いものの、それが負担になる子どももいるという。ただ、全体的に学力・経済力ともに問題がないように映るため、支援に難しさがあるという認識が示された。

ワークショップ

【子育て・子育て】子どもを育てる世代の方たちから、小金井市は治安がよいため子どもを育てる上で心配がないという意見が多数聞かれた。

【学校教育】子どもを育てる世代の方たちから、小金井市の公立小・中学校は教育面で充実しており、学力も高いことから、子どもを育てる上での魅力であるという意見が多数聞かれた。

5. 第4次基本構想・基本計画の振り返り

※詳細は第4回審議会資料22-2を参照のこと

市民満足度(市民意向調査)

○施策分野で見ると、平成26年度と比べ、「学校教育」は重要度が低く、満足度が高く推移しているものの、総体としては重要度も満足度も高い結果である。なお、健康と福祉分野として尋ねた「幼児教育」は、重要度は1.08と高いにもかかわらず、満足度が-0.04と低い。

取組状況

○学校教育については、更なる質の向上と環境の充実を図るため、明日の小金井教育プランに基づき、教育内容・教育方法・学習環境の整備・充実などの取組を進めている。

6. 庁内において想定する目指す姿

【子育て・子育て】元気な子どもたちの笑顔があふれるまち

【子育て・子育て】子どもの幸福と権利保障を第一として、子育て、子育て支援の総合的な施策を推進していくまち

【子育て・子育て】子育て環境満足度が高く、子育て世代から魅力的なまち

【幼児教育・学校教育】子どもたちが幅広い知識と教養を身に付けるとともに、道徳心にあふれ、健康で人間性豊かに成長するまち

政策4 文化・生涯学習

【該当する行政分野】 芸術文化、生涯学習、スポーツ、人権・平和、国際交流、男女共同参画等

1. 社会情勢・政策動向

【**芸術文化**】平成29年、文化芸術振興基本法が文化芸術基本法に改正された。同法では、地方自治体に文化芸術推進基本計画の策定を努力義務として明記している。

【**芸術文化**】文化芸術基本法に基づく国の文化芸術推進基本計画では、文化芸術の社会的・経済的価値にも着目し、その価値を文化芸術の振興、さらには他の行政分野に対して活かしていくことが示された。

【**生涯学習**】第3期教育振興基本計画では、生涯学習については、人生100年時代における学び直しのほか、障がい者の生涯学習に取り組むことが示されている。

【**生涯学習**】学び直しについては、人生100年時代構想会議が平成30年に策定した人づくり革命基本構想でも取り上げられており、すべての人が何歳になっても元気に活躍し続けられる社会のための切れ目のない教育課程が示された。

【**生涯学習**】地方分権改革の一環として、第9次地方分権一括法のなかで社会教育法が改正され、公民館や博物館、図書館等の公立社会教育施設を、教育委員会から首長部局に移管できることとなった。

【**スポーツ**】東京都は、平成30年度に東京都スポーツ推進総合計画を策定し、令和6年度には都民のスポーツ実施率を70%に高めることを目標に掲げた。

【**男女共同参画**】平成27年に女性の職業生活における活躍の推進に関する法律が施行されて以降、「ニッポン一億総活躍プラン」では、女性の潜在的なポテンシャル、経済的な側面から女性の活躍を支援することが明記された。

2. 小金井市の現状(統計)

※特に注記がないかぎり出典は「こがねいデータブック2018」とする。

【**芸術文化**】平成29年度の市民交流センターの稼働率(マルチパーパススペース、スペース「N」除く)は85.1%である。平成29年度のはげの森美術館入館者数は3,983人である。

【**生涯学習**】平成29年度の図書館の市民1人当たり図書貸出冊数は7.6冊(総貸出数908,074冊)である。貸出の利用者層を年齢別にみると、40～49歳が最も多く、30～39歳が続く。

【**生涯学習**】公民館の利用率は、各館5割半ば～7割である。東分館が73.38%、本館が68.58%で高い。

【**生涯学習**】小学校の校庭開放は、平成29年度には延べ473日行われており、7,371人が利用している。第四小学校と前原小学校での利用が多い。

【**スポーツ**】平成29年度のスポーツ教室・スポーツ大会の参加者数は16,041人であり、そのうち市民体育祭には7,078人が参加している。

【**人権・平和**】平成29年度の人権・平和に関する事業の参加者数は629人である。

【**男女共同参画**】平成29年度の各種審議会における女性の参画は31.6%である。

3. 小金井市の現状(既存アンケート)

スポーツに関する意識調査(スポーツ実施率等調査)(平成28年度)

○過去1年間でスポーツを行った人は88.1%である。週1～2回以上スポーツをしている人(スポーツ実施率)は59.4%である。

小金井市男女平等に関する市民意識調査(平成27年度)

○「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という意見に賛成する人は、女性で27.8%、男性で43.0%である。

○「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と考える人は男女ともに3割半ばである。男女ともに、子どもがきたら一時仕事を辞める方がよいという考え方を持っている人の方が多い。

○男女平等参画の推進のためには、女性が働きやすい環境づくりの促進と子育て支援策の充実が多く求められている。

4. 市民意見

※詳細は第1回審議会資料8を参照のこと

市民意向調査

【**全般**】小金井市のよいところとして「スポーツや文化活動、生涯学習活動が盛ん」を選択した人は1割未満と少ない。小金井市のアピールできるコンテンツとしては、「スポーツや文化活動、生涯学習活動が盛ん」が、公園・自然につぐ3番目に多い(ただし1割程度)。

【**全般**】文化・芸術、生涯学習、スポーツ・レクリエーションに関する施策について満足している人はそれぞれ31.6%、20.5%、28.8%である。いずれも不満に思っている人よりも多い。

5. 第4次基本構想・基本計画の振り返り

※詳細は第4回審議会資料22-2を参照のこと

市民満足度(市民意向調査)

○施策分野でみると、「文化・芸術」と「スポーツ・レクリエーション」は、重要度、満足度ともに高くなっている。一方、「生涯学習」は重要度が低く、満足度が高くなっている。

取組状況

○文化や生涯学習については、貫井北センターや市民交流センターなどの拠点整備を進めてきた。また、小金井平和の日を制定し、戦争や平和を考える機会をつくった。

6. 庁内において想定する目指す姿

【**芸術文化**】それぞれの市民がそれぞれの感性で日常の中で芸術文化を主体的に楽しみ、心豊かに暮らしていけるまち

【**生涯学習**】人生100年時代に向けてすべての市民が生涯を通じて学ぶことができるまち

【**スポーツ**】生活の豊かさが向上するように、スポーツを気軽に親しむことができ、仲間づくりを通して、楽しく、元気な地域が広がっていくまち

【**国際交流・都市交流**】多文化共生社会への理解を深め、他自治体との交流を図るまち

【**平和・人権**】平和の大切さや命の尊さについての市民の意識が高く、誰もが個人として尊重され平等に暮らせるまち

【**男女共同参画**】男女が互いに認め合い支えながら一人ひとりが輝いて生きることができるまち

政策6 行政経営

【該当する行政分野】 市民参加、協働、広報、行財政改革

1. 社会情勢・政策動向

【市民参加、協働】SNSが市民生活、広報戦略として普及・定着している中、自治体においても、多額のコストを要せず、タイムリーかつ双方向に発信できるSNSを利用した情報発信や市民協働、市民参画を実現する手法の開発・導入は必須の時代になっている。

【広報】人口減少、東京への一極集中が進むなか、「選ばれるまち」になるために各自治体では、その有効な施策として、地域のイメージ向上やブランドの確立による地域経済の活性化を目的とした広報戦略として「シティプロモーション」を展開し、自治体間競争がより一層高まり、選ばれる自治体となる取組が求められる。

【行財政改革】AIやロボティクスといったICTを活用した業務プロセス改革の導入による行政事務の効率化迅速化、正確さの実現が求められている。内部管理、税務、住民情報、福祉などの分野での活用が想定される。

【行財政改革】政策立案に当たっては、その場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで、客観的なデータ検証による合理的根拠(エビデンス)に基づくものとするEBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング)の実施が国、先行自治体で進められており、実施による効果的な政策立案、見直しの見直しが求められる。

【行財政改革】一人ひとりの意思や能力、個々の事情に応じた、多様で柔軟な働き方を選択可能とする社会を追求していく「働き方改革」の実施が民間企業と並行して、自治体においても求められている。

【行財政改革】応援したいと思う自治体に寄附するふるさと納税制度であるが、返礼品が高額になるなどを理由にして、今後は国が示す基準を満たさない自治体への寄附は税額控除の対象にならないことになった。

2. 小金井市の現状(統計)

※特に注記がないかぎり出典は「こがねいデータブック2018」とする。

【市民参加、協働】情報公開請求件数は平成24年度以降、概ね年間60件前後で推移。市ホームページのアクセス件数は、平成18年度から平成22年度にかけて増加傾向、以降は3,000件台で、概ね横ばいで推移。

【行財政改革】民間活力導入や非正規職員の活用により、市職員数は減少。また、職員数の減少や給与構造改革等の結果、人件費比率も減少傾向にある。

【行財政改革】経常収支比率はここ10年間は90%台で推移している(平成29年度94.3%)。公債費負担比率は減少傾向にある(平成29年度9.4%)。将来負担比率は減少傾向にある(平成29年度9.6%)。財政調整基金現在高は10~20億円台で推移している(平成29年度約26億円)。財政力指数は平成20年代はじめには1を大きく超えていたが、近年は1前後で推移しており、平成29年度は1.053である。

【行財政改革】各施策が計画された目標のとおり実施されているかどうかを確認・検証し、見直しを行うために施策マネジメントでは、A評価(目標達成)が25.2%、B評価(目標達成していないが、数値が上昇)が39.3%となっており、平成29年度時点では概ね3分の2の施策で改善が図られている。

3. 小金井市の現状(既存アンケート)

市長への手紙(平成29年度)

○市政に望む項目を3つ選んで回答してもらった結果、第1位「財政・財務」が11.3%であった。なお、満足度に関して、「やや不満である」もしくは「不満である」を選んだ回答が40.2%となっており、「満足している」もしくは「やや満足している」を選んだ回答は11.5%であった。

小金井市市民意向調査(平成30年度)

○行政情報、生活情報の入手手段は、市報89%、回覧板25.9%、家族、友人16.2%、市のホームページ15.4%である。

○第4次基本構想・後期基本計画の周知度は23.5%、知らない(アンケートで知った)は、72.5%である。

4. 市民意見

※詳細は第1回審議会資料8を参照のこと

市民意向調査

【市民参加、協働】小金井市の良いところとして「NPOや地域サークルなどの市民活動が盛ん」を選択した人は1割未満と少ない。ただ、こが☆カフェでは、小金井市は地域のつながりや市民同士との関わりがあり、大学生のような来街者も地域で活動できる土壌があるという意見が聞かれている。

【市民参加、協働】回答者の約9割が地域における顔見知りがいる。地域での助け合い・支え合いをした人は1割半ばだが、半数はその意向を持っている。町会・自治会に加入している人は約半数である。

【市民参加、協働】市民参加・協働に関する施策について満足している人は21.4%で、不満に思っている人(10.2%)よりも多い。

【行財政改革】行財政に関しては、行政経営、計画的行政、財政・財務もいずれも不満に思っている人の方が満足している人よりも多い。特に計画的行政、財政・財務については不満に思っている人が4割弱である。

学生アンケート

【広報】小金井市の情報の入手手段は「関心がない」が84.4%、小金井市公式ツイッターアカウントをフォローしているのは0.1%である。

ヒアリング

【市民参加、協働】市内に大学が多く立地していることを活かし、大学生が地域の人と活動できる機会をつくれると良いという意見が聞かれた。その際には大学生にもメリットが感じられる必要があることも指摘されている。

【市民参加、協働】市民や団体等が行政と「人と人との関係」を結び、お互いの長所を活かし、短所を埋めるようなかたちで協働できることが望ましく、対立的な関係構築は避けるべきであるという意見が聞かれた。行政から求める水準や質を市民・団体等に示すことで、より良い協働が展開されるという意見も聞かれた。

5. 第4次基本構想・基本計画の振り返り

※詳細は第4回審議会資料22-2を参照のこと

市民満足度(市民意向調査)

○重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目は、「財政・財務」であった。分野平均としては、重要度が低く、満足度も低い注意項目である。

取組状況

○他の4分野の取組を効果的に進めるため、市民ニーズを把握するとともに参加と協働を進めてきた。行財政については、行財政改革プラン2020を策定して取組を進めているほか、公共施設等総合管理計画を策定し、基本方針とその考え方の浸透に努めている。また、長年の課題であった市庁舎建設は、実現に向けた歩みを進めている。

6. 庁内において想定する目指す姿

【市民参加、協働】多様な市民の意思が市政にいかされており、市民と市が協働して地域課題の解決に取り組むまち

【広報】諸課題の解決及び経済活性化に資する情報が発信され、市民との信頼関係がある開かれた市政

【広報】市の魅力が積極的に発信され、市民が誇りや愛着を感じられ、かつ対外的に認知度が高い、選ばれるまち

【行政運営】長期総合計画に基づいて施策が着実に実施され、進捗状況の共有と更なる改善が図られる行政

【行政運営】行財政改革と公共施設マネジメントの考え方の浸透が進み、更なる市民サービス向上と持続可能な財政運営の実現を図る行政

第4次基本構想・基本計画 取組状況の振り返り

(地域と経済)

(文化と教育)

(計画の推進)

令和元年8月

目次

第1章 概要（再掲）	1
1. 考え方.....	1
(1)目的.....	1
(2)参照データ.....	1
(3)手法.....	1
第2章 施策分野における進捗と成果	2
2. 地域と経済.....	2
住民意識に基づく評価(満足度・重要度).....	2
施策分野7 コミュニティネットワーク.....	2
施策 20 協働のまちづくりの推進.....	2
施策 21 地域情報ネットワークの推進.....	3
施策分野8 地域安全.....	3
施策 22 危機管理体制の構築.....	3
施策 23 防災コミュニティづくり.....	3
施策 24 防災機能の強化.....	4
施策 25 防犯体制の強化.....	4
施策分野9 創造的産業.....	4
施策 26 産業基盤の整備.....	4
施策 27 創造的産業の支援.....	5
施策分野 10 商業.....	5
施策 28 商業環境の整備.....	5
施策 29 地域資源をいかした観光の推進.....	6
施策分野 11 工業.....	6
施策 30 工業の振興.....	6
施策分野 12 農業.....	7
施策 31 農業基盤の確立.....	7
施策 32 農業との交流促進.....	7
施策分野 13 消費者生活・勤労者福祉.....	8
施策 33 安全・安心な消費生活支援.....	8
施策 34 勤労者福祉の向上.....	8
施策 35 雇用機会の拡大.....	8
3. 文化と教育.....	10
住民意識に基づく評価(満足度・重要度).....	10
施策分野 15 文化・芸術.....	10
施策 36 総合的な文化振興の推進.....	10
施策 37 文化施設の効率運営.....	10
施策 38 文化交流の推進.....	11

施策分野 16 人権・平和・男女共同参画.....	12
施策 39 人権・平和に関する施策の推進.....	12
施策 40 男女共同参画の推進.....	12
施策分野 17 生涯学習.....	13
施策 41 活動の場の充実.....	13
施策 42 生涯学習活動の推進.....	13
施策分野 18 スポーツ・レクリエーション.....	14
施策 43 スポーツ・レクリエーション活動の支援.....	14
施策 44 スポーツ・レクリエーション施設の活用.....	14
施策分野 19 学校教育.....	15
施策 45 教育内容・教育方法の充実.....	15
施策 46 学習環境の整備・充実.....	16
施策分野 20 幼児教育.....	16
施策 47 幼児教育の充実.....	16
5. 計画の推進.....	17
住民意識に基づく評価(満足度・重要度).....	17
施策分野 26 市民参加・市民協働.....	17
施策 63 市民ニーズの把握と共有化.....	17
施策 64 分かりやすい情報発信と適正な情報管理.....	17
施策 65 市民参加の推進.....	18
施策 66 市民協働の推進.....	18
施策分野 27 行政経営.....	19
施策 67 自律した行政経営の推進.....	19
施策 68 組織の活性化と人材の育成・活用.....	20
施策分野 28 計画的行政.....	20
施策 69 計画とマネジメントの整備.....	20
施策 70 広域行政の推進.....	21
施策分野 29 財政・財務.....	21
施策 71 安定した財政運営の確立.....	21
施策 72 歳入の安定.....	22
施策 73 歳出の適正化.....	22

第1章 概要（再掲）

1. 考え方

(1)目的

- 第5次小金井市基本構想・前期基本計画を検討するに当たり、第4次小金井市基本構想に基づいて行われた取組を踏まえ、改善を図る必要がある。そのため、指標に基づく評価に加え、各施策における成果と課題について把握するため、取組状況を振り返る。

(2)参照データ

- 複数の視点から取組状況を把握するため、主に次の調査結果を用いる。

①施策マネジメント評価

- 毎年度、庁内で実施している施策に対する成果・活動目標に基づく自己評価
- 第4次小金井市基本構想・基本計画に位置づけられた全施策を対象とする¹

②その他、庁内における調書調査

- 施策ごとに位置づけられた主な取組について、その成果と課題に対する自己評価や今後の方向性

③平成30年度小金井市市民意向調査

- 市内に在住する満18歳以上の男女2,000人を対象として実施したアンケート調査
- 有効回答数629人(有効回答率31.5%)から回答を得ている。

(3)手法

- 上記③において把握された施策に対する満足度・重要度を用いた住民意識に基づく評価、上記①において得られる事業進捗の評価をもって、客観的に施策分野及び施策を評価する。
- その上で、上記②・③を用いて主な取組について成果と課題を定性的にまとめることで、政策分野及び施策に対する進捗をまとめ、これをもって第4次基本構想・基本計画の取組状況の振り返りとする。

¹ 第4次基本構想の計画期間においては前期基本計画でのみ位置づけられている施策がある。これらは後期基本計画で施策の体系を見直したことによるものであるため、振り返りの対象とはしない。また、個別計画の進捗状況に係る施策については、関連施策の振り返りと同内容となるため、対象外とした。

第2章 施策分野における進捗と成果

2. 地域と経済

住民意識に基づく評価(満足度・重要度)

施策分野	満足度	重要度	満足度・重要度のマッピング
【平均】	0.01	0.71	
7.コミュニティネットワーク	0.20	0.79	
8.地域安全	0.26	1.34	
9.創造的産業	-0.13	0.49	
10.商業	-0.28	0.90	
11.工業	-0.04	0.28	
12.農業	0.19	0.63	
13.消費生活・勤労福祉	-0.02	0.60	
14.雇用	-0.10	0.66	
コメント			
<p>施策の大綱レベル(地域と経済)では、重要度が低く、満足度はゼロ(選択肢としては「どちらともいえない」)の水準である。</p> <p>施策分野で見ると、「地域」に該当する「コミュニティネットワーク」、「地域安全」の満足度は正であるが、「経済」に関しては「農業」を除き、いずれも満足度は負である。</p>			

施策分野7 コミュニティネットワーク

施策20 協働のまちづくりの推進

成果・活動指標	市民協働支援センター準備室の相談件数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	71件	100件	152件
取組状況			
<p>成果・活動指標である市民協働支援センター準備室の相談件数は平成29年度時点で152件となっており、目標値に至っている。</p> <p>市民協働支援センター準備室では、平成28年に開始した協働事業提案制度がきっかけとなり、相談件数が増加した。同制度を始めたことにより、市民協働の新たなきっかけをつくったと言える。市民協働支援センター準備室では、相談対応のほか、①市民活動団体等と行政の間や市民活動団体相互間の協働のコーディネート、②市民協働に関係する各種会合・行事等への参加・協力、③市民活動・市民協働についての情報の収集・発信、④市民協働の推進に向けた仕組み等の検討、⑤市民活動団体リストの管理を行った。</p> <p>上記③の情報発信については、平成30年よりSNSを活用した情報発信を行っている。また、(仮称)市民協働支援センターの整備についても検討が必要である。</p>			

施策21 地域情報ネットワークの推進			
成果・活動指標	地域情報発信サイトの市ホームページへの連携		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	拡充	—
取組状況			
<p>成果・活動指標である地域情報発信サイトの市ホームページへの連携は平成29年度時点で実施に至っていない。</p> <p>平成27年度に市ホームページのリニューアルを行った後、協定締結等市と関連のある他団体の情報を、内容を協議の上、リンクするといった取組を試行的に行った。大学等との協働についても模索はしているものの、具体的な検討には至っていない。その他、市報について、民間事業者との連携により、スマートフォン用アプリケーションによる配信に加え、電子書籍配信サービスの利用を開始した。</p> <p>今後は、協定締結等、市と関連のある他団体の情報の発信については、他自治体の事例を参考に新たな方式の実現に向け、引き続き検討を進める。</p>			

施策分野8 地域安全

施策22 危機管理体制の構築			
成果・活動指標	新たな危機管理体制の強化		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	体制強化	—
取組状況			
<p>成果・活動指標である新たな危機管理体制の強化は引き続き体制強化を図っている。</p> <p>平成28年度には、関係防災機関と会議を重ね、マニュアル等の見直し等に着手するとともに、継続的に新たな災害協定を締結し、防災力の強化を図ってきた。また、東日本大震災以降、市内小中学校及び保育園における給食食材の放射能測定を継続して行っている。その他、インフルエンザ等対策特別措置法に基づき実施される特定接種の接種体制について、市内の医療機関と覚書を締結し、台風等の豪雨災害時に発令する避難勧告等について、判断基準を作成した。</p> <p>今後、予定されている地域防災計画の見直しを円滑に進めるとともに、関係機関と連携し、危機管理体制の構築やマニュアル等の策定についても継続的に取り組んでいく必要がある。</p>			
施策23 防災コミュニティづくり			
成果・活動指標	自主防災組織の数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	23団体	30団体	27団体
取組状況			
<p>成果・活動指標である自主防災組織の数は平成29年度時点で27団体であり、目標値に至っていない。</p> <p>平成20年度から平成26年度の期間は、東日本大震災の影響もあって自主防災組織が増加したが、平成26年度以降は団体が増えていない状況にある。それを踏まえて平成28年度に自主防災組織の要綱改正によって設置基準の緩和を行ったところ、問い合わせがあったものの、町会・自治</p>			

会で結成に至った例はない。その他、防災に関しては、避難訓練の実施のほか、防災マップの改訂、総合防災訓練でのスタンプラリー実施による参加者層の拡大努力、木造住宅の耐震助成及び特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震助成などを行い、防災意識や対策に取り組んだ。

今後は、自主防災組織の活動内容等の周知を図り、より身近なものとして認識してもらうよう努めるとともに、平成31年より開始する防災倉庫設置補助金等、自主防災組織の活動を支援する環境の整備を引き続き推進する。また、既存の自主防災組織については、子育て世代を呼び込めるよう、他市の先進事例を取り入れた広報等も検討する。

施策24 防災機能の強化

成果・活動指標	新型防火衣の整備状況		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	18.8%	100%	90.9%

取組状況

成果・活動指標である消防団での新型防火衣の整備状況は平成29年度時点では90.9%だが、平成30年度時点では100%に達した。消防団については、安全靴仕様の編上靴の配備も進めている。また、震災対策用井戸の指定や食糧、生活必需品等の備蓄および更新、一時滞在施設利用に関する協定も結んでいる。

新型防火衣の整備が完了したことから、今後は、救助用資機材を中心とした装備の充実を進めていく必要がある。

施策25 防犯体制の強化

成果・活動指標	刑法犯の発生件数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	1,070件	999件	894件

取組状況

成果・活動指標である刑法犯の発生件数は平成29年度時点で894件であり、目標値に至っている。

被害が後を絶たない振り込め詐欺等の特殊詐欺対策として、自動通話録音機の貸与を再開している。その他、こきんちゃんあいさつ運動、町会・自治会・商店会等との協力による地域での見守り活動の実施、樹木の剪定等による公園における死角の排除及び市道におけるLED化を実施した。さらに空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため平成29年度に空家等対策協議会を設置し、重ねて空家等の実態を把握するため、空家等実際調査を実施した。

今後は、防犯指針に基づく各課取組を継続するとともに、毎月の小金井警察署への刑法犯発生状況の聞き取りを行い、状況の把握を継続する。

施策分野9 創造的産業

施策26 産業基盤の整備

成果・活動指標	東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	50%	46.2%

取組状況

成果・活動指標である東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率は平成29年度時点で46.2%だが、平成30年度時点では53.8%で、概ね目標値に至っている。

センター卒所予定者の市内定着のため、東小金井事業創造センターの指定管理者により、①市内空き物件情報の提供、②市内の事業者、地域でのしごとに関心をもつ市民、金融機関、行政職員、支援団体等を対象とした異業種交流会の開催、③同センター利用者に対する定期的な面談の実施によるフォローを行った。その他、東小金井事業創造センターに関しては、創業相談や創業支援セミナーを多数開催することにより、ワンストップインキュベーション施設としての役割を付加してきた。

小金井市では、空き物件の活用や事業所向け物件が少ない等の課題があるため、継続して検討を行う必要がある。

施策27 創造的産業の支援

成果・活動指標	補助金交付終了後市内定着事業所数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	10事業所	17事業所	15事業所
	開業資金融資件数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	2件	8件	6件

取組状況

成果・活動指標である補助金交付終了後市内定着事業所数は平成29年度時点で15事業所であり目標値に至っていない。開業資金融資件数については、平成29年度時点で6件であり、目標に至っていない。

農工大・多摩小金井ベンチャーポート入居企業については、補助金が終了となっても継続的に入居しており、市内定着につながっている。

開業資金融資については、開業に関する相談があった際にはパンフレットを用いて事業の紹介を行っている。

事業所の市内定着に関しては、施設退去後の市内定着が課題である。そのため、大学施設の活用を視野に入れた大学との連携や、情報提供、創業支援セミナーの支援を続けていく。開業資金融資については、制度の認知を高めるための周知を引き続き行っていく。

施策分野10 商業

施策28 商業環境の整備

成果・活動指標	小売業の年間商品販売額		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	650億円	維持	約860億円

取組状況

成果・活動指標である小売業の年間商品販売額は平成28年に実施された経済センサス活動調査では約860億円であり、目標値に至っている。

事業所数には特段変化が見られないものの、販売額が大幅に増加している。市において従来から実施している商工会や商店会への支援に加え、駅前の環境整備が進んだほか、中間支援組織で

ある小金井市観光まちおこし協会が主体となり「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、江戸東京をテーマとした滞在型サービスの創出を図るための事業として、プロモーションビデオの制作、市内回遊促進イベントの謎解きクイズラリーを実施したことなどが主な要因であると考えている。また、東京都の若手商業者の助成事業や、空き家の利活用を進める事業などを、商工会を通して市内商店会に周知を行った。

今後は、事業を継続するとともに、武蔵野市、三鷹市と一体となった観光地域づくりにより、3市の交流人口の拡大を図ることで、商業の活性化につなげる。

施策29 地域資源をいかした観光の推進

成果・活動指標	桜まつりなどの来場者数 ²		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	400,000人	390,000人	215,000人
	観光協会ホームページアクセス数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	74,982件	113,000件	33,231件

取組状況

成果・活動指標である桜まつりなどの来場者数は平成29年度時点では215,000人であり、目標値に至っていない。観光協会ホームページアクセス数についても、平成29年度時点で33,231件であり、目標値に至っていない。

平成29年度は桜まつりの時期には十分に桜が開花しておらず、また開催日が雨天であったため、来場者数に影響が出た。その他、阿波おどりやお月見のつどいについては、例年並みないしはそれ以上の来場者を得ているため、桜まつりの来場者数の減少が指標の数値に影響を及ぼしている。ただ、取組としては、ホームページやフェイスブックなどによる広報の充実を図るとともに、ライトアップやスタンプラリーの併催などで集客を得ようと努めた。その他、指標には反映されないが、まちなかライブKOGANEIの開催など、新たな事業にも着手している。

観光協会(小金井市観光まちおこし協会)のホームページアクセスについては、平成29年にホームページをリニューアルした。約半年間アクセスできなかつたためにアクセス数が減少しているが、リニューアル前の平成28年度のアクセス数が約8万件であることから、今後増加を見込むことができる。今後も、市の観光施策の担い手である、小金井市観光まちおこし協会への支援を行うことにより、地域の活性化を図る。

施策分野11 工業

施策30 工業の振興

成果・活動指標	1事業所当たりの製造品出荷額等		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	3億1,100万円	維持	2億8,214万円

取組状況

成果・活動指標である1事業所当たりの製造品出荷額等は平成29年度時点では2億8,214万円であり、目標値に至っていない。

² 桜まつり、阿波おどり、お月見のつどいの来場者数の総数である。

商工会の工業振興施策に対する補助金の交付、武蔵野市、三鷹市及び小金井市の3市合同で武蔵野エリア産業フェスタの開催、また、環境系や研究開発型企业についてはベンチャーポート、生活関連型ビジネスについては東小金井事業創造センターK0-T0を活用し、企業の育成を行っている。しかしながら、中小企業・小規模事業者をとりまく環境や本市の特性等を踏まえると目標値を達成することは難しい状況である。

今後は中間支援組織である小金井市観光まちおこし協会のコーディネート機能の発揮を通して、工業のみならず、商業や農業、教育機関など異業種との連携により、付加価値を高めていく方策が必要である。

施策分野12 農業

施策31 農業基盤の確立

成果・活動指標	経営耕地面積		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	8,413a	維持	7,076a

取組状況

成果・活動指標である経営耕地面積は平成27年の農林業センサスでは7,076aであり、目標値に至っていない。

農地の保全のため東京都の補助事業を活用し、限られた農地において農業経営力を向上させるパイプハウス等の施設整備支援、宅地化農地を農業者から借上げ、市民農園整備を実施した。また、生産緑地法の改正に伴い市の生産緑地指定基準が緩和されたため、農家支部座談会にて積極的に周知を行った。しかしながら、相続等による農地の減少が進んでいる状況がある。

農業基盤の確立としては、援農ボランティア事業を開始したほか、担い手の確保・育成を目的とした認定認証農業者制度の周知を図り、意欲ある農業者の経営力を向上させる取組を実施した。

今後も、限られた農地を有効に活用する事業を実施し、農業経営力の向上を図るとともに、防災機能や商業、福祉との連携事業など農地の持つ多面的な機能を発揮させ、都市農地の保全、都市農業の振興を図り、経営耕地面積の減少を抑制していく。

施策32 農業との交流促進

成果・活動指標	市民農園・体験農園の面積		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	10,989㎡	12,489㎡	7,927㎡

取組状況

成果・活動指標である市民農園・体験農園の面積は平成29年度時点では7,927㎡であり、目標値に至っていない。

新たな農園の開設に向け、農家、農業委員会、JAに農園候補地の情報提供を呼びかけ、開設にあたっては、東京都の補助事業を活用している。毎年度1園程度開設しているが、閉園するところもあるため、増減が続いている状況がある。

その他、農業祭の開催や市報での庭先直売所の紹介など、都市農業の理解や関心を深める取組を実施している。また、地産地消や食育の観点から市内農産物を学校給食に積極的に導入する取組も進めている。

今後は、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の施行に伴い、生産緑地における民間企業や

NPO法人などの市民農園の開設についても積極的に推進し、農業を体験できる場所の充実を図っていく。

施策分野13 消費者生活・勤労者福祉

施策33 安全・安心な消費生活支援

成果・活動指標	消費者啓発活動への参加人数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	2,008人	2,650人	2,140人

取組状況

成果・活動指標である消費者啓発活動の参加人数は平成29年度時点では2,140人だが、平成30年度時点では2,710人で、目標値に至っている。

消費者行政推進交付金を活用し、市内の中学・高校と連携した消費者スクール、高齢者見守り協力者育成講座等を開催した。消費者スクールでは連携先となる中学・高校が増えているほか、消費者講座は開催回数が増えている。また、小金井市消費者団体連絡協議会と連携し、消費者の啓発につながる事業を多数行っている。

その他、消費生活相談員を配置し、相談対応を行っている。相談員のスキルアップのための研修機会として国民生活センターや東京都の研修も活用し、相談体制の充実を図っている。

今後も、成人年齢の引下げに伴う、若年者の消費者被害防止のための取組や、高齢化を踏まえた高齢者向けの講座を行っていく必要がある。

施策34 勤労者福祉の向上

成果・活動指標	勤労者福祉サービスセンター登録事業所数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	756事業所	702事業所	665事業所

取組状況

成果・活動指標である勤労者福祉サービスセンター登録事業所数は平成29年度時点では665事業所であり、目標値に至っていない。

サービスセンターにおいて新規会員紹介者及び入会者に記念品を贈呈しているほか、地域の実情に詳しいセンター役員とも連携を取ることで新規会員を募っている。福利厚生事業については、利用状況を勘案し、ニーズに合った事業となるよう見直し・改編を行っている。

様々な広報媒体を活用して周知を図っているところであるが、対象となる事業所が減少傾向にある中で登録事業所をいかに増やすかが課題である。

施策35 雇用機会の拡大

成果・活動指標	こがねい仕事ネットアクセス件数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	58,730件	72,900件	38,631件

取組状況

成果・活動指標であるこがねい仕事ネットアクセス件数は平成29年度時点では38,631件で、平成28年のサイトリニューアルとともにアクセス数のカウント方法が変更になったこともあり単純に比較はできないが、目標値に至っていない。

サイトリニューアルにより検索をしやすくしたことに加えて、事業者向け・求職者向けにこがねい仕事ネットを紹介するチラシを作成し、周知を図った。また情報の更新も頻繁になされるようになっているためアクセス数については今後の推移をみていく必要がある。

雇用機会の拡大については、都立職業能力開発センターや東京しごとセンター、ハローワークなどの外部機関と連携し、広報活動や講座等を開催している。また、障がいのある方に対しては、障害者就労支援センターが一般就労・福祉就労・定着支援を行っている。高齢者については、シルバー人材センターによる支援を継続しているところである。

今後も、引き続き、市報やホームページで広報を行う他、求職者向けのチラシを作成するなど、利用者増につながる取組を増やしていく。

3. 文化と教育

住民意識に基づく評価(満足度・重要度)

施策分野	満足度	重要度	満足度・重要度のマッピング
【平均】	0.12	0.76	
15.文化・芸術	0.16	0.76	
16.人権・平和・男女共同参画	0.09	0.51	
17.生涯学習	0.06	0.70	
18.スポーツ・レクリエーション	0.11	0.75	
19.学校教育	0.17	1.11	
コメント			
<p>施策の大綱レベル(文化と教育)では、総体としては、重要度が低めで、満足度は高い。</p> <p>施策分野で見ると、「文化・芸術」と「スポーツ・レクリエーション」は、平成26年度比、重要度、満足度ともに高くなっている。一方、「生涯学習」と「学校教育」は平成26年度比で重要度が低く、満足度が高くなっている。</p>			

施策分野15 文化・芸術

施策36 総合的な文化振興の推進			
成果・活動指標	市史の整備・刊行状況		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	1巻	6巻	4巻
取組状況			
<p>成果・活動指標である市史の整備・刊行状況は平成29年度時点で4巻であり、目標値に至っていない。市史編さん委員会に加えて、編集委員会議を立ち上げたことで、編纂作業が前進する結果を得た。それによって、平成30年度には目標の6巻を達成した。なお、平成29年度に再開発事業で発掘された遺跡の調査成果を反映できるよう編集を進めている。</p> <p>また、小金井市芸術文化振興計画については、本計画に基づき、アートNPOの活動や小学校と連携して子どもが創造的な活動を行えるような事業を行っている。市内公共施設との調整を図り、芸術文化活動の場の確保にも努めているところである。</p> <p>市史については、編纂終了後は生涯学習において活用を図るほか、市史編纂の過程で用いた史資料の保存についても検討する必要がある。また、その他文化振興の取組については、事業にかかる予算のほとんどを外部から調達している中で事業を発展させにくいという課題があり、検討を要する。</p>			
施策37 文化施設の効率運営			
成果・活動指標	市民交流センターの稼働率		

	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	84.4%	維持	85.1%
はけの森美術館の入館者数			
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	6,013人	6,000人	3,983人
はけの森美術館の来館者アンケート満足度割合³			
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	86%	90%	98%

取組状況

成果・活動指標である市民交流センターの稼働率は平成29年度時点で85.1%であり、目標値に至っている。

平成24年に市民交流センターが開館し、それ以降稼働率は高水準を維持している。また、平成27年度から導入したインターネット予約開始に併せて導入した利用者登録制度により、手書きによる申請が不要となるなど、手続きの簡素化にも取り組んでいる。さらに、自主事業の開催にあたっては保育施設向けの無料コンサートを実施するなど、利用者の満足度向上に努めており、加えて、市立小中学校や福祉施設に出向かたちでコンサートを行っている。

今後も高水準の貸館運営を継続するとともに、自主事業に関しては、近隣の類似施設との差別化を図る必要がある。

はけの森美術館については、指標となっている入館者数は平成29年度時点で3,983人であり、目標値に至っていない。一方、来館者アンケート満足度割合は平成29年度時点で98%であり、目標値に至っている。

来館促進のために、国・都・財団法人等からの補助金を活用し、新聞、雑誌等への広報活動や、夏の期間において雨の日の来館者に特典を配布するなどの取組を行った。所蔵作品展での集客だけでは目標達成は難しい状況であり、魅力ある企画展の開催は重要である。また、来館者満足度が高い背景には、展覧会の内容だけでなく、職員の接遇や館内の環境整備を通じて快適に鑑賞できるように工夫していることが挙げられる。

その他、市立小学校全校の鑑賞教室及び希望校の事前授業、それぞれの展覧会に関連した企画で行うワークショップや講演会を行っている。

今後の来館促進にあたっては、平成28年度に営業を再開した喫茶棟との連携や、茶室などの建物及び美術の森緑地のロケーションなどを一体とした魅力を引き出し、当地の美術館ならではの特色ある企画・運営及び建物の有効活用を行う必要がある。

施策38 文化交流の推進

成果・活動指標	国際交流事業の参加人数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	35人	296人	256人

取組状況

成果・活動指標である国際交流事業の参加人数は平成29年度時点で256人であり、目標値に至っ

³ はけの森美術館の来館者アンケート満足度割合における平成26年時点の数値は、平成25年度及び26年度の平均である。

ていない。

平成28年度より東京都との共催事業「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催するなど、毎年度開催する講座を徐々に増やしてきている。各講座の参加者数には年度によってばらつきがあるが、事業数の増加によって目標達成を目指している。

その他国際交流事業としては、国際交流連絡会を開催し、情報交換を行い、連携してイベントを開催するなど、様々な交流機会をつくっている。また、都市間交流として三宅村との連携を図っており、青少年自然・文化体験交流事業in三宅や小金井なかよし市民まつりに三宅村訪問団の招待等を行っている。

今後も連携先を模索し、交流事業を増やしていくとともに、参加者層を想定し、参加しやすい時期に開催するなどの工夫を行っていく。

施策分野16 人権・平和・男女共同参画

施策39 人権・平和に関する施策の推進

成果・活動指標	平和・人権に関する事業に対する参加者数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	165人	900人	629人

取組状況

成果・活動指標である平和・人権に関する事業の参加者数は平成29年度時点で629人であり、目標値に至っていない。

例年事業を行っており、平成28年度には893人まで伸びていたが、平成29年度は人権週間における人権啓発行事の実施方法を見直したことに伴い、参加者総数が減少した。平和に関する事業としては、戦争体験者が高齢となり、戦争の悲惨さを語り継ぐことが難しくなっていることに鑑み、戦争の記憶を風化させないためにも、戦争体験者を戦争体験の語り部として登録する戦争体験者登録制度を立ち上げた。

このほか、月に1回、人権擁護委員による人権身の上相談を開催したほか、人権週間等に合わせた特設相談を開催している。

今後、多くの市民参加を推進するためには、より市民の関心が高い内容を検討する必要がある。

施策40 男女共同参画の推進

成果・活動指標	審議会などへの女性の参画率		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	35.4%	50.0%	32.7%

取組状況

成果・活動指標である審議会などへの女性の参画率は平成29年度時点で32.7%であり、目標値に至っていない。

行政委員会及び審議会等における女性委員の登用状況調査を実施し、結果を周知するとともに、審議会等委員を選出する際には、男女比率に配慮することを関係各課に働きかけている。その他、市民向けに女性の働き方やキャリアをテーマにした講座を行うほか、カウンセラーによる女性総合相談を実施している。

また、ワーク・ライフ・バランスの観点から、市長、理事者、部長職者がイクボス宣言を行ったほか、男性の育児に対する意識啓発の機会を設けている。さらに、DV根絶を目的として、様々な媒体やネットワークを活用し、啓発及び相談先の周知を図った。

今後、審議会への女性の参画を進めていく上では、引き続き女性委員の登用を庁内で促し、意識啓発を行っていく必要がある。

施策分野17 生涯学習

施策41 活動の場の充実

成果・活動指標	図書館における住民1人当たり図書貸出冊数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	7.0冊	8.6冊	7.6冊
	公民館の平均稼働率		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	62.6%	67.8%	63.8%

取組状況

成果・活動指標である図書館における住民1人当たり図書貸出冊数は平成29年度時点で7.6冊であり、目標値に至っていない。

図書館については分室、図書室の開館日数を増やし、開館時間を延ばすことによって平成28年度までは貸出冊数は約8冊に至っていた。しかしながら、平成29年度は図書館本館の設備工事のため4か月間の臨時休館があったため、貸出冊数が減少する結果となった。

今後は、平成29年度末に図書館協議会受けた答申「小金井の図書館の在り方について」を踏まえ、図書館運営方針の改訂を行い、図書館の今後の在り方について中期的な方針を示す必要がある。

公民館に関しては、成果・活動指標である公民館の平均稼働率は平成29年度時点で63.8%であり、目標値に至っていない。

しかし平成26年には、市内北西部に図書館、公民館を中心とした複合施設として貫井北センターを開設し、貫井北分館の利用率は顕著に上昇している。分館の一部ではNPO法人に運営を委託しており、その結果、NPOの特性を活かした視点・発想での講座の開設や社会的課題に対応する講座を実施できている。また、市が運営する公民館においても休日や夜間に講座を開催したり設備を充実させることで、利用しやすい環境となっている。

今後は、小金井市公民館の中長期計画を策定し、計画に基づき、誰もが気軽に立ち寄り、自由に学べる機会の提出の拡大に努めるとともに、地域課題の解決につながる学びや活動を支援する機能を強化していく必要がある。

施策42 生涯学習活動の推進

成果・活動指標	放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	9件	維持	9件
	社会教育関係団体登録数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	113団体	125団体	115団体

取組状況

成果・活動指標である放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数は平成29年度時点で9件であり、目標値に至っている。

全ての小学校区で推進委員会を設置し、各校での放課後子ども教室について、推進委員会で意見を出し合い調整しながら運営できている。委員の資質向上のため、三市・学芸大連携による研修的な講座も実施している。

また、学校以外においても、公民館等において多様な世代が参加しやすい事業を多数実施している。さらに、大学と連携した三市・学芸大連携講座も実施している。

放課後子ども教室については、今後も現状を維持しながら、学校関係者、学童関係者を招き、連携を深め、放課後の児童の安全安心な居場所づくりについて、更に内容を充実していく。その他の生涯学習機会については、市民のニーズを把握するとともに、効果的な情報発信について検討する必要がある。

社会教育関係団体登録数については、平成29年度時点で115団体であり、目標値に至っていない。

市報等によって社会教育関係団体の制度について周知を図っているが、増減がある状況である。今後は、ホームページ等を活用した情報発信の仕方を検討し、社会教育関係団体の制度について周知を図るとともに、団体登録の意義についても広めていく必要がある。

情報発信については、その他、市ホームページに生涯学習情報コーナーを設けるとともに、庁舎内生涯学習コーナーにパンフレット等の設置、市報での情報発信などを行っている。今後は更なる情報発信の手法について検討する必要がある。

施策分野18 スポーツ・レクリエーション

施策43 スポーツ・レクリエーション活動の支援

成果・活動指標	スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数		
	平成26年度時点 ⁴	目標値	平成29年度時点
	15,354人	21,200人	16,336人

取組状況

成果・活動指標であるスポーツ教室・スポーツ大会の参加者数は平成29年度時点で16,336人であり、目標値に至っていない。

市民体育祭やシニアスポーツフェスティバル、市民スポーツレクリエーション、野川駅伝大会などの大きな事業のほか、定期的なスポーツイベントの開催を行っている。また、東京2020オリンピック・パラリンピック推進事業も実施している。その他、NPO法人と連携した事業や、大学と連携した事業も実施している。また、スポーツ推進委員や体育協会の加盟団体などのスポーツ関係団体とも情報共有を図るとともに、資質向上の機会をつくっている。

今後、より多くの参加を得るためには、教室開催後のアンケートを分析することでニーズに合った事業を開催するとともに、既存事業をよりよいものにしていくことが必要である。また、申し込みを簡便にするなどの工夫も行っていく。

施策44 スポーツ・レクリエーション施設の活用

成果・活動指標	体育施設の利用者数
---------	-----------

⁴ 「スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数」は、同じ指標が前期基本計画にも設定されているが、参加者数の集計方法が異なるため、後期基本計画での初期値を記載した。

	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	429,214人	568,200人	532,073人
取組状況			
<p>成果・活動指標である体育施設の利用者数は平成29年度時点で532,073人であり、目標値に至っていない。</p> <p>指定管理者による教室等の実施により、利用者が増加している。また、市テニスコート場については、7面使用再開が周知され、定着したことにより、利用人数が増加している。</p> <p>スポーツのための施設活用としては、小学校3校、中学校1校を活用し、「スポーツ個人利用開放校」事業を継続実施している。指導員を配置し、スポーツ経験の有無にかかわらず気軽にスポーツを行うことができる機会を提供している。また、中学校では1校にてテニスコートの夜間開放も行っている。さらに、市内専門学校の施設の開放についても覚書を締結することで、市民に開放している。その他、近隣自治体とも施設の共同利用を行っている。</p> <p>今後は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が近づいていることから、大会に向けた機運の高まりを施設利用につなげられるよう情報発信に努める必要がある。</p>			

施策分野19 学校教育

施策45 教育内容・教育方法の充実			
成果・活動指標	授業の内容がよく分からない児童・生徒の割合		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	小学校 15.6%	小学校 10.6%	小学校 15.8%
	中学校 25.0%	中学校 20.0%	中学校 29.2%
	よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
小学校 53.9%	小学校 63.9%	小学校 54.6%	
中学校 39.3%	中学校 49.3%	中学校 47.4%	
取組状況			
<p>成果・活動指標である授業の内容がよく分からない児童・生徒の割合は平成29年度時点で小学校では15.8%、中学校では29.2%であり、目標値に至っていない。</p> <p>児童・生徒の「確かな学力」の育成につながるように、講師を招いた授業研究や教員の経験、役割及び職層に応じた研修の機会を設定し、教員の授業力の向上を図った。また、ALTや理科支援員などの外部教員に代わって、中学校においては部活動の外部指導員を配置することで、教育の質の向上とともに教員の負担軽減を図った。</p> <p>特別支援学級においても、教員の研修機会をつくるとともに、特別支援学級介助員の配置を行い、体制強化を図っている。</p> <p>今後は、増加傾向にある若手教員の授業力向上を図るとともに、新学習指導要領の導入に伴ってベテラン教員のフォローも行う必要がある。</p> <p>よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合については、平成29年時点で小学校では54.6%であり目標値に至っていないが、中学校では47.4%と概ね目標値に至っている。</p> <p>ボランティアカードを毎年小学校5・6年生及び中学校1～3年生に配布し、活動の日付や活動内容を記録できるようにすることで、ボランティアのきっかけづくりにつなげるなど意欲の向上を図った。ま</p>			

た、小金井市児童・生徒表彰において、ボランティアに取り組んだ学校を表彰したことが児童・生徒の意識の高まりにつながっている。また、教員に対しても意識啓発を行っている。

施策46 学習環境の整備・充実

成果・活動指標	学校の教育用コンピュータ1校当たりの台数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	小学校 20台/校 中学校 40台/校	小学校 50台/校 中学校 60台/校	小学校 20台/校 中学校 40台/校

取組状況

成果・活動指標である学校の教育用コンピュータ1校当たりの台数は平成29年度時点で小学校では20台/校、中学校では40台/校であり、目標値に至っていない。

次期学習指導要領への対応を含め、学務課、指導室及びICT検討委員会で、平成30年度の予算措置にかかる検討を行った。目標達成のためには、教育用コンピュータの台数を整備することによって、コンピュータ教室の有無も含めた全般的な検討が必要である。

その他、学校公開や学校運営連絡会を実施することで開かれた学校づくりを進めている。また、学校施設・設備の長期的視点での改修・更新のための準備なども行っている。

さらに就学機会を確保するため、高校生・大学生への給付型奨学金制度を維持している。

施策分野20 幼児教育

施策47 幼児教育の充実

成果・活動指標	幼稚園児の保護者補助及び就園奨励費助成の実施率 ※辞退者等を除く。		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	100%	100%	100%
認定こども園の設置数	認定こども園の設置数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	1園	1園

取組状況

成果・活動指標である幼稚園児の保護者補助及び就園奨励費助成の実施率は平成29年度時点で100%であり、目標値に至っている。

幼児教育無償化に向けた段階的取組を国、東京都及び本市においても実施し、保護者の経済的負担軽減を図ることができた。今後も国、東京都及び本市ともに、幼児教育無償化に向けた取組を段階的に実施する。

認定こども園の設置数については、平成29年度時点で1園であり、目標値に至っている。

従来の国庫補助に加え、東京都の補助も活用し更なる補助を交付したことにより、平成29年に市内初となる認定こども園が開園した。今後は、安定した運営のため、公定価格を含む各種補助金等による経済的な支援、指導検査等を通じての運営的な支援を行っていく。

幼児教育については、この他、プレママ・パパ、プレバーバ・ジージ向けの講座、乳幼児を対象とした教室や保護者の交流機会の提供、また相談対応を行うことで、家庭における幼児教育の充実を図っている。

5. 計画の推進

住民意識に基づく評価(満足度・重要度)

施策分野	満足度	重要度	満足度・重要度のマッピング
【平均】	-0.23	0.99	
26.市民参加・市民協働	0.13	0.76	
27.行政経営	-0.12	0.90	
28.計画的行政	-0.43	0.97	
29.財政・財務	-0.48	1.31	
コメント	<p>「計画の推進」としては、重要度は低めで、満足度は最も低い。 施策分野で見ると、「市民参加・市民協働」で満足度が正だが、その他は負であり、また「財政・財務」、「計画的行政」は特に満足度が低い。「財政・財務」は重要度も高く、課題となる。</p>		

施策分野26 市民参加・市民協働

施策63 市民ニーズの把握と共有化			
成果・活動指標	市民意向調査を踏まえた計画の割合		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	45.0%	100%	100%
取組状況			
<p>成果・活動指標である市民意向調査を踏まえた計画の割合は平成29年度時点で100%となっており、目標値に至っている。</p> <p>行政計画を策定する際には、アンケート調査やパブリックコメントを実施するようにしている。対象となる平成29年度中に策定した計画は6つの計画であり、いずれもパブリックコメントを実施している。また「市民の声」を随時ホームページ等で募集し、例年300件程度の応募をいただいている。その他、施策に反映させるため、分野ごとに多様な市民ニーズを的確に把握し、各種市民意向調査や「市長への手紙」などを必要に応じて実施して、共有化を図っている。また、日常の業務にいかすため、各種相談などの広聴活動を充実するとともに、市長へのEメール・ファクス等で寄せられる幅広い市民からの意見・要望を把握し、共有化を図っている。</p> <p>今後は、市民参加推進会議での報告及び全庁に実施状況を広報することで市民意向調査の高い実施率の維持に努めていく。なお、このような取組は今後も継続する予定ではあるものの、「平成30年度小金井市市民意向調査」では、市への請願・要望、パブリックコメントを行ったことがある人は4.9%であった。参加意向を持つ人が24.5%であることから、より多くの意見を聴取できるよう工夫が必要である。また、アンケート調査についても回収率の更なる向上が求められる。</p>			
施策64 分かりやすい情報発信と適正な情報管理			

成果・活動指標	市ホームページの年間アクセス件数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	約290万件	370万件	369万件

取組状況

成果・活動指標である市ホームページの年間アクセス件数は平成29年度時点で369万件となっており、概ね目標値に至っている。

平成27年度にホームページをリニューアルしたほか、市報掲載時におけるホームページ掲載の徹底及びツイッター運用拡充に伴い、これまで以上に利便性が向上し、情報発信ツールとしての役割を高めたことが一因として考えられる。また、平成30年度には、シティプロモーション基本方針を策定し、今後の情報発信の方向性を定めた。その他、市民参加による開かれた市政を一層推進するため、市民との共有財産である市政情報を市民が主体的に利用できるよう、分かりやすい市政情報の適時・適確な提供に努めた。

今後は、掲載記事の作成において、音声読み上げツールを正しく機能させるためのルールを徹底する。また、アクセシビリティ向上のためのガイドラインの作成も検討する。なお、「平成30年度小金井市市民意向調査」では、市の情報を得る媒体として約9割の人が市報を選んでいる一方、市のホームページは15.4%であった。30～50歳代でも2割前後であることから、より一層活用を促進する必要がある。

施策65 市民参加の推進

成果・活動指標	審議会などにおける公募市民の割合		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	15.7%	30.0%	23.2%

取組状況

成果・活動指標である審議会などにおける公募市民の割合は平成29年度時点で23.2%となっており、平成20年度よりも増加しているものの、目標値には至っていない。

平成28年度以降23%前後で推移しており 全庁を挙げた取組を続けている。一つは、審議会での公募市民を募る方法として、無作為で抽出した市民に対し、案内状を送付する方法を庁内で周知した。さらに若い世代の参加が少ないことを踏まえ、18歳から39歳の市民を対象として無作為抽出することも試みている。

第6期市民参加推進会議において、若者の参加拡大を念頭に置きつつも、より広範な市民参加を促すべく、地域課題等を議論するワークショップの実施とフィードバックを提言された。第7期同会議では、ワークショップの活用について提言され、そこへの参加をきっかけに、市政への興味関心を持ち、市民参加が促進されるよう、働きかけをしていく。なお、「平成30年度小金井市市民意向調査」では、市の審議会等の委員会として活動することを志向する人は15.7%であることから、無作為抽出による案内状の送付を継続することで審議会の周知を図るとともに、若者の参加を促す方法を検討する必要がある。

施策66 市民協働の推進

成果・活動指標	市民協働研修への市職員の参加人数		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	27人	53人(平成26年度時点)を維持	57人

取組状況

成果・活動指標である市民協働研修への市職員の参加人数は平成29年度時点で57人である。平成20年度よりも増加しており、後期基本計画策定時の現状値53人よりやや多く、目標値に至っている。

協働推進基本指針に基づいて、市職員への市民協働研修などを実施し、対等性・自主性の尊重、相互理解、役割分担・責任の明確化、目的・目標の共有化を原則として、市民活動団体・NPO・企業・大学などの協働を推進する。例年、職員に対して、外部講師を迎えた協働に関する研修と市内NPO法人に職員が赴いて研修を受けるNPO法人派遣研修を行っている(いずれも年1回ずつ)。それらを通じて市民協働の意識向上を図るとともに、協働先となるNPOの実態を認知する機会としている。

NPO法人派遣研修については、対象職員の業務都合と団体側の受入日程の調整が難しく、市民協働支援センター準備室を通して団体側と密な連絡調整を行っていく必要がある。また、外部講師による研修については、より多くの職員が市民協働の内容を理解できるように市民協働支援センター準備室と協力して講師を選定し、効率的な研修を行っていく。なお、市民活動団体などと市との協働によるまちづくりを推進するため、(仮称)市民協働支援センターの整備を検討していく。

施策分野27 行政経営

施策67 自律した行政経営の推進

成果・活動指標	(仮称)第4次行財政改革大綱の達成率(平成28年度～令和2年度) ⁵		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	80%	65%

取組状況

成果・活動指標である行財政改革プラン2020((仮称)第4次行財政改革大綱)の行動計画であるアクションプラン2020の達成率は、平成29年度時点で65%となっている。策定から2年間での達成率であり、第4次後期基本計画の終了年度(令和2年度)には80%の達成する見込みである。

行財政再建推進本部において、アクションプラン2020に掲載されている実施項目の進行管理を行っている。平成29年度の取組項目に対する進行管理を行ったところ、「計画を超えて達成」及び「計画どおりに達成」が117取組項目中76項目となった。同プランは、行財政再建推進本部による進行管理を行い、計画通り進捗していない事業については改善事項を明確にしている。また、行財政改革市民会議による進捗チェックも行っている。

システムとしての定着が課題であり、また検討結果等が不分明な取組があると行財政改革市民会議から指摘されているのを踏まえ、適宜進行管理シートの見直し等を行う。なお、「平成29年度市の財政状況」では、経常収支比率⁶94.3%であり、経常収支比率90%未満という行財政改革プラン2020の目標には達しておらず、今後も継続した取組が必要である。

⁵ 施策67「自律した行政経営の推進」は、前期基本計画にも位置づけられていたが、当時は第3次行財政改革大綱に基づいて取り組んでおり、指標も同大綱の達成率であった。なお、前期基本計画終了時(平成27年度)の達成度は同大綱の達成率は74.0%であり、目標値80%に概ね至っていた。

なお、(仮称)第4次行財政改革大綱は「行財政改革プラン2020」という名称となっており、以後、その名称を用いる。

⁶ 市税など経常的に入ってくる収入が、義務的で固定的に支出される経費(人件費・扶助費・公債費など)にどれだけ使われているかを示したものの。数値が低いほど、財政の弾力性・自由度があるとされる。

施策68 組織の活性化と人材の育成・活用

成果・活動指標	職員の研修への参加率		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	62.5%	90%	82.1%

取組状況

成果・活動指標である職員の研修への参加率は平成29年度時点で82.1%となっており、目標値に至っていない。

第2次小金井市人材育成基本方針に基づき実践的な独自研修を計画的に実施している。平成29年度は新たに「女性キャリア支援研修Ⅱ」(参加者10人)、「説明力向上研修」(参加者19人)を実施し、職層別に応じた研修の充実を図った。全研修では年度を通じて、受講対象者705人のうち579人が研修に参加した。研修参加のハードルを下げるため、開催日程等の工夫を行うことで、参加しやすさを向上した。また、実践的な職員研修制度づくりの一環として、施策や事務事業等に関して職員が創意工夫による提案を行い、これを実施し、職務意欲及び市民サービスを向上させることを目的とした職員提案制度(平成28年度)や調査・研究等を自発的に行う小金井市の職員で構成するグループを組織し、その活動を支援するこがねいあした研究所制度(平成28年度及び平成29年度)を実施した。平成30年度からは、行財政改革の推進に向けた職員の意識改革を目的として、職員一人ひとりが日々の業務等の改善策を自ら発案して市民サービスの更なる向上、業務の効率化等を図る改善改革運動を試行実施している。

人材育成では、人材育成基本方針に基づき、市民協働意識・チャレンジ精神・プロ意識・コスト意識を持つ職員の育成及び活用を計画的に推進している。

研修修了報告書等から受講後職員の意見要望を取り入れ、次年度以降の研修内容に反映させていく。引き続き、次世代育成支援・女性活躍推進に寄与する効果的な研修内容の検討が課題である。令和元年度に、第2次人材育成基本方針を改訂し、実態に即した研修やキャリアデザインを構築するための方策を検討することで、職員の自己研鑽を促進していく。

加えて、行財政改革の中で、応援体制の整備、組織体制の見直し、プロジェクトチームの活用、政策課題の解決や業務量の増減に対応した定員管理計画による重点配置等を進めてきたところである。今後も、組織体制の見直しや重点配置等を進めていく必要がある。

施策分野28 計画的行政

施策69 計画とマネジメントの整備

成果・活動指標	第4次基本構想・後期基本計画の目標達成率(平成28年度～令和2年度)		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	—	80%	25.2%

取組状況

成果・活動指標である第4次基本構想・後期基本計画の目標達成率は平成29年度時点で25.2%である。策定から2年間での達成率であり、今後目標値80%を目指していく。

PDCAサイクルの確立により施策を着実に推進するため、施策マネジメントを実施しているところであり、平成29年度末で目標を達成している指標は107項目中27指標、全体に占める割合は25.2%となっている。

主な取組として位置づけられている新庁舎の建設については、建設に向けた具体的な取組に着手しているところである。公共施設マネジメントについても、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定しており、取組を始めている。その他、公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進の前提として市としてあるべき行政サービスの水準を検討することとあわせ、公共施設等の数・延べ床面積等に関する目標やトータルコストの縮減・平準化に関する目標などの定量化についても検討した。また、インフラ長寿命化計画等を参考とし、公共施設マネジメントの基本原則の適用範囲に道路・橋りょう等のインフラ施設を加える等、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する市の基本的な方針を定めた。

基本計画の財政的裏付けである中期財政計画に基づいて直面する課題に対応するため、具体的な事業の事業費と事業年度を明らかにした実施計画を策定し、継続的に見直しを行うことにより、事業の選択と集中を図り、効率的かつ効果的な行政運営を推進した。また、10年間の長期財政見通しを策定し、長期的視点を踏まえた財政運営に努めた。まち・ひと・しごと創生総合戦略については、毎年度、推進委員会による評価を行い、計画的な推進に努めた。

今後、これらの取組を着実に推進するとともに、個々の施策に対して評価と改善を行うことで、計画終了時における目標達成を目指す。なお、第4次基本構想・後期基本計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略は重複する部分が多いことから、第5次基本構想・前期基本計画では統合を図る予定としている。

施策70 広域行政の推進

成果・活動指標	市外三市の図書館(四市共同利用対象施設)の小金井市民利用登録者件数		
	平成26年度時点	目標値	平成29年度時点
	18,177件	24,000件	25,263件

取組状況

成果・活動指標である市外三市の図書館(四市共同利用対象施設)の小金井市民利用登録者件数は平成29年度時点で25,263件となっており、目標値に至っている。

内訳は、武蔵野市20,110件、三鷹市4,260件、西東京市893件となっている。特に、武蔵野市利用登録者件数が平成28年度と比較して約1,200件増加した。図書館利用の促進のほか、災害対策に東京都及び近隣自治体との連携・協力を図っているところである。なお、生活圏の拡大に対応し、また、事業の効果・効率・実現性及び市民の利便性を高めるため、大規模震災などの災害対策、環境問題、自治体クラウドなど情報システムの共同開発・共同利用や公共施設の相互利用などについて、広域行政による推進を検討している。

図書館については目標値に至っているものの、更なる利用を促していく余地があるため、周知に取り組む。

施策分野29 財政・財務

施策71 安定した財政運営の確立

成果・活動指標	経常収支比率		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	96.5%	80%台後半	94.3%

取組状況

成果・活動指標である経常収支比率は平成29年度時点で94.3%である。平成26年度(94.5%)より改善しているが、目標値に至っていない。

平成29年度は94.3%となり、平成26年度からは0.2ポイントの減となった。しかし、前年度(平成28年度)の92.7%からは、1.6ポイントの増となった。歳入確保の取組を推進し、受益者負担・給付水準の適正化を図るとともに、あらゆる事業において最少の経費で最大の効果を得ることを念頭に歳出抑制を図っている。また、公民連携アウトソーシングを推進し、補助金等の見直しを図っているところである。それらの結果、財政調整基金の残高は約26億円となった。

また、平成29年9月に策定したアクションプラン2020については、行財政再建推進本部での進行管理及び行財政改革市民会議での進捗チェックを実施し、全庁一丸となって確実に取組を実施していく。

なお引き続き、中長期的展望に立って、中期財政計画に基づいた財政運営を推進し、必要な財源の確保や基金の積立を図る。また、徹底した歳入の確保及び歳出の適正化等の行財政改革の推進を図ることにより、財政の健全化を推進し、財政指標の改善に努めていく。

施策72 歳入の安定

成果・活動指標	市税収納率の向上		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	95.9%	97.7%	99.1%

取組状況

成果・活動指標である市税収納率は平成29年度時点で99.1%となっており、目標値に至っている。目標である収納率97.7%を上回り、市税徴収率・国民健康保険税収納率ともに改善した。また、現年度の未収入額が減少し、滞納繰越額も圧縮した。徴収体制、滞納整理の強化・進捗状況の管理を行い、収納率の向上を図った。具体的には、法令に基づく適正な課税業務を行うとともに、滞納者への対応については自動音声による電話催告を導入し、文書催告や訪問との相乗効果も含め、滞納税額の圧縮ができた。そのほか、受益者負担の適正化や、未利用財産の売却促進や資産の有効利用、ふるさと納税の促進を行うことで歳入確保に努めた。今後、地方の役割が増大する中で、将来的にも持続可能な財政基盤を確立するため、駅周辺のまちづくりなど都市基盤整備事業を推進し、法人市民税や固定資産税の増収など税収構造の改善を図る必要がある。また、広告料収入の拡充等、様々な手法を活用して新たな財源確保に努めた。

今後も円滑に業務を進め、市民の利便性に寄与するとともに、収納率の維持・向上及び収納コストの削減に取り組む必要がある。具体的には、これまでの取組を継続するとともに、市の資産活用や行政によるクラウドファンディング⁷など、歳入確保のための方法について検討していく必要がある。

施策73 歳出の適正化

成果・活動指標	人件費比率		
	平成20年度時点	目標値	平成29年度時点
	22.0%	26市平均以下	15.2%

取組状況

⁷ インターネット等で資金を募り、不特定多数の人が財源の提供や協力などを行うこと。近年、民間による資金調達方法として浸透してきたが、行政においても有効であるとの意見もある。

成果・活動指標である人件費比率は平成29年度時点で15.2%である。平成29年度の26市平均は14.2%であることから、平成26年度時点から1.4ポイント減少しているものの、目標値には至っていない。

第4次基本構想の計画期間中は、職員数及び職員給の削減に努めてきた。また、学校施設管理や学童保育の運営などを委託することで民間活力の活用によるコスト削減にも取り組んできた。また、経常的な取組としては、財政の健全化に向けて、経常経費の削減や執行管理の適正化などに努め、経常収支比率をはじめ各種の財政指標を改善している。その他、負担金補助及び交付金(各種負担金、分担金、補助金など)の必要性・費用対効果を定期的に検証し、透明性を高めるとともに、適正化を図る。加えて、公会計制度・財政健全化法に基づく連結財務書類・財政指標により、企業会計的手法を取り入れた財務情報の有効活用を図り、連結対象団体も含めた健全な財政運営に努める。

平成30年度には公民連携アウトソーシング基本方針を策定しており、同方針に基づく公民連携を積極的に進め、一層の人件費率の低減に努める必要がある。

市民懇談会について

1 概要

「市民懇談会」とは、第5次小金井市長期計画審議会が主催となつて行う、第5次小金井市基本構想（素案）の中間報告会です。

市のホームページなどで市民を始めとする様々な方へ参加を呼びかけ、集まった人に向けて、本審議会でもとめた第5次小金井市基本構想（素案）について説明し、広く意見を聴取するために開催します。

2 日時

（第1回） 令和元年11月〇日（〇） 午前〇時〇分～午後〇時〇分

（第2回） 令和元年11月〇日（〇） 午前〇時〇分～午後〇時〇分

3 会場

（第1回） ○○○○

（第2回） ○○○○

4 出席委員

（1） 長期計画審議会委員は、第1回及び第2回の両方にできるだけ出席する。（起草委員会のグループ内で、各回最低でも2人以上は出席する。）

（2） 会長は、両方に出席する。

5 主な内容

（1） 会長・事務局による説明

（2） 起草委員による「政策の取組方針」の説明

（3） 起草委員による市民からの意見の聞き取り